

2026年度
現代英語学科
シラバス

■目次

1.	1年生教育課程(カリキュラムマップ)	3
2.	1年生カリキュラムツリー	4
3.	1年生 年間予定表	6
4.	1年生 シラバス	8

開講科目	頁
日本語表現法	8
心理学	9
Critical Thinking	11
情報処理	13
数理リテラシー	14
Oral Communication I	16
Oral Communication II	20
Listening I	24
Listening II	28
Reading I	32
Reading II	38
Grammar I	42
Grammar II	46
Speaking Skills I	49
Speaking Skills II	51
Extensive Reading	53

開講科目	頁
Chorus English	55
Vocabulary Building	57
海外研修	58
海外研修(個人)	59
ビジネスプロトコール	60
秘書実務	62
ホスピタリティ論	64
フランス語 I	66
キャリア形成演習 I	68
キャリア形成演習 II	70
基礎ゼミ	72
TOEIC I	73
STEP I	75
TOEIC II	77
STEP II	79

5.	2年生教育課程(カリキュラムマップ)	82
6.	2年生カリキュラムツリー	83
7.	2年生年間予定表	84
8.	読み替え対応表	86
9.	2年生 シラバス	87

開講科目	頁
World Mythology	87
歴史と文化	89
法律入門	90
現代の社会	92
Oral Communication III	94
Oral Communication IV	98
Listening III	100
Listening IV	102
Reading III	104
Reading IV	107
Business Communication	109
Essay Writing	110
Business Writing	112

開講科目	頁
English for Tourism	114
English through Plays	116
英米文学概論	118
英語史概論	120
Teaching English to Children	122
British Studies	123
American Studies	125
International Studies	126
観光ビジネス論	128
フランス語 II	130
TOEIC II	132
STEP II	134

7.	ナンバリング	137
8.	学科教員一覧	142
9.	実務経験を有する教員一覧	142
10.	オフィスアワー、成績評価	143

現代英語学科

1年生

(2026年度入学生)

- 教育課程（カリキュラムマップ）
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス

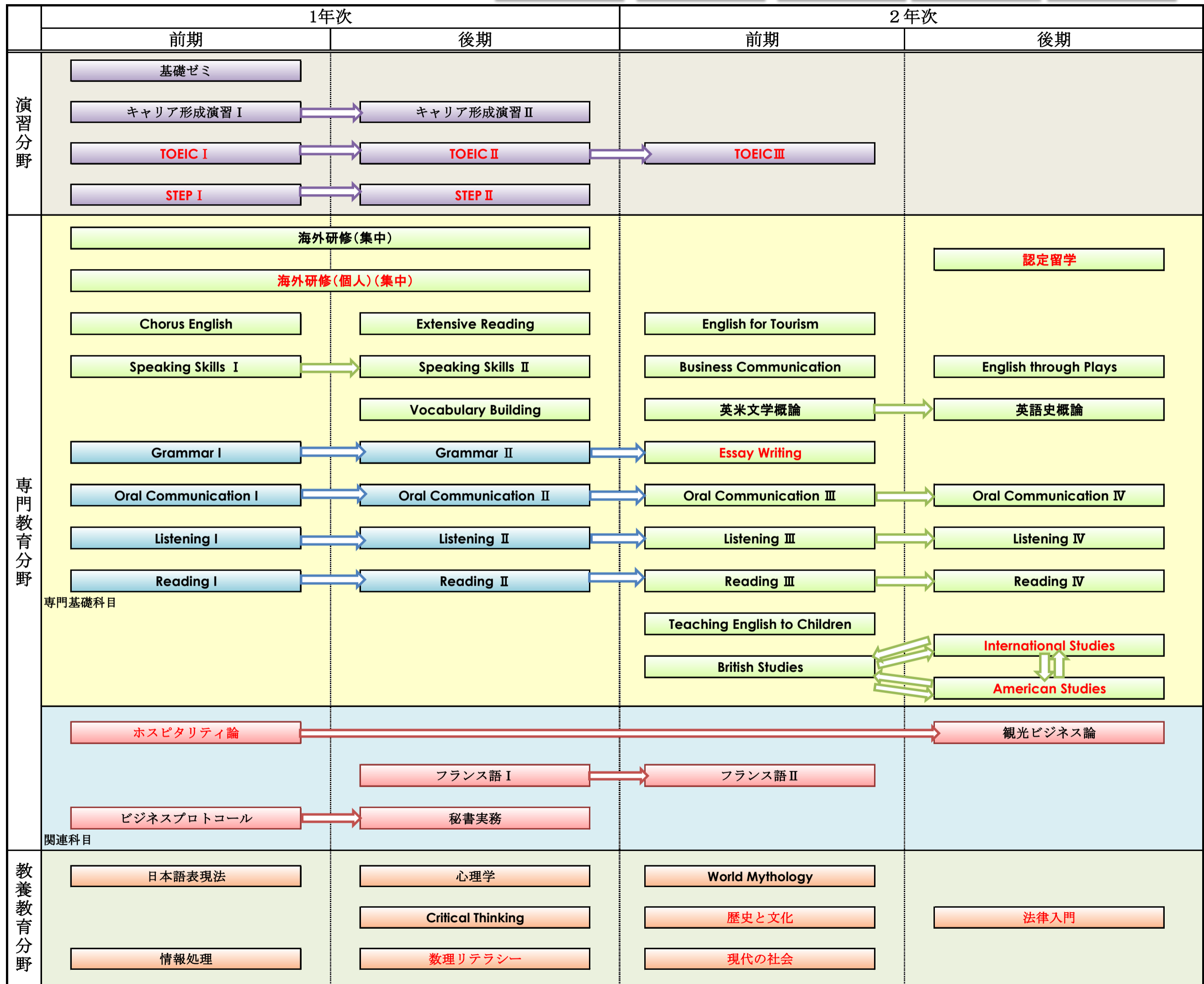
学修成果（到達目標）

- 1 **【基礎力】**「話す」「聞く」「読む」「書く」の英語4技能を身につけ、英語コミュニケーション能力を高めることができる（CEFR - B1レベル程度）。
 - ① 身近な話題に関して対応できる英語力を身につけている。
 - ② 他者の考えを理解し、自分の考えを表現できる。
- 2 **【実践力】**基礎力で培った英語コミュニケーション能力を基に、実用的英語運用能力を身につけ、自立した英語使用者として行動することができる。
 - ① 英語母語話者と臆せずコミュニケーションができる。
 - ② 多角的に物事を捉え、自分の考えを表現できる。
- 3 **【人間関係力】**コミュニケーション能力、豊かな人間性及び基礎的なビジネス実務能力を身につけ、他者と良好な人間関係を築くことができる。
 - ① 社会や職場に必要なコミュニケーション能力を身につけている。
 - ② 基本的なプロトコルやビジネス実務能力を身につけ、実践することができる。
- 4 **【生涯学習力】**生涯にわたり学び、成長し続けることができる。
 - ① 生涯にわたって課題を発見し、解決する力を身につけることができる。
 - ② グローバル社会において様々な変化に応じ、生涯を通じて自分を成長させることができる。
- 5 **【地域理解力】**多様な社会・文化を理解することができる。
 - ① 自国の歴史・文化・社会・経済について理解し、異文化間コミュニケーションに役立てることができる。
 - ② 様々な地域の文化・社会を知り、それぞれの価値観に対応して調和と共生を積極的に図る。

学修成果 : 1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力
学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。 ●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

現代英語学科 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次・学修成果										単位数						
			1年					2年					必修	選択					
			前期	後期	学修成果					前期	後期	学修成果							
		1	2	3	4	5			1	2	3	4	5						
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●		●									1		
		World Mythology	15							○					●	●	2		
		歴史と文化	15							○					●	●	2		
	人間と社会	心理学	15		○			●	●									2	
		法律入門	8								○	●			●		1		
		現代の社会	8							○	○	●				●	1		
		Critical Thinking	15		○		●	●		●							2		
	人間と科学	情報処理	15	○		●											1		
		数理リテラシー	8		○	●											1		
専門教育分野	専門基礎科目	Oral Communication I	15	○		●	●										1		
		Oral Communication II	15		○	●	●										1		
		Listening I	15	○		●	●										1		
		Listening II	15		○	●	●										1		
		Reading I	15	○		●	●										1		
		Reading II	15		○	●	●										1		
		Grammar I	15	○		●	●										1		
		Grammar II	15		○	●	●										1		
	専門展開科目	Oral Communication III	15							○			●			●	2		
		Oral Communication IV	15								○		●	●		●	2		
		Listening III	15							○			●			●	2		
		Listening IV	15								○		●			●	2		
		Reading III	15							○			●			●	2		
		Reading IV	15								○		●			●	2		
		Business Communication	15							○	○		●	●			2		
		Essay Writing	15							○		●	●				2		
		Speaking Skills I	15	○			●	●									2		
		Speaking Skills II	15		○		●	●									2		
		Extensive Reading	15		○	●	●										2		
		English for Tourism	15							○			●			●	2		
		Chorus English	15	○		●	●										2		
		English through Plays	15								○		●			●	2		
		英米文学概論	15							○			●			●	2		
		英語史概論	15								○		●			●	2		
		Vocabulary Building	15		○	●	●										2		
		Teaching English to Children	15							○			●	●	●		2		
		British Studies	15							○		●				●	2		
		American Studies	15								○	●				●	2		
	International Studies	15								○	●				●	2			
	海外研修	集中		○	●	●	●	●	●							2			
	海外研修(個人)	集中		○	●	●	●	●	●							1			
	認定留学	集中								○	●	●	●	●	●	4			
	関連科目	ビジネスプロトコル	15	○			●	●									2		
		秘書実務	15		○		●	●									2		
		観光ビジネス論	15				●	●			○		●		●	2			
		ホスピタリティ論	15	○			●	●								2			
フランス語 I		15		○			●	●							1				
フランス語 II		15						●		○			●	●	1				
演習分野	演習科目	キャリア形成演習 I	15	○			●	●								1			
		キャリア形成演習 II	15		○		●	●								1			
		基礎ゼミ	15	○		●	●	●								1			
		TOEIC I	15	○		●	●									1			
		STEP I	15	○		●	●									1			
		TOEIC II	15		○		●									1			
		STEP II	15		○		●									1			
		TOEIC III	15							○		●				1			
		総計 (卒業要件62単位以上)												34	54				



2026年度 現代英語学科1年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土	
4月					1		2	3 入学式	4
	5	6	オリエンテーション	7 1	8 午前健康診断 午後授業	9 1	10 1	11	
	12	13 1	14 2	15 1	16 2	17 2	18		
	19	20 2	21 スポーツ大会	22 2	23 3	24 3	25		
	26	27 3	28 3	29 昭和の日	30	1	2		
5月	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 休日	7 4	8 4	9		
	10	11 4	12 4	13 3	14 5	15 5	16		
	17	18 5	19 5	20 4	21 6	22 6	23		
	24	25 6	26 6	27 5	28 7	29 7	30		
	31	1 7	2 7	3 6	4 8	5 8	6		
6月	7	8 8	9 8	10 7	11 9	12 9	13		
	14	15 9	16 9	17 8	18 10	19 10	20		
	21	22 10	23 10	24 9	25 11	26 11	27		
	28	29 11	30 11	1 10	2 12	3 12	4		
7月	5	6 12	7 12	8 11	9 13	10 13	11		
	12	13 13	14 13	15 12	16 14	17 14	18		
	19	20 海の日	21 14	22 13	23 15	24 15	25		
	26	27 14	28 15	29 14	30 月15	31 水15	1		
8月	2	3 予備日	4 定期試験	5 定期試験	6 追試	7	8		
	9	10	11 山の日	12	13	14	15		
	16	17	18 成績発表	19	20	21 再試験	22 海外研修		
	23 海外研修	24 海外研修	25 海外研修	26 海外研修	27 海外研修	28 海外研修	29 海外研修		
	30 海外研修	31 海外研修	1 海外研修	2 海外研修	3 海外研修	4 海外研修	5 海外研修		
9月	6 海外研修	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15 ANA エアライン スクール	16 ANA エアライン スクール	17 ANA エアライン スクール	18 ANA エアライン スクール	19		
	20	21 敬老の日	22 休日	23 秋分の日	24	25	26 福島空港		
	27	28 1校時 オリエンテーション 2校時～授業	29 1	30 1					

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※ANAエアラインスクールは、正課外講座となります。

2026年度 現代英語学科1年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土					
10月						1	1	2	1	3			
	4	5	2	6	2	7	2	8	2	9	2	10	
	11	12	スポーツの日	13	3	14	3	15	3	16	3	17	
	18	19	3	20	4	21	4	22	4	23	4	24	
	25	26	4	27	5	28	5	29	5	30	せいよう祭 準備(休講)	31	せいよう祭
11月	1	2	5	3	文化の日	4	6	5	6	6	5	7	
	8	9	6	10	6	11	7	12	7	13	6	14	
	15	16	7	17	7	18	8	19	8	20	7	21	
	22	23	勤労感謝の日	24	8	25	9	26	9	27	8	28	
	29	30	8	1	9	2	10	3	10	4	9	5	
12月	6	7	9	8	10	9	11	10	11	11	10	12	
	13	14	10	15	11	16	12	17	12	18	11	19	
	20	21	11	22	12	23	13	24	到達度確認テスト	25	12	26	
	27	28		29		30		31		1	元旦	2	
1月	3	4	12	5	13	6	14	7	13	8	13	9	
	10	11		12	14	13	15	14	14	15	14	16	
	17	18	13	19	15	20	月14	21	15	22	15	23	
	24	25	15	26	予備日	27	予備日	28	定期試験	29	追試	30	
	31	1		2		3		4		5	成績発表	6	
2月	7	8		9		10		11	建国記念の日	12	再試験	13	
	14	15		16		17		18		19		20	
	21	22		23	天皇誕生日	24		25		26		27	
	28	1		2		3		4		5		6	
3月	7	8		9		10		11		12		13	
	14	15		16		17		18		19		20	
	21	春分の日	22	振替休日	23		24		25		26		27
	28		29		30		31						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●		●	●						
科目名	日本語表現法				単位認定者	徳田 幸雄		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において、適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。 日本語の特徴を理解するとともに、正しい敬語表現を身につける。 目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。 									
学修者への期待等	日本語を知ることとは日本文化を知ることでもある。社会人のための教養という面だけではなく、自らの文化を再認識・再評価し、さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴				事前学修：語族について調べる 事後学修：チェックテストの復習				30	30
2	日本語の歴史				事前学修：古事記について調べる 事後学修：チェックテストの復習				30	30
3	ことばと表現①（熟語、語句）				事前学修：漢検2級レベルの漢字を確認 事後学修：チェックテストの復習				30	30
4	ことばと表現②（ことわざ、故事成語）				事前学修：漢検2級レベルの漢字を確認 事後学修：チェックテストの復習				30	30
5	敬語表現①（敬語の基本）				事前学修：尊敬語と謙譲語の相違の確認 事後学修：チェックテストの復習				30	30
6	敬語表現②（尊敬語と謙譲語）				事前学修：尊敬語と謙譲語の相違の確認 事後学修：チェックテストの復習				30	30
7	話してみよう①（インタビューとショートスピーチ）				事前学修：結婚式スピーチを調べる 事後学修：チェックテストの復習				30	30
8	話してみよう②（グループディスカッション）				事前学修：少子化対策を考える 事後学修：チェックテストの復習				30	30
9	修飾語と被修飾語との関係①（原則論）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
10	修飾語と被修飾語との関係②（練習問題）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
11	句読点の打ち方（原則論）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
12	句読点を打つ練習と文章要約①（境界の点）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
13	句読点を打つ練習と文章要約②（逆転の点）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
14	意見文の書き方（4 STEPS）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
15	意見文の作成と句読点を打つ練習				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループディスカッション インタビュー ショートスピーチ）									
教科書	プリントを配布する。									
参考文献	『日本語の作文技術（朝日文庫）』本多勝一著 朝日新聞出版 『大学生のための日本語表現実践ノート』米田明美他著 風間書房									
備考	授業内課題については、次の授業内にてフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-0-HSO-01				
			●	●						
科目名	心理学				単位認定者	真覚 健		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	人間を理解するため、自分をより知るために、心理学という学問を体系的に学ぶ。認知心理学をはじめ、認知発達及び社会発達、パーソナリティ、社会心理学といった主な領域を中心に、心理学全般における理解と基礎的知識の修得を目指す。									
到達目標	1：心理学の基礎的知識について説明できる。 2：心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。 3：社会に対する心理学の役割について説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめUNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	心理学とは (心理学と自然科学) ディスカッション				事前学修：資料を読んで心を科学的に扱うことについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30	
2	感覚と知覚				事前学修：資料を読んで感覚について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30	
3	知覚と認知				事前学修：資料を読んで知覚について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30	
4	発達1：遺伝と環境				事前学修：資料を読んで遺伝と環境について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30	
5	発達2：発達の基本的諸相				事前学修：資料を読んで各年齢段階の発達の特徴について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30	
6	学習1：随伴性学習 (古典的条件づけ・道具的条件づけ)				事前学修：資料を読んで随伴性学習について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30	
7	学習2：技能学習・社会的学習				事前学修：資料を読んで技能学習について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30	
8	記憶1：記憶の過程、短期記憶、長期記憶				事前学修：資料を読んで短期記憶と長期記憶の特徴について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30	
9	記憶2：忘却、記憶の変容				事前学修：資料を読んで忘却と記憶の変容について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30	
10	パーソナリティ1：パーソナリティの理論				事前学修：資料を読んでパーソナリティ理論について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	パーソナリティ2：パーソナリティの測定方法	事前学修：資料を読んでパーソナリティの測定方法について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
12	情動1：情動の理論	事前学修：資料を読んで情動の理論について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
13	情動2：表情	事前学修：資料を読んで表情について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
14	対人認知	事前学修：資料を読んで対人認知について学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
15	日常生活上の問題（外見に関する問題） ディスカッション	事前学修：資料を読んでルッキズムについて学修しておくこと 事後学修：レスポンスシートを提出すること	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ディスカッション ）			
教科書	特に指定しません。資料は事前にUNIPA上にアップします。			
参考文献	特になし。			
備考	毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートへの回答を求め、次回の授業でフィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-0-HSO-02				
		●	●		●					
科目名	Critical Thinking				単位認定者	相田 明子		授業内課題（レポート、まとめテスト等）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度（ディスカッションへの参加・貢献度）	30 %
					授業形態		講義		授業時間数	30 時間
						授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目の目的は、物事について熟考する意識を持ち、「事実」と「意見」を分けることを理解し、適切な論拠や相応しい証拠に基づいた主張が出来るようになることである。さらに、主張に対する説得力を高めるために有効な証拠と、そうでないものを区別し、その理由を説明することが出来るようになる。</p>									
到達目標	<p>1. ジェンダーとはなにかを理解し、社会がどのようにジェンダー化されているのかを説明できる。 2. 映画や文学作品を通して、文化におけるジェンダーの構築について理解し、説明したり批評することができる。 3. 主体的なものの見方・考え方ができる。</p>									
学修者への期待等	<p>ディスカッションやペアワークへの積極的な参加・貢献が期待されます。 ジェンダーについて学びを深め、物事を批判的に思考することに意義を見出してください。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	<ul style="list-style-type: none"> 授業のイントロダクション（進め方とルール） ジェンダーとはなんだろう 				事前学修：本シラバスをよく読んでおく 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める			0	30	
2	<ul style="list-style-type: none"> フェアリー・テイルの成り立ちとシャルル・ペロー "Little Red Riding Hood"(英文) を精読する 				事前学修：ジェンダーについて復習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める			30	30	
3	シャルル・ペローとグリム兄弟について学び、両者（作品を）を比較・考察する				事前学修：シャルル・ペロー、グリム兄弟について調べる 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める			30	30	
4	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーの理解について確認する（ディスカッション） 『白雪姫』（1937）を視聴し、感想や意見をまとめる 				事前学修：ジェンダーについて復習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める			30	30	
5	『Mirror Mirror』（2012）を視聴する				事前学修：『白雪姫』視聴後のレポートをまとめる 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める			30	30	
6	<ul style="list-style-type: none"> 『白雪姫』『Mirror Mirror』について、比較とディスカッション プリンセス願望とは 				事前学修：『Mirror Mirror』視聴後のレポートをまとめる 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める			30	30	
7	中間レポートを作成する				事前学修：学んだ内容をまとめ理解を深める 事後学修：ここまで学んだ内容をふりかえる			30	30	
8	『シンデレラ』（1950）を視聴し、感想や意見をまとめる				事前学修：配布されたプリントを読む 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める			30	30	
9	『シンデレラ』について、ディスカッションとプレゼンテーション（シンデレラコンプレックス）				事前学修：『シンデレラ』視聴後のレポートをまとめる 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
10	ジェンダーとフェアリーテイル (講義とディスカッション、発表)	事前学修：フェアリーテイルについて、第2回講義の内容をふりかえっておく 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める	30	30
11	商業主義とジェンダー (講義とディスカッション)	事前学修：商業主義とは何か調べておく 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める	30	30
12	ポストフェミニズム (講義とディスカッション)	事前学修：ポストフェミニズムとは確認する 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める	30	30
13	映画『エバー・アフター』(1998) (前半部) を視聴、要点をメモしながら内容をまとめる	事前学修：配布されたプリントを読む 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める	30	30
14	映画『エバー・アフター』 (後半部) を視聴し、『シンデレラ』との相違について話し合う	事前学修：前回の内容をふりかえっておく 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める	30	30
15	・ふりかえり (最終レポート) : Critical Thinking とは ・総括・最終レポートに対するフィードバック	事前学修：学んだ内容をまとめ理解を深める 事後学修：学んだ内容をまとめ理解を深める	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (ディスカッション、ペアワーク、発表)			
教科書	教員が作成したプリントを随時配布する。			
参考文献	授業中に指示する。			
備考	レポート課題は授業内で発表する。レポートは返却し、授業内でフィードバックをする。状況により遠隔授業に変更する場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●									
科目名	情報処理				単位認定者	氏家 留美子		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。									
到達目標	パソコンの基本操作を修得し、Word・Excel・PowerPointの効率的な使用能力を身につける。 さまざまなICTツールで情報を収集・整理・評価し、ICTを活用した情報分析ができるようになる。 ◆Word：書式設定や印刷設定を適切に使える。表・図形・写真を取り入れた表現力のある文書を作成できる。 ◆Excel：書式設定をして表を整えることができる。計算式や関数を使う。データにふさわしいグラフの種類を選び作成できる。 ◆PowerPoint：プレゼンテーションの目的や構成について理解し、視認性のあるスライド作成とスライドショー実施ができる。									
学修者への期待等	基本から応用操作まで、学生が自身のスキルを見つめ直し成長することを期待する。 操作に不慣れな学生は、この機会に基礎を固めること。既にスキルを持つ学生もさらなる向上を目指してほしい。 操作がわからない部分は、演習中に質問して確実に理解を深めること。 教材データを保存するために、USBメモリを授業2回目以降で使用使用する。授業1回目の時にUSBメモリについては詳しく説明するので、2回目の授業までに各自準備すること。									
回	授業計画				準備学修			事前学修 時間 (分)	事後学修 時間 (分)	
1	Word(実技)：ビジネス文書の基礎知識 (ビジネス文書の構成と作成方法)				事前学修：教科書10～17ページを読んでおく 事後学修：教科書95ページ(文書の基本形)を覚える			30	30	
2	Word(実技)：Wordの基本操作(書式設定・印刷設定) 情報セキュリティ：脅威が与える影響とセキュリティ対策				事前学修：教科書27～31ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するセキュリティ関連の問題を解く			30	30	
3	Word(実技)：情報の整理(表を用いた文書作成)				事前学修：教科書39～45ページを読んでおく 事後学修：教科書46ページ(実習03)を操作する			30	30	
4	Word(実技)：いろいろな書式設定の活用方法 (段落の網かけ・均等割り付け・ルビ・囲い文字・傍点・段組み・ヘッダーフッター)				事前学修：教科書50～57ページを読んでおく 事後学修：教科書59ページ(実習08)を操作する			30	30	
5	Word(実技)：文書の表現力アップ (イラスト・写真・ワードアート・図形描画)				事前学修：教科書60～68ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するWord課題を完成させる			30	60	
6	Word(実技)：レポートなどの長文作成をサポートする操作 (見出しスタイルの利用・目次作成・検索・置換) 著作権の知識：著作権の概念・著作権侵害・引用のルール				事前学修：教科書6～7ページを読んでおく 事後学修：授業で指示する著作権関連の問題を解く			30	30	
7	PowerPoint(実技)：プレゼンテーションの構成・箇条書きや表を用いた情報の整理・図形や画像の効果的な利用法・スライドショーの実施・印刷設定				事前学修：教科書194～222ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するプレゼン課題のテーマを考え、構成を下書きする			30	30	
8	PowerPoint(実技)：アニメーションの設定・図解表現の手法・生成AIを活用した情報収集と内容整理・指示するテーマで、伝わるプレゼンテーションの課題作成				事前学修：教科書233～237ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するプレゼン課題を完成させる			30	90	
9	Excel(実技)：Excelの基本操作 (四則演算・SUM・AVERAGE関数・書式設定・行列操作・表示形式・印刷設定)				事前学修：教科書96・110～123ページを読んでおく 事後学修：教科書108ページ(実習15)を操作する			30	30	
10	Excel(実技)：数式を効率的かつ正確に作る (相対参照と絶対参照の使い分け)				事前学修：教科書139ページを読んでおく 事後学修：教科書140ページ(例題11)を操作する			30	30	
11	Excel(実技)：数値を評価するための基本的関数 (MAX・MIN・COUNT・COUNTA)				事前学修：教科書141ページを読んでおく 事後学修：教科書153ページ(実習21)を操作する			30	30	
12	Excel(実技)：データを視覚的に分析・評価(グラフ作成)				事前学修：教科書156～161ページを読んでおく 事後学修：教科書164・165ページ(実習24・25)を操作する			30	30	
13	Excel(実技)：基準に基づくデータの整理や抽出 (データベースのしくみ・並べ替え・フィルター)				事前学修：教科書168～173ページを読んでおく 事後学修：教科書175ページ(実習29)を操作する			30	30	
14	Excel(実技)：データを条件付きで処理・集計 (IF・COUNTIF・SUMIF関数など) 関数のまとめ①(データの評価・集計するための関数の活用)				事前学修：教科書143～145ページを読んでおく 事後学修：教科書144～145ページ(例題14)を操作する			30	30	
15	Excel(実技)：特定の値を基に検索とデータ取得 (VLOOKUP関数など) 関数のまとめ②(データの整理・分析するための関数の活用)				事前学修：教科書146ページを読んでおく 事後学修：教科書146ページ(例題15)を操作する			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(実技)									
教科書	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』 杉本くみ子/大澤栄子 著 実教出版 (ISBN: 978-4-407-35943-5)									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	「試験」は、Word・Excel・PowerPointの使用方法に関する筆記試験を行う。 「課題」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。内容を確認し、以後の授業で講評する。 情報処理室で授業を実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-02				
	●	●								
科目名	数理リテラシー				単位認定者	本田 俊夫 中島 拓		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数			8 回			
授業の概要	数学の基礎・基本を身につけ、数式・表・グラフ等の活用を通して数学的処理の“良さ”を知ることにより、統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を身につける。									
到達目標	本科目では、筋道を立て、客観的に物事を考えることができることを目的とし、日常生活のあらゆる場面で役立つ計算力やデータ、表やグラフなどを読み取ることができる。また、人工知能に触れ、適切な使用法や倫理観を理解できる。									
学修者への期待等	日常でよく使う計算、算数・数学的な考え方とデータについての基本を習得するための科目です。授業前に準備学修を終わらせ、基本的な考え方を習得しておいてください。授業後は1時間程度の復習をし、考え方や処理が不明の箇所がある場合は積極的に質問してください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	「加減乗除の計算」 整数・小数・分数				事前学修：計算の基本を確認しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		30	60	本田 俊夫	
2	「方程式・不等式」				事前学修：方程式、不等式の基本計算を確認しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		30	60	本田 俊夫	
3	「数的推理①」 和と差、割合				事前学修：割合の基本を確認しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		60	60	本田 俊夫	
4	「数的推理②」 売買・損益				事前学修：原価、利益、値引の関係を理解しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		60	60	本田 俊夫	
5	「平面図形」 角と面積				事前学修：多角形の角の関係、平行線の角の関係を復習しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		30	60	本田 俊夫	
6	統計の基礎① データの分布と代表値、ばらつき				事前学修：データにおける代表値、分散について復習しておくこと。事後学修：授業内容をよく復習して理解すること		60	60	本田 俊夫	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	統計の基礎② データの標準化	事前学修：正規分布の基本概念について確認しておくこと。 事後学修：授業内容をよく復習して理解すること	60	60	本田 俊夫
8	生成AIの利用と倫理（個人演習、体験）	事前学修：参考文献に記載の事前学習資料を参照し、注意事項に沿って生成AIの利用体験 事後学修：	30	0	中島 拓
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（個人演習・体験）				
教科書	特に指定しません。随時プリントを配布します。				
参考文献					
備考	（本田）授業後半に確認のための演習課題を実施する。なお、課題については授業内にフィードバックを行う。 （中島）第8回講義の事前学習資料： https://seiyogakuinac-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/admini_seiyogakuin_ac_jp/IQCS4g_71HKSqf17iK_19KFAQYW18XgTvNvCtK68A00vuI?e=17Vg2k				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-01				
	●	●								
科目名	Oral Communication I				単位認定者	グリーン ジュニアファースト (Aクラス)		グループワーク参加度	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	英会話スキルチェック	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	インターナショナル・バーチャル・エクスチェンジ (IVE)
				授業回数		15 回	語彙クイズ		10 %	
授業の概要	<p>本科目の目的は、ネイティブスピーカーと日常的にコミュニケーションを取ることに慣れ、状況に応じ躊躇することなく発話し、会話を維持するスキルを身につけることである。パターンプラクティス等により定型表現を習得し、相手とのコミュニケーションを図れるようになる。国際共通語である英語には、話者の出身地によって発音のバラエティが存在することを理解し、ペアワークを通して、自分の発音に自信を持ち、積極的に英語で会話ができるようになることを企図する。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する英会話ができるようになる。 外国人の学生と英語でコミュニケーションができるようになる。 会話を続けたり、会話中の困難を乗り越えたりするためのさまざまな会話の工夫ができるようになる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> インターネットに接続できるデバイス（ノートパソコン推奨）を毎回持参してください。 教科書の各ユニット開始時には語彙クイズを実施しますので、事前に自宅で語彙を学習し、準備をして授業に臨んでください。 ディスカッション、グループワーク、ペアワーク、ロールプレイングなどの活動を行うため、積極的に参加してください。 									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業の紹介：授業内容の説明を行う。その後、自己紹介のアクティビティと、英語で分からない単語があるときの伝え方を学ぶアクティビティを行う。				事前学修：なし 事後学修：なし				0	0
2	自然な英会話のコツ：英語で会話を自然に続ける方法を学び、その方法を使って、いくつかの簡単な会話練習を行う。				事前学修：なし 事後学修：なし				0	0
3	インターナショナル・バーチャル・エクスチェンジ (IVE)：IVEを使ったオンラインでの国際交流の方法を学ぶ。 ※IVEの開始時期によっては、実施日が変更になる場合がある。				事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください				0	60
4	Unit1：語彙クイズを行う。旅行をテーマに、英会話練習とリスニングアクティビティを行う（6～7ページ）。				事前学修：Unit1の語彙を予習してください（6ページ）。 事後学修：IVE使用してください				30	60
5	Unit1:旅行をテーマにした英会話を続け、質問の仕方や意見の伝え方を練習する（8～9ページ）。				事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください				0	60
6	Unit2：語彙クイズを行う。映画をテーマに、英会話練習とリスニングアクティビティを行う（10～11ページ）。				事前学修：Unit2の語彙を予習してください（10ページ）。 事後学修：IVE使用してください				30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	Unit2:映画をテーマにした英会話を続け、理由や基準をもとに自分の意見を説明する練習をする(12～13ページ)。	事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください	0	60
8	Unit3:語彙クイズを行う。デートをテーマに、英会話練習とリスニングアクティビティーを行う(14～15ページ)。	事前学修：Unit3の語彙を予習してください(14ページ)。 事後学修：IVE使用してください	30	60
9	Unit3:デートをテーマにした英会話を続け、賛成・反対の伝え方を練習する(16～17ページ)。	事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください	0	60
10	Unit4:語彙クイズを行う。アルバイトをテーマに、英会話練習とリスニングアクティビティーを行う(18～19ページ)。	事前学修：Unit4の語彙を予習してください(18ページ)。 事後学修：IVE使用してください	30	60
11	Unit4:アルバイトをテーマにした英会話を続け、自分の考えに理由を伝える練習をする(20～21ページ)。	事前学修：なし 事後学修：なし	0	0
12	Unit5:語彙クイズを行う。英語の学びをテーマに、英会話練習とリスニングアクティビティーを行う(22～23ページ)。	事前学修：Unit5の語彙を予習してください(22ページ)。 事後学修：なし	30	0
13	Unit5:英語学習をテーマにした英会話を続け、根拠を示して自分の意見を伝える練習をする(24～25ページ)。	事前学修：なし 事後学修：なし	0	0
14	英会話スキルチェック:これまでに身につけた英会話力の評価のため、クラスメートといくつかの会話を録音する。	事前学修：なし 事後学修：なし	0	0
15	学習の振り返りと英語の自習方法:英語学習を振り返り、今後の目標について考える活動を行う。合わせて、夏休み中に自分で取り組める英語学習の方法を、いくつか紹介する。	事前学修：なし 事後学修：なし	0	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(ディスカッション、グループワーク、ペアワーク、ロールプレイング)			
教科書	The English Course Discussion Book 1 by Gary Ireland, Max Woollerton. The English Company. ISBN:9784990296254			
参考文献	必要に応じて、授業内で指示する。			
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。授業内課題は返却時に指導する。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-01				
	●	●								
科目名	Oral Communication I				単位認定者	グリーン ジェニファー (Bクラス)		グループワーク参加度	45 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	英会話スキルチェック	15 %
					授業形態		演習		授業時間数	30 時間
				授業回数			15 回			語彙クイズ
授業の概要	<p>本科目の目的は、ネイティブスピーカーと日常的にコミュニケーションを取ることに慣れ、状況に応じ躊躇することなく発話し、会話を維持するスキルを身につけることである。パターンプラクティス等により定型表現を習得し、相手とのコミュニケーションを図れるようになる。国際共通語である英語には、話者の出身地によって発音のバラエティが存在することを理解し、ペアワークを通して、自分の発音に自信を持ち、積極的に英語で会話ができるようになることを企図する。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する英会話ができるようになる。 外国人の学生と英語でコミュニケーションができるようになる。 英語で状況に応じてさまざまな形で質問と応答ができるようになる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> インターネットに接続できるデバイス（ノートパソコン推奨）を毎回持参してください。 教科書の各ユニット開始時には語彙クイズを実施しますので、事前に自宅で語彙を学習し、準備をして授業に臨んでください。 ディスカッション、グループワーク、ペアワーク、ロールプレイングなどの活動を行うため、積極的に参加してください。 									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業の紹介：授業内容の説明を行う。その後、自己紹介のアクティビティと、英語で分からない単語があるときの伝え方を学ぶアクティビティを行う。				事前学修：なし 事後学修：なし				0	0
2	自然な英会話のコツ：英語で会話を自然に続ける方法を学び、その方法を使って、いくつかの簡単な会話練習を行う。				事前学修：なし 事後学修：なし				0	0
3	インターナショナル・バーチャル・エクスチェンジ (IVE)：IVEを使ったオンラインでの国際交流の方法を学ぶ。 ※IVEの開始時期によっては、実施日が変更になる場合がある。				事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください				0	60
4	Unit1：語彙クイズを行う。出身をテーマに、英会話練習を行う（12～13ページ）。				事前学修：Unit1の語彙を予習してください（12～13ページ）。 事後学修：IVE使用してください				30	60
5	Unit1：出身をテーマにした英会話を続ける（14～15ページ）。				事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください				0	60
6	Unit2：語彙クイズを行う。個人生活をテーマに、英会話練習を行う（16～17ページ）。				事前学修：Unit2の語彙を予習してください（16～18ページ）。 事後学修：IVE使用してください				30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	Unit2:個人生活をテーマにした英会話を続ける(18~19ページ)。	事前学修:なし 事後学修:IVE使用してください	0	60
8	Unit3:語彙クイズを行う。日課をテーマに、英会話練習を行う(20~21ページ)。	事前学修:Unit3の語彙を予習してください(20~21ページ)。 事後学修:IVE使用してください	30	60
9	Unit3:日課をテーマにした英会話を続ける(22~23ページ)。	事前学修:なし 事後学修:IVE使用してください	0	60
10	Unit4:語彙クイズを行う。趣味をテーマに、英会話練習を行う(24~25ページ)。	事前学修:Unit4の語彙を予習してください(24~26ページ)。 事後学修:IVE使用してください	30	60
11	Unit4:趣味をテーマにした英会話を続ける(26~27ページ)。	事前学修:なし 事後学修:なし	0	0
12	Unit5:語彙クイズを行う。学校をテーマに、英会話練習を行う(28~29ページ)。	事前学修:Unit5の語彙を予習してください(28~29ページ)。 事後学修:なし	30	0
13	Unit5:学校をテーマにした英会話を続ける(30~31ページ)。	事前学修:なし 事後学修:なし	0	0
14	英会話スキルチェック:これまでに身につけた英会話力の評価のため、クラスメートといくつかの会話を録音する。	事前学修:なし 事後学修:なし	0	0
15	学習の振り返りと英語の自習方法:英語学習を振り返り、今後の目標について考える活動を行う。合わせて、夏休み中に自分で取り組める英語学習の方法を、いくつか紹介する。	事前学修:なし 事後学修:なし	0	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり:キーワード(ディスカッション、グループワーク、ペアワーク、ロールプレイング)			
教科書	New Conversations in Class、Book 1 by Stephen Richmond、Bruno Vannieu. Alma Publishing. ISBN:9784905343356			
参考文献	必要に応じて、授業内で指示する。			
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する可能性がある。授業内課題は返却時に指導する。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-02				
	●	●								
科目名	Oral Communication II				単位認定者	スミス アンソニー (Aクラス)		授業内課題 (小テストを含む)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	「Oral Communication I」で学習した内容を踏まえ、英会話の自信を裏付けるためのスピーキング、リスニング能力のスキルアップを目的とする。具体的には、ネイティブスピーカーによって頻繁に使用される語彙、熟語、慣用句等の知識を培い、多様な場面での会話に対応できるようになることを企図する。また、グループインタラクションを通して、「話題の引き出し」を増やしていく。併せて、相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等、コミュニケーションの技法も修得する。									
到達目標	使用するテキストは、中級レベルの英語学習者を対象としたものである。Pairwork 及び Discussion を通して、各ユニットで紹介されている身近な話題について学び、自らの意見を相手に伝え、自由にディスカッションできるようになる。									
学修者への期待等	授業には、テキスト、辞書（言語の学修に辞書は必須）、ノート、ファイル（授業で渡されたプリント等を整理できるもの）を必ず持参すること。尚、毎回グループワークとしてDiscussionを行う。授業の前に必ず予習しておくこと。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	Unit 1. Food (Talk about it) Pairwork & Discussion				事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
2	Unit 2. Japan (Talk about it) Pairwork & Discussion				事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
3	Unit 3. Shopping (Talk about it) Pairwork & Discussion				事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
4	Unit 4. Music (Talk about it) Pairwork & Discussion				事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
5	Unit 5. Transportation (Talk about it) Pairwork & Discussion 小テスト				事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
6	Unit 6. The Salaryman and Work (Talk about it) Pairwork & Discussion				事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
7	Unit 7. Family (Talk about it) Pairwork & Discussion				事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
8	Unit 8. Travel (Talk about it) Pairwork & Discussion				事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
9	Unit 9. Europe (Talk about it) Pairwork & Discussion				事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
10	Unit 10. Famous People (Talk about it) Pairwork & Discussion 小テスト	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
11	Unit 11. Sports (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
12	Unit 12. Home (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
13	Unit 13. Health (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
14	Unit 14. Entertainment (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
15	Unit 15. Animals (Talk about it) Pairwork & Discussion 小テスト	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (Pairwork & Discussion)			
教科書	Let's Talk About It 1,000 Questions for Conversation Pearson Longman ISBN 978-962-01-8951-7			
参考文献	特になし			
備考	課題については採点し、授業内にフィードバックする。状況により遠隔授業に変更する場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●			

科目名	Oral Communication II				単位認定者	スミス アンソニー (Bクラス)		評価の方法	授業内課題 (小テストを含む)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			

授業の概要
「Oral Communication I」で学習した内容を踏まえ、英会話の自信を裏付けるためのスピーキング、リスニング能力のスキルアップを目的とする。具体的には、ネイティブスピーカーによって頻繁に使用される語彙、熟語、慣用句等の知識を培い、多様な場面での会話に対応できるようになることを企図する。また、グループインタラクションを通して、「話題の引き出し」を増やしていく。併せて、相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等、コミュニケーションの技法も修得する。

到達目標
使用するテキストは、中級レベルの英語学習者を対象としたものである。Pairwork 及び Discussion を通して、各ユニットで紹介されている身近な話題について学び、自らの意見を相手に伝え、自由にディスカッションできるようになる。

学修者への期待等
授業には、テキスト、辞書（言語の学修に辞書は必須）、ノート、ファイル（授業で渡されたプリント等を整理できるもの）を必ず持参すること。尚、毎回グループワークとしてDiscussionを行う。授業の前に必ず予習しておくこと。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	Unit 1. Food (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
2	Unit 2. Japan (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
3	Unit 3. Shopping (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
4	Unit 4. Music (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
5	Unit 5. Transportation (Talk about it) Pairwork & Discussion 小テスト	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
6	Unit 6. The Salaryman and Work (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
7	Unit 7. Family (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
8	Unit 8. Travel (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
9	Unit 9. Europe (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
10	Unit 10. Famous People (Talk about it) Pairwork & Discussion 小テスト	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
11	Unit 11. Sports (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
12	Unit 12. Home (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
13	Unit 13. Health (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
14	Unit 14. Entertainment (Talk about it) Pairwork & Discussion	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
15	Unit 15. Animals (Talk about it) Pairwork & Discussion 小テスト	事前学修：Match it, Ask it, Finish it を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの 答えを確認する。	60	30
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (Pairwork & Discussion)			
教科書	Let's Talk About It 1,000 Questions for Conversation Pearson Longman ISBN 978-962-01-8951-7			
参考文献	特になし			
備考	課題については採点し、授業内にフィードバックする。状況により遠隔授業に変更する場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-03				
	●	●								
科目名	Listening I				単位認定者	相田 明子 (Aクラス)		授業内課題① (小テスト、提出課題)	35 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題② まとめテスト	50 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	15 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目は、国際共通語である英語に、多くの地域による発音の変種が存在することを理解し、それぞれの発音の特徴を捉え、聴き取り能力を向上させることを目的とする。具体的には、音声学の知識を基に、英語の音を聴き分け、音の同化や消失、渡り音などについて理解し、正しく聴き取れるようになる。</p> <p>さらにディクテーションを行い、英語の強弱、リズムを的確に拾い、内容理解の正確さを高める。自身が発話する際にもこれらの英語の特性を意識した発話になるように、リピート練習等を取り入れる。場面による特有の会話表現も学修し、会話力向上につなげる。</p>									
到達目標	<p>基礎的なリスニング力を身に付け、日常会話の際に相手の意図が理解できる。又、自分の意思を相手に分かりやすい発音やイントネーションで話すことができるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>カンヌ国際広告賞を受賞したTVコマーシャルを題材に扱ったテキストを採用する。約30秒という時間の中に効果的なメッセージを込めたTVコマーシャルはリスニング素材としても非常に有用である。予習段階で、該当する章の語彙やテーマに関して理解を深め、必要に応じて周辺知識の調査をしておくこと。また、授業内でおこなうスクリプトのロールプレイング、コマーシャルの主題に関するディスカッションや発表の際には、積極的な参加が期待される。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	Unit 1- Meijer - Higher Standards、 Lower Prices ① 1. Preliminary Reading～3.Reading Comprehension				事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める			30	30	
2	Unit 1- Meijer - Higher Standards、 Lower Prices ② Task for TV Commercials No.1 and No.2 4. Vocabulary Preview ～ 9.Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループワーク。				事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習			30	30	
3	Unit 2 - This Calls for a Bud Light① 1. Preliminary Reading ～ 3.Reading Comprehension				事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める			30	30	
4	Unit 2 - This Calls for a Bud Light② Task for TV Commercials 4. Vocabulary Preview ～ 9.Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループワーク				事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習			30	30	
5	Unit 3 - Anti-Discrimination Campaign① 1. Preliminary Reading ～ 3.Reading Comprehension.				事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める			30	30	
6	Unit 3 - Anti-Discrimination Campaign② Task for TV Commercials 4. Vocabulary Preview ～ 10.Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループワーク				事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習			30	30	
7	小テスト (Unit 1～3) Unit 4 - McDonald's-King of Fast-Food Restaurant ① 1. Preliminary Reading ～ 3.Reading Comprehension				事前学修：指示された予習をする、小テストの準備 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	Unit 4 - McDonald's-King of Fast-Food Restaurant ② Task for TV Commercials No.1 and No.2 4. Vocabulary Preview ~ 9.Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループワーク	事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習	30	30
9	Unit 5 - Relax、 it's FedEx.① 1. Preliminary Reading ~ 3.Reading Comprehension.	事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める	30	30
10	Unit 5 - Relax、 it's FedEx.② Task for TV Commercials No.1 and No.2 4. Vocabulary Preview ~ 9.Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループワーク	事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習	30	30
11	Unit 6 - BMW-A Car beyond Reason① 1. Preliminary Reading ~ 3.Reading Comprehension	事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める	30	30
12	Unit 6 - BMW-A Car beyond Reason② Task for TV Commercial 4. Vocabulary Preview ~ 9.Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループワーク	事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習	30	30
13	小テスト (Unit 4~6) Unit 7 - Banking for the Filthy Rich① 1. Preliminary Reading ~ 3.Reading Comprehension	事前学修：指示された予習をする、小テストの準備 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める	30	30
14	Unit 7 - Banking for the Filthy Rich② Task for TV Commercials No.1 and No.2 4. Vocabulary Preview ~ 9.Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループワーク	事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習	30	30
15	Unit 1 ~ Unit 7総括、まとめテストとフィードバック	事前学修：まとめテストの準備をする 事後学修：学んだ内容の理解を深める	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（発表、ロールプレイング、グループワーク、練習、ディスカッション）			
教科書	『English in 30 Seconds』 Masayuki Aoki 2018 南雲堂 ISBN:9784523176183			
参考文献	特になし			
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。授業内課題は返却時に指導する。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目名	Listening I				単位 認定者	相田 明子 (Bクラス)		評価の 方法	授業内課題① (小テスト、提出課題)	35 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題② まとめテスト	50 %
						授業形態	演習		授業時間数	30 時間
				授業回数	15 回					

授業の概要

本科目は、国際共通語である英語に、多くの地域による発音の変種が存在することを理解し、それぞれの発音の特徴を捉え、聴き取り能力を向上させることを目的とする。具体的には、音声学の知識を基に、英語の音を聴き分け、音の同化や消失、渡り音などについて理解し、正しく聴き取れるようになる。さらにディクテーションを行い、英語の強弱、リズムを的確に拾い、内容理解の正確さを高める。自身が発話する際にもこれらの英語の特性を意識した発話になるように、リピート練習等を取り入れる。場面による特有の会話表現も学修し、会話力向上につなげる。

到達目標

基礎的なリスニング力を身に付け、日常会話の際に相手の意図が理解できる。又、自分の意思を相手に分かりやすい発音やイントネーションで話すことができるようになる。

学修者への期待等

日常生活や公共の場で遭遇する話題・出来事を題材に、ロールプレイングや情報を正確に聴き取る練習を繰り返し行います。集中力を高めて授業に臨みましょう。また、リスニング力を向上させるためには、語彙・英語表現を習得することも重要です。新出語彙や文法に関する知識を、自ら進んで学ぶ意欲が期待されます。

回	授業計画	準備学修	事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	Unit1: Meeting People (挨拶や自己紹介に関する英語表現)、リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修: 指示された箇所を予習する 事後学修: 学んだ内容の理解を深める	30	30
2	Unit1: 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。 Review Quiz(1)	事前学修: 前回学んだ英語表現の復習 事後学修: 学んだ内容の理解を深める	30	30
3	Unit2: Time to Eat (食べ物、栄養、食事に関する英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修: 指示された箇所を予習する 事後学修: 学んだ内容の理解を深める	30	30
4	Unit2: 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。 Review Quiz(2)	事前学修: 前回学んだ英語表現の復習 事後学修: 学んだ内容の理解を深める	30	30
5	Unit3: Living with Technology (Websiteやテクノロジーに関する英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修: 指示された箇所を予習する 事後学修: 学んだ内容の理解を深める	30	30
6	Unit3: 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。 Review Quiz(3)	事前学修: 前回学んだ英語表現の復習 事後学修: 学んだ内容の理解を深める	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	Unit4 : Shopping for Clothes (Websiteやテクノロジーに関する英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修：指示された箇所を予習する 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
8	Unit4 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(4)	事前学修：前回学んだ英語表現の復習 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
9	Unit5 : A Helping Hand and Home (電化製品や価格に関する英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修：指示された箇所を予習する 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
10	Unit5 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(5)	事前学修：前回学んだ英語表現の復習 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
11	Unit6 : Going Places (乗り物、交通機関、道案内に関する英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修：指示された箇所を予習する 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
12	Unit6 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(6)	事前学修：前回学んだ英語表現の復習 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
13	Unit7 : Not Feeling So Good (痛み・疾病、医者への予約に関する英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修：指示された箇所を予習する 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
14	Unit7 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(7)	事前学修：前回学んだ英語表現の復習 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
15	ふりかえり：学習範囲の理解度を振り返りテストにて確認する、内容に関するフィードバック。	事前学修：これまで学んだ内容をふりかえる 事後学修：フィードバック内容を確認する	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（発表、ロールプレイング、ペアワーク、練習、）			
教科書	『New Connection Book 1 (CEFR A1-A2)』 Teruhiko Kadoyama 他、成美堂 ISBN:9784791934119			
参考文献	講義の際に指示する。			
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。授業内課題は返却時に指導する。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

科目ナンバリング
CE-1-EBA-04

学修成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●									
科目名	Listening II				単位認定者	相田 明子 (Aクラス)		評価の方法	授業内課題① (小テスト、提出課題)	35 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題② まとめテスト	50 %	
						授業形態	演習		授業時間数	30 時間	受講態度
						授業回数	15 回				
授業の概要	<p>本科目は、国際共通語である英語に、多くの地域による発音の変種が存在することを理解し、それぞれの発音の特徴を捉え、聴き取り能力を向上させることを目的とする。具体的には、音声学の知識を基に、英語の音を聴き分け、音の同化や消失、渡り音などについて理解し、正しく聴き取れるようになる。さらにディクテーションを行い、英語の強弱、リズムを的確に拾い、内容理解の正確さを高める。自身が発話する際にもこれらの英語の特性を意識した発話になるように、リピート練習等を取り入れる。場面による特有の会話表現も学修し、会話力向上につなげる。</p>										
到達目標	リスニング力を身に着け、日常会話の際に相手の意図が理解できる。又、自分の意思を相手に分かりやすい発音やイントネーションで話すことができるようになる。										
学修者への期待等	<p>カンヌ国際広告賞を受賞したTVコマーシャルを題材に扱ったテキストを採用する。約30秒という時間の中に効果的なメッセージを込めたTVコマーシャルはリスニング素材としても非常に有用である。予習段階で、該当する章の語彙やテーマに関して理解を深め、必要に応じて周辺知識の調査をしておくこと。また、授業内でおこなうスクリプトのロールプレイング、コマーシャルの主題に関するディスカッションや発表の際には、積極的な参加が期待される。</p>										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	Unit 8・Learning Languages① 1. Preliminary Reading ~ 3.Reading Comprehension				事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める				30	30	
2	Unit 8・Learning Languages② Task for TV Commercial 4. Vocabulary Preview ~ 9.Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループ				事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習				30	30	
3	Unit 9・Pepsi-Ask for More① 1. Preliminary Reading ~ 3.Reading Comprehension.				事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める				30	30	
4	Unit 9・Pepsi-Ask for More② Task for TV Commercials No.1 and No.2 4. Vocabulary Preview ~ 9.Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループ				事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習				30	30	
5	Unit 10・United Nations Development Programme① 1. Preliminary Reading ~ 3.Reading Comprehension				事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める				30	30	
6	Unit 10・United Nations Development Programme② Task for TV Commercial 4. Vocabulary Preview ~ 9.Utilizing Useful				事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習				30	30	
7	小テスト (Unit8~10) Unit 11・Disney-Magic Happens① 1. Preliminary Reading ~ 3.Reading Comprehension				事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める				30	30	
8	Unit 11・Disney-Magic Happens② Task for TV Commercial 4. Vocabulary Preview ~ 9.Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループ				事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習				30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
9	Unit 12 - Coca-Cola-For Everyone① 1. Preliminary Reading ~ 3. Reading Comprehension	事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める	30	30
10	Unit 12 - Coca-Cola-For Everyone② Task for TV Commercial 4. Vocabulary Preview ~ 9. Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループ	事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習	30	30
11	Unit 13 - Anti-Smoking Campaign① 1. Preliminary Reading ~ 3. Reading Comprehension.	事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める	30	30
12	Unit 13 - Anti-Smoking Campaign② Task for TV Commercials No.1 and No.2 4. Vocabulary Preview ~ 9. Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループ	事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習	30	30
13	小テスト(Unit11~13) Unit 15 - Hallmark of a Teacher① 1. Preliminary Reading ~ 3. Reading Comprehension.	事前学修：指示された予習をする 事後学修：新出語彙を整理、理解を深める	30	30
14	Unit 15 - Hallmark of a Teacher② Task for TV Commercials No.1 and No.2 4. Vocabulary Preview ~ 9. Utilizing Useful Words and Phrases. ロールプレイングとグループ	事前学修：指示された予習をする 事後学修：Transcript Competitionの復習	30	30
15	Unit 8~14の語彙・重要表現、文法表現等を復習、リスニング練習とReviewテスト	事前学修：まとめテストに向けた復習 事後学修：学んだ内容の理解を深める	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（発表、ロールプレイング、グループワーク、練習、ディスカッション）			
教科書	『English in 30 Seconds』Masayuki Aoki 2018 南雲堂 ISBN:9784523176183			
参考文献	特になし			
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。授業内課題、小テスト等は返却時に指導する。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

科目ナンバリング
CE-1-EBA-04

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●			

科目名	Listening II				単位認定者	相田 明子 (Bクラス)		評価の方法	授業内課題① (小テスト、提出課題)	35 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題② まとめテスト	50 %
						授業形態	演習		授業時間数	30 時間
				授業回数	15 回					

授業の概要
 本科目は、国際共通語である英語に、多くの地域による発音の変種が存在することを理解し、それぞれの発音の特徴を捉え、聴き取り能力を向上させることを目的とする。具体的には、音声学の知識を基に、英語の音を聴き分け、音の同化や消失、渡り音などについて理解し、正しく聴き取れるようになる。さらにディクテーションを行い、英語の強弱、リズムを的確に拾い、内容理解の正確さを高める。自身が発話する際にもこれらの英語の特性を意識した発話になるように、リピート練習等を取り入れる。場面による特有の会話表現も学修し、会話力向上につなげる。

到達目標
 基礎的なリスニング力を身に付け、日常会話の際に相手の意図が理解できる。又、自分の意思を相手に分かりやすい発音やイントネーションで話すことができるようになる。

学修者への期待等
 Listening I 同様、日常生活や公共の場で遭遇する話題・出来事を題材に、情報を正確に聴き取る練習を繰り返し行います。集中力を高めて授業に臨みましょう。ロールプレイングやペアワーク等で演習問題に取り組むことで理解度を深めます。また、リスニング力を向上させるためには、語彙・英語表現を習得することも重要です。新出語彙や文法に関する知識を、自ら進んで学ぶ意欲が期待されます。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	Unit 8 : The Big Screen (映画に関する英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修：指示された箇所を予習する 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
2	Unit 8 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(8)	事前学修：前回学んだ英語表現の復習 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
3	Unit 9 : How do you feel? (自己の感情や体調を描写する際によく使う英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修：指示された箇所を予習する 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
4	Unit 9 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(9)	事前学修：前回学んだ英語表現の復習 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
5	Unit 10 : All in Good Fun (好き・嫌いを使って自分の意見を言う、相手の意見を伺う) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修：指示された箇所を予習する 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
6	Unit 10 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(10)	事前学修：前回学んだ英語表現の復習 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
7	Unit 11 : Game Time (スポーツに関する語彙、助言の仕方に関する英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修：指示された箇所を予習する 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
8	Unit 11 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(11)	事前学修：前回学んだ英語表現の復習 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30
9	Unit 12 : Rain or Shine (天候に関する語彙、天気予報で使われる英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修：指示された箇所を予習する 事後学修：学んだ内容の理解を深める	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
10	Unit 12 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(12)	事前学修 : 前回学んだ英語表現の復習 事後学修 : 学んだ内容の理解を深める	30	30
11	Unit 13 : Eating Out (外食をする際に使用する語彙、注文の仕方や食事での会話表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修 : 指示された箇所を予習する 事後学修 : 学んだ内容の理解を深める	30	30
12	Unit 13 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(13)	事前学修 : 前回学んだ英語表現の復習 事後学修 : 学んだ内容の理解を深める	30	30
13	Unit 14 : School Life (職業に関する語彙、目標の設定や問題解決の際に用いる英語表現) リスニング練習・ペアワークを中心に活動する	事前学修 : 指示された箇所を予習する 事後学修 : 学んだ内容の理解を深める	30	30
14	Unit 14 : 前回のリスニング内容の復習、Reading & Writingに取り組み、Writingした英文を発表する。Review Quiz(14)	事前学修 : 前回学んだ英語表現の復習 事後学修 : 学んだ内容の理解を深める	30	30
15	ふりかえり : Unit 8~14の理解度をふりかえりテストにて確認する	事前学修 : これまで学んだ内容をふりかえる 事後学修 : フィードバック内容を確認する	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり : キーワード (発表、ロールプレイング、ペアワーク、練習)			
教科書	『New Connection Book 1 (CEFR A1-A2)』 Teruhiko Kadoyama 他、 成美堂 ISBN:9784791934119			
参考文献	講義の際に指示する。			
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。Quiz等は返却時に指導する。遅刻は授業開始10分以内とする。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-05				
	●	●								
科目名	Reading I				単位認定者	小松 義隆 (Aクラス)		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目の目的は、英語の読解力を向上させ、併せて、ボキャブラリービルディングを図ることである。合理的な構造の英語では、単語は文脈によって大きく意味が異なることを理解し、長文読解を通して、辞書の活用法を学ぶ。これにより、語彙を広げるだけでなく語源に基づいた英単語の構造を知り、表現の幅を広げ、英語コミュニケーション能力の向上にもつなげる。読解に関しては、パラグラフの構造、文章の構成を理解し、容易にトピックセンテンスを見つけられるようになることで逐語訳をせずに文意を把握する力の養成と読解速度の向上を図る。</p>									
到達目標	<p>学生個人が持っている知識を活用しながら現代社会の様々な話題に関する相当量の英文読み、早く・正確に内容を把握できる。段落や文章の構成を理解し、必要な情報を迅速に抜き出せる。辞書の活用法を学び、語彙を広げコミュニケーション能力の向上につなげる。</p>									
学修者への期待等	<p>英語4技能のうち知識の定着が特に重要となるのがReadingとVocabulary buildingである。本授業では科学・技術系の問題に焦点をあてた読み物を扱っているテキストを通し、学修を進めていく。人文科学の分野に興味がある学生にも身近に感じられるトピックで構成されているため、各自が周辺調査をすることで現在話題になっている事柄にも明るくなり、同時に読解力、語彙力をつけられるようになる。語彙を増やす取り組みとしては接頭辞、語幹、接尾辞に関してイラストを通してそれぞれのイメージをわかりやすく扱った「英単語の語源図鑑」を毎回の授業で扱い、後期に開講されるReading IIまで継続して使用することで着実な語彙力伸長も図る予定である。本授業で扱うトピック、語源等に興味をもって参加することを期待する。</p>									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	本授業の進め方について、予習、復習、評価についての説明。 Unit 1 Space Invaders—The evolution of Video Games 『英単語の語源図鑑』 Chapter 1 part 1				事前学修：「はじめに」を読み、テキストを概観して構成を見しておく。 テキストP.6～9までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30
2	Unit 2 What a Waste!—Food Loss and Food Waste 「英単語の語源図鑑」 Chapter 1 part 2				事前学修：テキストP.10～13までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30
3	Unit 3 Amory Lovins and Soft Technology 「英単語の語源図鑑」 Chapter 2 part 1				事前学修：P.14～17までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30
4	Unit 4 Lithium-ion Batteries—The Quest for Clean Power 「英単語の語源図鑑」 Chapter 2 part 2				事前学修：テキストP.18～21までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30
5	Unit 5 Today Robot Project 「英単語の語源図鑑」 Chapter 3 part 1				事前学修：テキストP.22～25までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
6	Unit 6 News Literacy—Watchdog or Cheerleader? 「英単語の語源図鑑」 Chapter 3 part 2	事前学修：テキストP. 26～29までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
7	Unit 7 Hayabusa-2—A Triumph for Public-Private Exploration 「英単語の語源図鑑」 Chapter 4 part 1	事前学修：テキストP. 30～33までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
8	Unit 8 Dr. Noriyuki Kawahara and Rocinantes 「英単語の語源図鑑」 Chapter 4 part 2	事前学修：テキストP. 34～37までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
9	Unit 9 Biomimicry in Japanese design 「英単語の語源図鑑」 Chapter 5 part 1	事前学修：テキストP. 38～41までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
10	Unit 10 What Plagues us 「英単語の語源図鑑」 Chapter 5 part 2	事前学修：テキストP. 42～45までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
11	Unit 11 A Cupful of Ideas 「英単語の語源図鑑」 Chapter 6 part 1	事前学修：テキストP. 46～49までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
12	Unit 12 Inclusion for Innovation 「英単語の語源図鑑」 Chapter 6 part 2	事前学修：テキストP. 50～53までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
13	Chapter 13 Ethical Shopping—The Choice is Yours 「英単語の語源図鑑」 Chapter 7 part 1	事前学修：テキストP. 54～57までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
14	Unit 14 The Social Dilemma 「英単語の語源図鑑」 Chapter 7 part 2	事前学修：テキストP. 58～61までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
15	Unit 15 Bill Gates and the Green Premium	事前学修：テキストP. 62～65までを予習しておくこと。 事後学修：テキストReading Sectionの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	『Reading Insight』松尾 秀樹、Alexander A. Bodnar他 2022 三修社(ISBN:978-4-384-33511-8) 『英単語の語源図鑑』清水健司、すずきひろし かんき出版(ISBN:978-4-7612-7345-3)			
参考文献	特になし			
備考	内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 状況により、遠隔授業になる場合があります。 授業内課題（各回の訳等）はUNIPAに提出してください。コメントをつける形式でフィードバックします。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
--

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-05				
	●	●								
科目名	Reading I				単位認定者	小松 義隆 (Bクラス)		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目の目的は、英語の読解力を向上させ、併せて、ボキャブラリービルディングを図ることである。合理的な構造の英語では、単語は文脈によって大きく意味が異なることを理解し、長文読解を通して、辞書の活用法を学ぶ。これにより、語彙を広げるだけでなく語源に基づいた英単語の構造を知り、表現の幅を広げ、英語コミュニケーション能力の向上にもつなげる。読解に関しては、パラグラフの構造、文章の構成を理解し、容易にトピックセンテンスを見つけられるようになることで逐語訳をせずに文意を把握する力の養成と読解速度の向上を図る。									
到達目標	1. 学生個人が持っている知識を活用しながら現代社会の様々な話題に関する相当量の英文読み、早く・正確に内容を把握できる。 2. 段落や文章の構成を理解し、必要な情報を迅速に抜き出せる。 3. 辞書の活用法を学び、語彙を広げコミュニケーション能力の向上につなげることができる。									
学修者への期待等	英語4技能のうち知識の定着が特に重要となるのがReadingとVocabulary buildingである。本授業では「全体的な構造を考えながら英文エッセイを読む」をコンセプトとし、論理展開に沿ったPassageを読むことで読解力を身に着けるテキストに基づいて学修を進めていく。語彙を増やす取り組みとしては接頭辞、語幹、接尾辞に関してイラストを通してそれぞれのイメージをわかりやすく扱った「英単語の語源図鑑」を毎回の授業で扱い、後期に開講されるReadingⅡまで継続使用することで着実な語彙力伸長も図る予定である。本授業で扱う内容（テキストのトピック・語源等）に興味をもって参加することを期待する。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	本授業の進め方について、予習、復習、評価についての説明。 Part I-1 Conclusion / Reasons 理由で押し切る！ 『英単語の語源図鑑』Chapter 1 part 1				事前学修：「はしがき」を読み、テキストを概観して構成を見ておく。 テキストp. 11-14の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				30	30
2	Part I-2 Social Trend 社会事象を考える 「英単語の語源図鑑」Chapter 1 part 2				事前学修：テキストp. 15-18の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				30	30
3	Part I-3 Result / Cause 原因を究明する 「英単語の語源図鑑」Chapter 2 part 1				事前学修：テキストp. 19-24の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				30	30
4	Part II-4 Several Explanations いくつかの説明 「英単語の語源図鑑」Chapter 2 part 2				事前学修：テキストp. 25-28の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				30	30
5	Part II-5 Comparison 比較してみよう！ 「英単語の語源図鑑」Chapter 3 part 1				事前学修：テキストp. 29-32の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
6	Part II-6 For and Against 賛成と反対 「英単語の語源図鑑」 Chapter 3 part 2	事前学修：テキストp. 33-36の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
7	Part II-7 Classification 分類してみよう！ 「英単語の語源図鑑」 Chapter 4 part 1	事前学修：テキストp. 37-42の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
8	Part III-8 History 歴史を知ろう！ 「英単語の語源図鑑」 Chapter 4 part 2	事前学修：テキストp. 43-46の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
9	Part III-9 Process 歴史を知ろう！ 「英単語の語源図鑑」 Chapter 5 part 1	事前学修：テキストp. 47-50の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
10	Part III-10 Cause and Effect 原因と結果 「英単語の語源図鑑」 Chapter 5 part 2	事前学修：テキストp. 51-56の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
11	Part IV-11 Definition of a New Word 新しい言葉を説明しよう！ 「英単語の語源図鑑」 Chapter 6 part 1	事前学修：テキストp. 57-60の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
12	Part IV-12 Research 調査してみよう！ 「英単語の語源図鑑」 Chapter 6 part 2	事前学修：テキストp. 61-64の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
13	Part IV-13 New Products、 New Service 新製品・新サービス 「英単語の語源図鑑」 Chapter 7 part 1	事前学修：テキストp. 65-68の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
14	Part IV-14 Reading Graphs グラフを読む 「英単語の語源図鑑」 Chapter 7 part 2	事前学修：テキストp. 69-73の内容を予習する。 事後学修：テキストのReading A、Bの翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
15	既習範囲のまとめと確認	事前学修：これまでの授業で学修した範囲の確認 事後学修：「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	『Skills for Better Reading <Basic>』石谷 由美子 2018 南雲堂 (ISBN:978-4-523-17881-1) 『英単語の語源図鑑』清水健司、すずきひろし かんき出版 (ISBN:978-4-7612-7345-3)			
参考文献	特になし			
備考	内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 状況により、遠隔授業になる場合があります。 授業内課題（各回の訳等）はUNIPAに提出してください。コメントをつける形式でフィードバックします。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-06				
	●	●								
科目名	Reading II				単位認定者	小松 義隆 (Aクラス)		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	<p>「Reading I」で学修した内容を踏まえ、辞書を正しく活用しながら、専門的な内容を含んだやや高度な英文の読解能力を養成することを目的とする。科学記事や、新聞記事など、ジャンルごとの文体や構成を理解し、そこに現れる専門用語や省略表現などを学び、継続的に語彙量を増やす。具体的な方法としては、スキミング、スキミング、スラッシュリーディングなどの方法を用いながら意味のかたまりを捉え、長い文章の中から必要な情報を素早く的確に把握できる能力を培う。</p>									
到達目標	<p>「Reading & Vocabulary I」より専門的・高度になった内容を扱う。多種多様なトピックに関して、世界に発信・共有する価値のある概念をプレゼンテーションする番組、TED Talkをとり挙げたテキストを使用し、口語英語の文体に慣れ、内容を正確に把握できるようになる。口語英語を読み解き訳することで通訳に必要な素養について自分たちで考え、内容を自然な日本語にまとめることができるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>プレゼンテーションで使用される口語表現に慣れ、プレゼンテーションの構成を参考にしてください。プレゼンターは基本的に早口で専門的な語彙を使用しています。発表の中には言葉の間違いや言い直し、ジョークの類も多々出てきますが、それぞれの内容に興味をもって取り組んでください。そして自然な日本語に変換することを意識してください。インターネットや辞書等を活用し、各トピックや記事の周辺情報も調べてください。前期から使用している『英単語の語源図鑑』を継続して使用することになります。</p>									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	本授業の進め方について、予習、復習、評価について Unit 1 LIFE CHANGES Lesson A: The Power to Change (Matt Cutts) 『英単語の語源図鑑』 Chapter 8 part 1				事前学修：テキストの使い方WHAT IS 21st CENTURY READINGに目を通す。 授業計画に対応するLesson Aの予習。 事後学修：テキストPre-Readingの内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30
2	Unit 1 LIFE CHANGES Lesson B: Try Something New for 30 Days(3:24) (Matt Cutts) 『英単語の語源図鑑』 Chapter 8 part 2				事前学修：授業計画と対応するTED Talkを見てスクリプトの内容を翻訳する。 事後学修：TED Talkの翻訳内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30
3	Unit 2 TEAM POWER Lesson A: The Marshmallow Challenge 『英単語の語源図鑑』 Chapter 8 part 2				事前学修：授業計画に対応するLesson Aの予習。 事後学修：テキストPre-Readingの内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30
4	Unit 2 TEAM POWER Lesson B: Build a Tower、 Build a Team(6:48) (Tom Wujec) 『英単語の語源図鑑』 Chapter 9 part 2				事前学修：授業計画と対応するTED Talkを見てスクリプトの内容を翻訳する。 事後学修：TED Talkの翻訳内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30
5	Unit 3 OCEAN WONDERS Lesson A: Message from the Sea 『英単語の語源図鑑』 Chapter 9 part 2				事前学修：授業計画に対応するLesson Aの予習。 事後学修：テキストPre-Readingの内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30
6	Unit 3 OCEAN WONDERS Lesson B: Underwater Astonishments(5:21) (David Gallo) 『英単語の語源図鑑』 Chapter 9 part 2				事前学修：授業計画と対応するTED Talkを見てスクリプトの内容を翻訳する。 事後学修：TED Talkの翻訳内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30
7	Unit 4 WHAT WE WEAR Lesson A: The Science of Style 『英単語の語源図鑑』 Chapter 10 part 1				事前学修：授業計画に対応するLesson Aの予習。 事後学修：テキストPre-Readingの内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	Unit 4 WHAT WE WEAR Lesson B: Wear Nothing New(5:21) (Jessi Arrington) 『英単語の語源図鑑』 Chapter 10 part 1	事前学修：授業計画と対応するTED Talkを見てスクリプトの内容を翻訳する。 事後学修：TED Talkの翻訳内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
9	Unit 5 MOMENTS AND MEMORIES Lesson A: Preserving the Past 『英単語の語源図鑑』 Chapter 10 part 2	事前学修：授業計画に対応するLesson Aの予習。 事後学修：テキストPre-Readingの内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
10	Unit 5 MOMENTS AND MEMORIES Lesson B-1: One Second Every Day(7:59) (前半部分) (Cesar Kuriyama) 『英単語の語源図鑑』 Chapter 10 part 2	事前学修：授業計画と対応するTED Talkを見てスクリプトの内容を翻訳する。 事後学修：TED Talkの翻訳内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
11	Unit 5 MOMENTS AND MEMORIES Lesson B-2: One Second Every Day(7:59) (後半部分) (Cesar Kuriyama) 『英単語の語源図鑑』 Chapter 10 part 2	事前学修：授業計画と対応するTED Talkを見てスクリプトの内容を翻訳する。 事後学修：TED Talkの翻訳内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
12	Unit 7 ROAD TO FAME Lesson A: Going Viral 『英単語の語源図鑑』 Chapter 11 part 2	事前学修：授業計画に対応するLesson Aの予習。 事後学修：テキストPre-Readingの内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
13	Unit 7 ROAD TO FAME Lesson B: Why Videos Go Viral(7:16) (Kevin Allocca) 『英単語の語源図鑑』 Chapter 10 part 2	事前学修：授業計画と対応するTED Talkを見てスクリプトの内容を翻訳する。 事後学修：TED Talkの翻訳内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
14	Unit 9 COMMUNITY VOICES Lesson A: Art in the Community 『英単語の語源図鑑』 Chapter 12 part 2	事前学修：授業計画に対応するLesson Aの予習。 事後学修：テキストPre-Readingの内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
15	Unit 9 COMMUNITY VOICES Lesson B: Before I Die, I Want To...(6:16) (Candy Chang) 『英単語の語源図鑑』 Chapter 12 part 2	事前学修：授業計画と対応するTED Talkを見てスクリプトの内容を翻訳する。 事後学修：TED Talkの翻訳内容と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（プレゼンテーション）			
教科書	『21st CENTURY READING LEVEL 1』 Robin Longshaw・Laurie Blass 2015 National Geographic Learning/Cengage Learning (ISBN:978-1-305-26459-5) 『英単語の語源図鑑』 清水健司、すずきひろし かんき出版 (ISBN:978-4-7612-7345-3) (※Reading Iの授業から継続使用)			
参考文献	なし			
備考	内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 状況により、遠隔授業になる場合があります。 授業内課題（各回の訳等）はUNIPAに提出してください。コメントをつける形式でフィードバックします。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

科目ナンバリング
CE-1-EBA-06

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●			

科目名	Reading II				単位 認定者	小松 義隆 (Bクラス)		評価の方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	「Reading I」で学修した内容を踏まえ、辞書を正しく活用しながら、専門的な内容を含んだやや高度な英文の読解能力を養成することを目的とする。科学記事や、新聞記事など、ジャンルごとの文体や構成を理解し、そこに現れる専門用語や省略表現などを学び、継続的に語彙を増やす。具体的な方法としては、スキミング、スキヤニング、スラッシュリーディングなどの方法を用いながら意味のかたまりを捉え、長い文章の中から必要な情報を素早く的確に把握できる能力を培う。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生個人が持っている知識を活用しながら現代社会の様々な話題に関する相当量の英文読み、早く・正確に内容を把握できる。 2. 段落や文章の構成を理解し、必要な情報を迅速に抜き出せる。 3. 辞書の活用法を学び、語彙を広げコミュニケーション能力の向上につなげることができる。 									
学修者への期待等	オンライン英字新聞Time for Kidsの記事をとりあげる。Up-to-dateな時事ネタを読み、周辺調査をすることで社会情勢にも明るくなり、同時に読解力、語彙力をつける。語彙を増やす取り組みとしては接頭辞、語幹、接尾辞に関してイラストを通してそれぞれのイメージをわかりやすく扱った「英単語の語源図鑑」をReading Iの授業から継続使用することで着実な語彙力伸長も図る予定である。本授業で扱う内容(テキストのトピック・語源等)に興味をもって参加することを期待する。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	本授業の進め方について、予習、復習、評価について Time for Kids ① Article 1 (初回授業時に配布) 記事内容の翻訳 (関連情報検索) 「英単語の語源図鑑」 Chapter 8 part 1				事前学修：なし (Time for Kids記事を初回授業時に配布する。) 事後学修：「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				0	30
2	Time for Kids ② Article 1 (初回授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表 「英単語の語源図鑑」 Chapter 8 part 2				事前学修：初回授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				30	30
3	Time for Kids ③ Article 2 (2回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表 「英単語の語源図鑑」 Chapter 9 part 1				事前学修：2回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				30	30
4	Time for Kids ④ Article 3 (3回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表 「英単語の語源図鑑」 Chapter 9 part 2				事前学修：3回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				30	30
5	Time for Kids ⑤ Article 4 (4回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表 「英単語の語源図鑑」 Chapter 10 part 1				事前学修：4回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				30	30
6	Time for Kids ⑥ Article 5 (5回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表 「英単語の語源図鑑」 Chapter 10 part 2				事前学修：5回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	Time for Kids ⑦ Article 6 (6回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表 「英単語の語源図鑑」 Chapter 11 part 1	事前学修：6回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
8	Time for Kids ⑧ Article 7 (7回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表 「英単語の語源図鑑」 Chapter 11 part 2	事前学修：7回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
9	Time for Kids ⑨ Article 8 (8回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表 「英単語の語源図鑑」 Chapter 12 part 1	事前学修：8回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
10	Time for Kids ⑩ Article 9 (9回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表 「英単語の語源図鑑」 Chapter 12 part 2	事前学修：9回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳と「英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめUNIPAに提出する。	30	30
11	Time for Kids ⑪ Article 10 (10回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表	事前学修：10回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳をUNIPAに提出する。	30	30
12	Time for Kids ⑫ Article 11 (11回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表	事前学修：11回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳をUNIPAに提出する。	30	30
13	Time for Kids ⑬ Article 12 (12回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表	事前学修：12回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳をUNIPAに提出する。	30	30
14	Time for Kids ⑭ Article 13 (13回目授業終了時に配布) 記事内容 (関連情報) 発表	事前学修：13回目授業時に配布された記事を読んでくる。 事後学修：記事の翻訳をUNIPAに提出する。	30	30
15	既習範囲の総まとめと確認	事前学修：これまで配布した記事をまとめる。 事後学修：これまで読んだ記事を改めて通読する。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (発表)			
教科書	オンライン英字新聞ですので、適宜記事を配布します。 『英単語の語源図鑑』清水健司、すずきひろし かんき出版 (ISBN:978-4-7612-7345-3) (※Reading I の授業から継続使用)			
参考文献	授業時に適宜紹介します。			
備考	内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 状況により、遠隔授業になる場合があります。 授業内課題 (各回の訳等) はUNIPAに提出してください。コメントをつける形式でフィードバックします。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-07			
	●	●							
科目名	Grammar I				単位認定者	小松 義隆 (Aクラス)		評価の方法 授業内課題 (小テスト、 ふりかえり 等) 80 % 受講態度 (発表等) 20 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	本科目は、英語コミュニケーションの基盤となる英文法を理解し、様々なコミュニケーションの場面で正しく活用できるようになることを目的とする。既習事項の再確認の上に、暗記によらず、文法事項を論理的に理解し、その定着を図る。加えて、英作文は文法事項定着の一手段と捉え、日記等の課題を設定し、英文の産出の機会を十分に用意する。これにより、より発展的な英語使用者となるための強固な基礎力を育成する。								
到達目標	英文法を理解し、コミュニケーションに活用することができる。 伝えたいこと、説明したいことを平易な英文で表現できるようになる。								
学修者への期待等	授業には英和辞典を持参すること（スマートフォンの辞書、翻訳機能では学修には足りません。辞書は必携です。）ペアワーク等で演習問題に取り組むことで理解度を深めます。指定された予習・復習を行い授業に臨むこと。英語力向上のためには、授業外の学修を確実にを行うことが欠かせません。								
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業の概要確認。 Factbook: 文型 (1) , (2) 5文型の解説と演習 自動詞と他動詞				事前学修: 文型 (1) (2) (p. 10~13)の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。			60	30
2	Factbook: 文型 (3) , Plus 解説と演習				事前学修: 文型 (3) , Plus (p. 14~17)の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。			60	30
3	Factbook: 時を表す表現 (1) 現在形, 過去形, (2) 未来表現 解説と演習				事前学修: 時を表す表現 (1) 現在形, 過去形, (2) 未来表現 (p. 18~21)の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。			60	30
4	Factbook: 完了形 (1) 現在完了形 解説と演習				事前学修: 完了形 (1) 現在完了形 (p. 22~23)の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。			60	30
5	Factbook: 完了形 (2) 過去完了形, 未来完了形, 現在完了進行形 解説と演習				事前学修: 完了形 (2) 過去完了形, 未来完了形, 現在完了進行形 (p. 24~25)の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。			60	30
6	完了形に関する問題演習				事前学修: 完了形の学修内容の振り返り。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。			30	30
7	ふりかえり: Factbookの学修範囲の理解度を小テストにて確認する。				事前学修: これまでに学修した内容の振り返り。 事後学修: 小テストの内容を確認する。			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	Factbook: 助動詞 (1) must / may / will 解説と演習	事前学修: 助動詞 (1) must / may / will (p. 26~27) の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。	60	30
9	Factbook: 助動詞 (2) (3) can / should / 控えめ表現 助動詞+完了形 解説と演習	事前学修: 助動詞 (2) (3) can / should / 控えめ表現 / 助動詞+完了形 (p. 28~31) の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。	60	30
10	Factbook: 助動詞 (3) had better / 控えめ表現 助動詞+完了形 解説と演習	事前学修: 助動詞 (3) had better / 控えめ表現 / 助動詞+完了形 (p. 28~31) の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。	60	30
11	Factbook: 受動態 (1) 受動態の基本形 日本語との違い 解説と演習	事前学修: 受動態 (1) 受動態の基本形 日本語との違い (p. 32~33) の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。	60	30
12	Factbook: 受動態 (2) 前置詞と受動態 / SV00 SVOC 解説と演習	事前学修: 受動態 (2) 前置詞と受動態 / SV00 SVOC (p. 34~35) の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。	60	30
13	Factbook: Option③④⑤ 名詞 (1) (2) (3) 解説と演習	事前学修: Option③④⑤ 名詞 (1) (2) (3) (p. 84~89) の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。	60	30
14	Factbook: Option ⑥形容詞 ⑦副詞 解説と演習	事前学修: Option ⑥形容詞 ⑦副詞 (p. 90~93) の予習。 事後学修: 学修した内容をまとめてUNIPAに提出する。	60	30
15	ふりかえり: Factbookの学修範囲の理解度を小テストにて確認する。	事前学修: これまでに学修した内容の振り返り。 事後学修: 小テストの内容を確認する。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード (ペアワーク)			
教科書	『総合英語 FACTBOOK [3rd Edition] English Grammar Advanced in 45 Lessons』 桐原書店編集部編 桐原書店 (ISBN:9784342212376)			
参考文献	『総合英語FACTBOOK これからの英文法』 大西隼人, ポールマクベイ 桐原書店 その他, 授業時に適宜紹介する。			
備考	受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。授業に関するフィードバックは授業内またはUNIPA上で行う。状況により, 遠隔授業に変更する場合がある。			
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)				

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-07				
	●	●								
科目名	Grammar I				単位認定者	近江 貞子 (Bクラス)		授業内課題 (確認テスト)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト等)	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度 (発表等)
						授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目は、英語コミュニケーションの基盤となる英文法を理解し、様々なコミュニケーションの場面において正しく活用できるようになることを目的とする。既習事項の再確認の上に、暗記によらず、文法事項を論理的に理解し、その定着を図る。加えて、英作文は文法事項定着の一手段と捉え、日記等の課題を設定し、英文の産出の機会を十分に用意する。これにより、より発展的な英語使用者となるための強固な基礎力を育成する。</p>									
到達目標	<p>英文法を理解し、コミュニケーションに活用することができる。 伝えたいこと、説明したいことを平易な英文で表現できるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>授業には英和辞典を持参すること（スマートフォンの辞書、翻訳機能では学修には足りません。辞書は必携です。）指定された予習・復習を行い授業に臨むこと。英語力向上のためには、授業外の学修を確実に行うことが欠かせません。また、active learning(授業ではグループワーク・ペアワーク・相互演習・look up and sayなど)を適宜取り入れるので積極的に参加してください。</p>									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	授業の概要確認。Factbook: 文型 (1) (2) 5文型の解説と演習 自動詞と他動詞				事前学修: 事前に配布されたプリントを学習してくる 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと				30	30
2	Factbook: 文型 (1) (2) 5文型の復習 文型 (3) 文型Plus 解説と演習				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと				30	30
3	暗唱例文小テスト (文型)、Factbook: 時を表す表現 (1) (2) 解説と演習				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと				30	30
4	暗唱例文小テスト (時を表す表現)、Factbook: 完了形 (1) 現在完了形 解説と演習				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと				30	30
5	Factbook: 完了形 (2) 過去完了形 完了進行形 解説と演習				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと				30	30
6	暗唱例文小テスト (完了形)、完了形の関連問題演習				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと				30	30
7	ふりかえり: Factbookの学修範囲の理解度を小テストにて確認する。				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと				30	30
8	Factbook: 助動詞 (1) must / may / will 解説と演習				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
9	Factbook: 助動詞 (2) can / should / 解説と演習	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
10	Factbook: 助動詞 (3) had better / 控えめ表現 / 助動詞+完了形 解説と演習	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
11	助動詞の関連問題演習 暗唱例文小テスト (助動詞)	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
12	Factbook: 受動態 (1) 受動態の基本形 日本語との違い 解説と演習	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
13	Factbook: 受動態 (2) 前置詞と受動態 / SV00 SVOC 解説と演習	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
14	受動態の関連問題演習 暗唱例文小テスト (受動態)	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
15	ふりかえり: ここまで学修した範囲の復習を行う。	事前学修: 前期に学んだこと全ての復習しておくこと 事後学修: 期末試験に向けて準備をすること	60	120
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード (グループワーク、ペアワーク、相互演習、look up and sayなど)			
教科書	『総合英語 FACTBOOK [3rd Edition] English Grammar Standard in 27 Lessons』 桐原書店編集部編 桐原書店 ISBN:9784342212338			
参考文献	『総合英語FACTBOOK これからの英文法』 大西隼人、ポールマクベイ 桐原書店 その他、授業時に適宜紹介する。			
備考	受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する可能性がある。小テスト等のフィードバックはその都度、授業内に行う。状況により、遠隔授業に変更する可能性がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-08					
	●	●									
科目名	Grammar II				単位認定者	未定		授業内課題① 小テスト	45 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題② まとめテスト	40 %	
						授業時間数	30 時間		受講態度	15 %	
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	「Grammar I」で学修した内容を踏まえ、より高次な文法事項についての的確に理解し、多様なコミュニケーションの場面において正しく活用できるようになることを目的とする。英語文章の展開の仕方、段落構造について理解を深めて行く。特に、文章全体の内容の理解や論理の組み立てに最も重要となるディスコースマーカー（Therefore, However, In addition等）に重点を置いて学習する。各段落内部の構造（トピックセンテンス、例証、結論）の構造も理解し、段落単位で英作文を作成できるようになることを目指す。										
到達目標	英文法を理解し、コミュニケーションに活用することができる。 伝えたいこと、説明したいことを平易な英文で表現し、段落単位にまとめることができる。										
学修者への期待等	発表・ペアワーク等で演習問題に取り組むことで理解度を深めます。指定された予習・復習を行い授業に臨むこと。英語力向上のためには、授業外の学修を確実にを行うことが欠かせません。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	未定（開講が決まり次第、別途通知します）										
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）										
教科書	未定										
参考文献											
備考											
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)											

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-08				
	●	●								
科目名	Grammar II				単位認定者	近江 貞子 (Bクラス)		授業内課題等 (小テスト、 ふりかえり)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題(発表等)	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「Grammar I」で学修した内容を踏まえ、より高次な文法事項についての的確に理解し、多様なコミュニケーションの場面において正しく活用できるようになることを目的とする。英語文章の展開の仕方、段落構造について理解を深めて行く。特に、文章全体の内容の理解や論理の組み立てに最も重要となるディスコスマーカー(Therefore、However、In addition等)に重点を置いて学習する。各段落内部の構造(トピックセンテンス、例証、結論)の構造も理解し、段落単位で英作文を作成できるようになることを目指す。									
到達目標	英文法を理解し、コミュニケーションに活用することができる。 伝えたいこと、説明したいことを平易な英文で表現し、段落単位にまとめることができる。									
学修者への期待等	授業には英和辞典は必携です。英語力向上のためには授業外の学修を確実に行うことが欠かせませんので、指定された予習・復習を行い授業に臨むこと。また、active learning(授業ではグループワーク、ペアワーク、相互演習、look up and sayなど)を適宜取り入れるので積極的に参加してください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	授業の概要確認。Factbook: 不定詞(1)(2)名詞的用法 形容詞的用法、副詞的用法 否定 知覚動詞・使役動詞、 解説と演習				事前学修: 前期の授業を総復習しておくこと(特に文型と品詞) 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	30	
2	Factbook: 不定詞(3)SV0+toV 重要表現 完了形の不定詞 解説と演習、不定詞Plus				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	30	
3	暗唱例文小テスト(不定詞) 不定詞に関連する演習問題				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	30	
4	Factbook: 動名詞(1)(2) 主語・目的語・説明語句としての動名詞 不定詞と動名詞、動名詞の重要表現 解説と演習				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	30	
5	動名詞に関連する演習問題 暗唱例文小テスト(動名詞)				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	30	
6	Factbook: 分詞(1) 名詞修飾・SVC/SVOC 解説と演習				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	30	
7	Factbook: 分詞(2) 動詞句の修飾 解説と演習				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	30	
8	中間まとめ: Factbookの学修範囲の理解度を小テストにて確認する。				事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
9	Factbook: 比較(1) 原級 比較級 解説と演習	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
10	Factbook: 比較(2) 最上級 解説と演習、比較 Plus さまざまな表現	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
11	比較に関連した問題演習 暗唱例文小テスト(比較)	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
12	Factbook: 関係詞(1) who / which / whose 主格・目的格について、(2) that / 省略解説と演習	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
13	Factbook: 関係詞(3) 関係副詞 非制限用法 解説と演習	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
14	関係詞に関連する演習問題 暗唱例文小テスト(関係詞)	事前学修: 授業中に指示されたページを予習しておくこと 事後学修: 授業内容を復習し、知識を定着させておくこと	30	30
15	ふりかえり: ここまで学修した範囲の復習を行う。	事前学修: 後期に学んだこと全ての復習しておくこと 事後学修: 期末試験に向けて準備をすること	60	120
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード(グループワーク、ペアワーク、相互演習、look up and sayなど)			
教科書	『総合英語 FACTBOOK [3rd Edition] English Grammar Standard in 27 Lessons』 桐原書店編集部編 桐原書店 ISBN:9784342212338			
参考文献	『総合英語FACTBOOK これからの英文法』大西隼人、ポールマクベイ 桐原書店 その他、授業時に適宜紹介する。			
備考	上記以外の予習・復習については、授業時に説明する。小テスト等のフィードバックはその都度、授業内で行う。状況により、遠隔授業に変更する場合がある。受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-17				
		●	●							
科目名	Speaking Skills I				単位認定者	ヒーブ ジョナサン		授業内課題 (最終スピーチ)	35 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (その他)	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	25 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目の目的は、不特定多数の前でスピーチができるようになることである。まずPublic Speakingの種類とその特性を理解し、効果的なプレゼンテーションを行ううえで、必要不可欠な手法及び表現パターンを学修していく。スピーチやプレゼンテーションのモデルケースを参考に、ビジネスプレゼンテーションを含め学生自らが選んだ題材について、発表するスキルを養うことを企図する。</p>									
到達目標	The students are expected to focus on using the tools they will gain during this course and use them to improve the way they produce and prepare speeches for public speaking.									
学修者への期待等	The students will be expected to discuss and learn English connected with a range of different topics, prepare and make speeches on these topics while taking feedback on board.									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	Speech 1: Self Introductions; The IPA, Topic 1: Reading, dicussion, vocabulary work and group work.				事前学修 : None 事後学修 : Speech preparation			0	30	
2	Speaking Task 1: Information gathering, Vowel articulation, Speech feedback and group work.				事前学修 : Speech preparation 事後学修 : Speech preparation			30	30	
3	Speech 1: Presentation, Q and A session, IPA practice and group work.				事前学修 : Speech preparation 事後学修 : None			30	0	
4	Speech 2: A person I admire; Consonant articulation, Topic 2: Reading, dicussion, vocabulary work and group work.				事前学修 : None 事後学修 : Speech preparation			0	30	
5	Speaking Task 2: Skills and achievements, linking sounds, Speech feedback and group work.				事前学修 : Speech preparation 事後学修 : Speech preparation			30	30	
6	Speech 2: Presentation, Q and A session, IPA practice and group work.				事前学修 : Speech preparation 事後学修 : None			30	0	
7	Speech 3: A place of importance; silent or unspoken sounds, Topic 3: Reading, dicussion and group work.				事前学修 : None 事後学修 : Speech preparation			0	30	
8	Speaking Task 3: Comparing destinations, Intonation, Speech feedback and group work.				事前学修 : Speech preparation 事後学修 : Speech preparation			30	30	
9	Speech 3: Presentation, Q and A session, IPA practice and group work.				事前学修 : Speech preparation 事後学修 : None			30	0	
10	Speech 4: Thinking of the future; Projection, Topic 4: Reading, dicussion, vocabulary work and group work.				事前学修 : None 事後学修 : Speech preparation			0	30	
11	Speaking Task 4: Making plans, Using a thesaurus, Speech feedback and group work.				事前学修 : Speech preparation 事後学修 : Speech preparation			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
12	Speech 4: Presentation, Q and A session, IPA practice and group work.	事前学修 : Speech preparation 事後学修 : None	30	0
13	Speech 5: A career worth doing; Closing a speech Topic 5: Reading, dicussion, vocabulary work and group work.	事前学修 : None 事後学修 : Speech preparation	0	30
14	Speaking Task 5: What makes a good employee, Tempo, Speech feedback and group work.	事前学修 : Speech preparation 事後学修 : Speech preparation	30	30
15	Speech 5: Presentation, Q and A session, IPA practice and group work.	事前学修 : Speech preparation 事後学修 : None	30	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり : キーワード (グループワーク)			
教科書	None			
参考文献	None			
備考	Feedback will be on going.			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-18			
		●	●						
科目名	Speaking Skills II				単位認定者	スミス アンソニー		評価の方法 授業内課題（プレゼンテーションを含む） 80 % 受講態度 20 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	<p>本科目はディベートやディスカッションに活用するスキルを学ぶものである。そのスキルとは、帰納的あるいは演繹的な議論上での差異を明らかにし、主張と論証の方法、先入観や事実や意見を明瞭化する手段である。講義では、多岐にわたるトピックの教材を使用する。学生のディベートやクリティカルシンキングの技術を高め、効果的なグループディスカッションやディベートを行うことができるようになる。</p>								
到達目標	<p>身近な話題に限らず、幅広い話題に関して、自分の考えを論理的かつ積極的に、英語でディベートできる力を身につけることができる。</p>								
学修者への期待等	<p>授業には、テキスト、辞書（言語の学修に辞書は必須）、ノート、ファイル（授業で渡されたプリント等を整理できるもの）を必ず持参すること。また、授業の前に必ず予習しておくこと。各ユニットのExercisesを事前にやっておくことが絶対条件である。分からない語彙があれば辞書で調べておくこと。</p>								
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	Unit 1. Eating Well (Vocabulary & Reading)				事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。 事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。			60	30
2	Unit 2. Personality Types (Vocabulary & Reading)				事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。 事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。			60	30
3	Unit 3. Sports/Music (Vocabulary & Reading)				事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。 事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。			60	30
4	Unit 4. Animal Rights (Vocabulary & Reading)				事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。 事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。			60	30
5	Unit 5. Lifestyles (Vocabulary & Reading) Presentation				事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。 事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。			60	30
6	Unit 6. Drinking/Smoking (Vocabulary & Reading)				事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。 事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。			60	30
7	Unit 7. Executive Salaries (Vocabulary & Reading)				事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。 事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。			60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	Unit 8. Endangered Species (Vocabulary & Reading)	事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。	60	30
9	Unit 9. Abstract Art/Movies (Vocabulary & Reading)	事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。	60	30
10	Unit 10. Man's Best Friend (Vocabulary & Reading) Presentnation	事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。	60	30
11	Unit 11. Gun Control (Vocabulary & Reading)	事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。	60	30
12	Unit 12. Population Control (Vocabulary & Reading)	事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。	60	30
13	Unit 13. The Influence of Television (Vocabulary & Reading)	事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。	60	30
14	Unit 14. Summer or Winter (Vocabulary & Reading)	事前学修：全てのExercisesを事前にやっておくこと。Pairwork、及びDiscussionに備え、自らの意見を纏めておくこと。事後学修：しっかり復習し、要点を確認する。	60	30
15	Final Presentnation	事前学修：Topicを選び、プレゼンテーションを準備する。 事後学修：筆記試験の準備をする。	90	90
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (Pairwork, Discussion, Presentation)			
教科書	My Opinion Your Opinion Second Edition Paul McLean MACMILLAN LANGUAGEHOUSE ISBN4-7773-6029-6C3082			
参考文献	なし			
備考	プレゼンテーションについては事前に内容をチェック。小テストについては採点し、返却してフィードバックをおこなう。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-06				
	●	●								
科目名	Extensive Reading				単位認定者	小松 義隆		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	学生個人の英語レベルに応じて、各自が辞書を引かずに読める程度の易しい英語で書かれた本から読み始め、できるだけ多く読むことで、英文に慣れ、読む速度を上げ、多様な表現に触れ、語彙を広げることを目的とする。読み終えた本の語数を記録し、継続して多読の記録をつける。これに加え、多くの英語の本を読めた達成感を味わうことで、自分の英語力についての自信を高め、英語でのコミュニケーションを積極的に図れるようになることにつなげる。									
到達目標	多くの英語の本を読むことを通し英文読解に慣れ、止まることなく正確に読めるようになる。読解の過程を通し、主に読み物に現れる様々な表現や文体に慣れ、語彙を広げられるようになる。多読を行った結果として自分の英語読解力、語彙力への自信を高め、積極的に英語でコミュニケーションが図れるようになる。									
学修者への期待等	本科目は授業内はもちろんですが、授業外での個々の多読に取り組む姿勢が特に重要です。英文を読む際に抵抗がなくなるようにするために、日ごろから様々なジャンルの英語の文章を読む習慣をつけてください。また、新たに覚えた単語や表現等はノートに記録を取るようにしてください。学科で使用するオンラインXreadingによる多読に可能な限り取り組んでください（後期だけで6万語が判断基準になります）。辞書は必携です。中央キャンパス図書館の多読教材も活用します。毎回の授業で読んだ内容に関してはReading Reportを提出してもらいます（形成的評価）。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業ガイダンスと「Extensive Reading」への導入				事前学修：なし（初回授業で「Extensive Reading」の実践に関して解説する。） 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。			0	30	
2	Xreading実践（1回目30分程度）、多読教材：1冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。				事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。			60	30	
3	Xreading実践（2回目30分程度）、多読教材：2冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。				事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。			60	30	
4	Xreading実践（3回目30分程度）、多読教材：3冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。				事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。			60	30	
5	Xreading実践（4回目30分程度）、多読教材：4冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。				事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。			60	30	
6	Xreading実践（5回目30分程度）、多読教材：5冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。				事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。			60	30	
7	Xreading実践（6回目30分程度）、多読教材：6冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。				事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。			60	30	
8	Xreading実践（7回目30分程度）、多読教材：7冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。				事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。			60	30	
9	Xreading実践（8回目30分程度）、多読教材：8冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。				事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。			60	30	
10	Xreading実践（9回目30分程度）、多読教材：9冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。				事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。			60	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	Xreading実践（10回目30分程度）、多読教材：10冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。	事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。	60	30
12	Xreading実践（11回目30分程度）、多読教材：11冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。	事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。	60	30
13	Xreading実践（12回目30分程度）、多読教材：12冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。	事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。	60	30
14	Xreading実践（13回目30分程度）、多読教材：13冊目を読みReading Reportを作成する。 Xreading語数確認。	事前学修：Xreadingを各自で進める。 事後学修：図書館の多読教材の内容をReading ReportにまとめUNIPAに提出する。	60	30
15	Extensive Readingの総括（これまでの読書記録と多読を通して獲得した知識の確認）	事前学修：Xreadingを各自で進め、総語数を確認する。 事後学修：これまでのReading Reportをまとめる。	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 実践 ）			
教科書	Xreadingを使用した多読を実践する。また図書館の多読教材を利用する。学生各自で自分の英語レベルにあった読み物を準備しても可。授業内で必要に応じてプリントを配布する場合もある。			
参考文献	授業内で適宜紹介する。			
備考	内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 状況により、遠隔授業になる場合があります。 授業内課題（各回の訳等）はUNIPAに提出してください。コメントをつける形式でフィードバックします。			
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)				

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-09				
	●	●								
科目名	Chorus English				単位認定者	スミス アンソニー		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	<p>本科目の目的は、例えばThe Beatlesから今日のアーティストまで、大衆に受け入れられ、普段よく耳にする英語の歌を通して英語の節回し、リズム、表現、韻律などについての理解を深めることである。歌詞を読解し、英語の歌の文構造の特徴を捉え、その歌の世界観や言葉遊びなどに親しむ。様々な歌を歌いながら英語への抵抗感をやわらげ、英語の学修動機を高めていく。</p> <p>最終的に自ら選んだ題材で個人、またはグループでパフォーマンスを行い、成果発表とする。</p>									
到達目標	<p>Jazz and Pops を聴きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、ペアワークやプレゼンテーションを通して、英語の気力をバランスよく向上させることを目的としています。また、普段意味をあまり考えずに聴いていることが多い英語の歌の内容を正確に理解し、自ら歌うことにより、英語を流暢に話すスキルを培うことが出来る。</p>									
学修者への期待等	歌唱力は重要ではありませんが、歌唱に参加する意欲は必要です。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	序章: Listen to the Dialogue / Exercise 英吾の歌に見られる英文法について Talk about Music and Songs / Interviewing				事前学修: 全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修: 英語の歌に見られる英文法について再度確認すること			60	30	
2	Unit 1: FLY ME TO THE MOON リンキング「子音+母音」 文法: 命令文 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension				事前学修: 全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修: 文法事項(命令文)について再度確認すること			60	30	
3	Unit 2: WHEN YOU WISH UPON A STAR 弱形と強形 文法: 形容詞 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension				事前学修: 全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修: 文法事項(形容詞)について再度確認すること			60	30	
4	Unit 3: AUTUMN LEAVES リンキング「同じ音・似た音」 文法: 名詞の複数形 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension				事前学修: 全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修: 文法事項(名詞の複数形)について再度確認すること			60	30	
5	Unit 4: MISTY 冠詞の弱形 文法: 現在進行形 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension				事前学修: 全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修: 文法事項(現在進行形)について再度確認すること			60	30	
6	Unit 5: I LEFT MY HEART IN SAN FRANCISCO リズム 文法: 助動詞 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension				事前学修: 全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修: 文法事項(助動詞)について再度確認すること			60	30	
7	Unit 6: THE NEARNESS OF YOU リンキング「子音+j」 文法: 副詞 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension				事前学修: 全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修: 文法事項(副詞)について再度確認すること			60	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	Unit 7: ALL OF ME 助動詞の弱形 文法：否定文 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension	事前学修：全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：文法事項（否定文）について再度確認すること	60	30
9	Unit 8: SMILE 代名詞の弱形 文法：従属節 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension	事前学修：全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：文法事項（従属節）について再度確認すること	60	30
10	Unit 9: IF 接続詞の弱形 文法：疑問視 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension	事前学修：全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：文法事項（疑問視）について再度確認すること	60	30
11	Unit 10: BECAUSE リンキングの復習 文法：to不定詞 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension	事前学修：全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：文法事項（to不定詞）について再度確認すること：	60	30
12	Unit 11: EVERY BREATH YOU TAKE 韻 文法：S+V+O の文型（他動詞） Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension	事前学修：全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：文法事項 S+V+O の文型（他動詞）について再度確認すること	60	30
13	Unit 12: WHAT A WONDERFUL WORLD 前置詞の弱形 文法：S+V+O+C の文型（知覚動詞） Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension	事前学修：全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：文法事項 S+V+O+C の文型（知覚動詞）について再度確認すること	60	30
14	Unit 13: A SONG FOR YOU 短縮形 文法：現在完了形 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension	事前学修：全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：文法事項 現在完了形について再度確認すること	60	30
15	Unit 14: THAT'S WHAT FRIENDS ARE FOR 総合復習 Pronunciation Exercises / Grammar Exercises / Reading + Reading Comprehension	事前学修：全てのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：	60	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペアワーク・プレゼンテーション）			
教科書	Learn English through Jazz and Pops（ジャズとポップスで学ぶ大学英語）金星堂 ISBN978-4-7647-3928-4			
参考文献	特になし			
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。授業内課題は返却時に指導し、フィードバックをする。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
CE-2-EAD-21

科目名	Vocabulary Building				単位 認定者	未定		評価の 方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			

授業の概要
This elective course focuses on helping students improve and understand vocabulary words by examination of Greek and Latin bases of words, recognition of word parts such as prefixes and suffixes, and studying the etymological meanings of words. The larger our vocabularies the more clearly we can communicate with others and understand what others are trying to communicate to us. Students taking this course will learn new vocabulary words by practicing reading in context, by writing sentences using the words and by doing practice exercise and quizzes.

到達目標
The aim of this course is to train students to be able to write the meanings of a sum of newly introduced words. Spelling these new words, using these new words in meaningful sentences will also be focused upon.

学修者への期待等
Students are expected to complete all the exercises before coming to class.

回	授業計画	準備学修	事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
---	------	------	-------------------	-------------------

未定（開講が決まり次第、別途通知します）

アクティブ・ラーニング
該当なし
該当あり：キーワード（ ）

教科書 未定

参考文献

備考

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-12				
	●	●	●	●	●					
科目名	海外研修				単位認定者	未定		授業内課題 (レポート)	20 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (発表等)	60 %
						授業時間数	90 時間		受講態度	20 %
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	英語圏での研修を通して、世界における英語の重要性を実感し、今後の英語学修のモチベーションとする。英語力の強化はもとより、異文化に直接触れ、異文化社会の中で生活することを通して、コミュニケーション能力を高め、また、課題を発見し、解決する力を身につけることを目的とする。具体的には、現地の大学での語学研修に加え、現地の住民や他国の留学生などとの交流活動を行う。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語圏での学修やホームステイの経験を通して、英語の重要性や実用性を体感し、学修へのモチベーションを高めることができる。 課題に向き合い、周囲と協力しながら英語を使って問題を解決することが出来るようになる。 グローバルな視点を持って物事を考察することが出来るようになる。 									
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> 海外研修の履修方法は通常の科目とは違うので注意すること。 渡航の準備は各自で責任を持って進めること。 事前学修・事後学修も研修の要件となることを理解し、欠席をしないこと。 短い研修期間を有意義に過ごすため、日本での準備をしっかりと行うこと。 現地での学修・生活の記録をつけ、実りある研修生活を送ることを期待する。 									
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
<ol style="list-style-type: none"> 研修先・研修期間 4月ガイダンス時に説明する。 授業計画 現地校での英語学修と観光事情についての学修を学びの中心とする。 (1) 事前学修 (学内) 第1回 海外研修の目的 第2回 海外研修のための具体的な準備 第3回 海外研修の自己目標設定とグループ内発表 (2) 海外研修 (16日間 現地にて) 現地校での英語クラスに出席し、学修する。 ホストファミリーと交流し、異文化理解やコミュニケーション力の向上に努める。 現地での見学先や交流先での体験は、提示された課題にまとめる。 (3) 事後学修 (学内) 第4回 自己目標に対する研修の振り返り 報告書作成について 第5回 海外研修報告会 目標 ①英語圏での生活と学修により、自身の英語コミュニケーション力を体験的に理解し、今後の学修に活かす。 ②英語圏の人々との交流により、異文化コミュニケーションの楽しさを知る。 【注意事項】 ① 学内実施の「事前学修」、「事後学修」の日程は、LMS等で連絡する。 ② 現地での研修期間中に個人的な事由により現地授業や視察に出席できなかった場合、原則として単位認定を行わない。 ③ 渡航前に現地研修が何らかの事情により中止に至った場合、事前学修が行われていても、単位認定を行わない。 					事前学修：なし 事後学修：なし			0	0	
教科書	資料は授業で配布する。									
参考文献	事前研修等で指示する。									
備考	社会情勢等により開講できない、また、プログラム内容が変更する場合があります。課題は事前・事後研修内でフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-26				
	●	●	●	●	●					
科目名	海外研修（個人）				単位認定者	未定		旅程の計画と達成	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	通年	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	提出物、発表等	20 %
					授業形態	実習	授業時間数		45 時間	受講態度(出席日数)
						授業回数	集中			
授業の概要	夏季・春季の長期休暇を利用して海外に滞在し、大学付属の語学学校や現地の語学学校の授業を2週間以上受講した場合において単位を認定する。学科が認める渡航先であること。滞在日数に応じたジャーナルの提出と語学学校からの修了証書を提出すること。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅程を計画し、英語圏での学修やホームステイを遂行することができる。 ・ 英語圏での学修や生活の経験を通して、英語の重要性や実用性を体感し、学修へのモチベーションを高めることができる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡航の準備は各自で責任を持って進めること。 ・ 現地での学修・生活の記録をつけ、実りある研修生活を送ることを期待します。 									
授業計画						準備学修		事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
未定（開講が決まり次第、別途通知します）										
教科書	未定									
参考文献										
備考	社会情勢等により、実施ができない場合があります。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-3-RCO-01				
			●		●					
科目名	ビジネスプロトコール				単位認定者	加藤 雅子		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業態度	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	<p>ビジネスシーンをはじめとする国際的な交流の場面では、歴史、文化、言語などの違いから、誤解が生ずることもある。無用の誤解を避け、相互理解を促し、円滑な国際交流を行うための共通認識であるプロトコールについて、基礎的な知識や技能を身につける。</p> <p>また、プロトコールは絶対的な規則ではなく、時代、地域や国、会合の趣旨等によって柔軟に運用されるものであることも理解する。</p>									
到達目標	<p>「マナー」・「国際プロトコール」の意味・重要性を理解し、説明出来る状態になる。</p> <p>日本のビジネスにおける慣習と冠婚葬祭のしきたりについて理解し有効活用出来るようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>学習する全ての内容が日常生活・社会生活で生かせるものです。テキストや配布資料を事前に熟読した状態で授業に臨み、多くのことを吸収してください。また、本講義の性質上、己を律して受講してください。</p>									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	マナーとは何か(マナー, エチケット, プロトコールについて) ※グループワーク				事前学修: テキストの該当ページを読み、用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業内容を復習し、理解を深めておくこと。				30	30
2	マナーの歴史と意味				事前学修: テキストの該当ページを読み、歴史の流れと用語の意味を理解しておくこと。 事後学修: 各時代の流れとキーワードを復習しておくこと。授業内で配布する確認問題をやっておくこと。				30	30
3	国際人としてのプロトコール①(プロトコールの原則、席次、社交の場でのコミュニケーション)				事前学修: テキストの該当ページを読み、用語を理解しておくこと。 事後学修: 授業内容を復習し、理解を深めておくこと。				30	30
4	国際人としてのプロトコール②(挨拶と紹介、外国人への贈り物、国旗の扱い) ※グループワーク				事前学修: テキストの該当ページを読んでおくこと。1分程度の自己紹介の準備をしておくこと。 事後学修: 授業内容を復習し、理解を深めておくこと。異文化に触れ、知見を広げられるよう意識して過ごす。				30	30
5	国際人としてのプロトコール③(礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、異文化体験) ※グループワーク				事前学修: テキストの該当ページを読んでおくこと。これまでの異文化に触れた経験についてまとめておくこと。 事後学修: 授業で配布する確認問題をやっておくこと。				30	30
6	社会人に必要なマナー①(第一印象の重要性、印象交換、立ち居振る舞い) ※実践練習、グループワーク				事前学修: テキストの該当ページを読み、授業ですぐに実践練習ができるようにしておくこと。 事後学修: 特にないが、学んだことを日常生活で意識して生活すること。				30	0
7	社会人に必要なマナー②(丁寧な言葉遣い、聴き方、話し方の基本) ※聴き方: ペアワーク/話し方: グループワーク				事前学修: テキストの該当ページを読み、学習内容を把握しておくこと。 事後学修: 授業で配布する敬語と言葉遣いの練習問題をやっておくこと。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	社会人に必要なマナー③ (礼装の基準, 贈答, 手紙)	事前学修: テキストの該当ページを読み、学習内容を把握しておくこと。 事後学修: 授業内で配布する確認問題を行い、復習しておくこと。	30	30
9	ビジネスシーンのマナー① (ビジネスマナーの必要性, 社会人としての心構え) ※報連相の事例検討: グループディスカッション	事前学修: テキストの該当ページを読み、用語を理解しておくこと。 事後学修: 特になし。	30	0
10	ビジネスシーンのマナー② (名刺の扱い方, 電話応対実践練習) ※ペアワーク、グループワーク	事前学修: テキストの該当ページをよく読み、授業で実践が出来るようにしておくこと。 事後学修: 特にないが、日常生活や就職活動等で活かせるように意識する。	30	0
11	ビジネスシーンのマナー③ (来客対応・ビジネス文書) ※来客対応一連の流れ実践練習: グループワーク	事前学修: テキストの該当ページをよく読み、授業で実践ができるようにしておくこと。 事後学修: ビジネス文書を作成し、次回授業で提出すること。授業内で配布する確認問題を行い、復習すること。	30	60
12	食事のマナー① (食事の作法の基本, 和食のマナー, 和室の作法) ※箸使い、食器の取り扱い実践練習	事前学修: テキストの該当ページを読んでおくこと。自己の箸使いを確認してみること。 事後学修: 学習内容を復習すること。日常生活で活かすこと。	30	30
13	食事のマナー② (西洋料理のマナー) お酒のマナーの基本	事前学修: テキストの該当ページを読み、概要を把握しておくこと。 事後学修: 授業内で配布する確認問題を行い、復習しておくこと。	30	30
14	「冠」「婚」「葬」のしきたりとマナー	事前学修: テキストの該当ページを読み、用語の意味を理解しておくこと。 事後学修: 授業内で配布する確認問題を行い、復習をしておくこと。	30	60
15	「祭」のしきたり ※グループワーク及び発表全体の復習及び重点項目の確認	事前学修: テキストの該当ページを読んでおくこと。またこれまでの既習ページを振り返り、分からないことは授業で質問すること。 事後学修: 授業内で配布する確認問題を行い、復習すること。全体の振り返りを行うこと。	30	60
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード (グループワーク、ペアワーク、実践練習、グループディスカッション)			
教科書	『マナー&プロトコルの基礎知識 (第6版第1刷)』NPO法人日本マナー・プロトコル協会			
参考文献	『最新版「さすが!」といわせる大人のマナー講座』日本マナー・プロトコル協会著 PHP研究所			
備考	本科目の内容は「マナー・プロトコル検定2級・3級」に繋がります。 グループワークや実践練習等については、都度学生に口頭にてフィードバックを行います。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

元大手航空会社国際線CAとして13年乗務。教官として、邦人・外国人CAの教育・育成も担当。現在は、マナーやコミュニケーションを中心としたテーマで企業や官公庁での人材教育や講演を行っています(講師歴17年)。実務経験からの具体的な事例を紹介しながら実践的な授業を展開し、国際プロトコル、ビジネスマナーの知識・スキルを習得することを目指します。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-3-RCO-06					
			●	●							
科目名	秘書実務				単位認定者	細川 久美子		試験(筆記)	80	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20	%
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間				
						授業回数	15 回				
授業の概要	秘書に求められる知識・技能について理解し業務遂行能力を養い、気配り、機転などの秘書的センスを実践的に学ぶことにより実務能力が身につく。 本科目は、秘書の業務に限らず幅広い職種での対応力に生かすことが期待できる。										
到達目標	①秘書の役割や業務を理解する。 ②組織人として求められる資質と基本的な仕事の処理の仕方を理解する。 ③人間関係をわきまえた立ち居振る舞いを理解し、相手の立場に立った言動や感じの良い印象を与える所作を実践できる。										
学修者への期待等	事前に教科書を熟読し授業に臨んでください。 秘書技能検定取得につながる授業内容を含んでいるので、前向きに受験することを期待しています。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業の進め方・評価について 秘書の定義と必要とされる人柄と資質				事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分「練習問題」に取り組む。				30	30	
2	秘書の職務について				事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。				30	30	
3	秘書として必要な一般知識について (企業と経営組織、人事・労務管理)				事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。				30	30	
4	秘書として必要な一般知識について (マーケティング、会計・財務)				事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。				30	30	
5	秘書として必要な一般知識について (金融と経営法務)				事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。				30	30	
6	マナーと接遇について (人間関係と言葉遣い)				事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。				30	30	
7	マナーと接遇について (受付・取次、来客対応)				事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。				30	30	
8	マナーと接遇について (電話応対)				事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。				30	30	
9	マナーと接遇について (慶弔業務、贈答)				事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。				30	30	
10	身につけておくべき技能について (会議、ビジネス文書)				事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。				30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	身につけておくべき技能について (社内文書と社外文書)	事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。	30	30
12	身につけておくべき技能について (郵便・秘文書の取り扱い)	事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。	30	30
13	身につけておくべき技能について (ファイリング、名刺や資料の整理)	事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。	30	30
14	身につけておくべき技能について (オフィス環境の整備)	事前学修：テキスト該当部分を熟読しておく。 事後学修：テキスト該当部分の『練習問題』に取り組む。	30	30
15	学修のまとめ 実務へ向けて	事前学修：テキスト模擬問題に取り組む。 事後学修：演習課題に取り組む。	30	60
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()			
教科書	『この一冊で決める!!秘書検定2.3級合格教本 改訂第4版』新星出版社 (ISBN 978-4-405-03244-6 著者名 山田敏世)			
参考文献	『秘書検定実問題集 3級』実務技能検定協会編 早稲田教育出版 『秘書検定実問題集 2級』実務技能検定協会編 早稲田教育出版 『秘書検定実問題集 準1級』実務技能検定協会編 早稲田教育出版			
備考	1. 受講者の理解度等により、講義の順番や重点の置き方を変えることがある。 2. 本科目は秘書検定につながる。 3. 課題については、講義内でフィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

2011年より、株式会社総務部門での経理等の実務を担当。現在、人事・教育サービス会社の取締役。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-3-RCO-09				
			●		●					
科目名	ホスピタリティ論				単位認定者	浦沢 みよこ		授業内課題	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	プレゼンテーション	40 %
							授業時間数		30 時間	最終レポート
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	ホスピタリティを総合的に理解し修得するために、ホスピタリティの言葉の意味や基本的な概念を学び、欧米と日本のおもてなしの相違を理解する。ホスピタリティが実施されているケーススタディを通じて課題や現状を学び、ディスカッションやロールプレイを交えながらより良いホスピタリティを実践するための理解を深める。									
到達目標	正確な実務（サービス）を土台とし、その上に期待を超える配慮（ホスピタリティ）を積み上げることで、真の『プロの品質』を体現できる人材になる。									
学修者への期待等	自分の未来のために、主体的に学び、楽しむ姿勢を期待します。ホスピタリティは、相手だけでなくあなたの人生も豊かにするものです。失敗を恐れず挑戦し、自発的に動くホスピタリティを共に育てていきましょう。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	講義の進め方。ホスピタリティの語源、ホスピタリティとサービスの違い。				事前学修： 事後学修：				0	0
2	様々な業種のサービスとホスピタリティ				事前学修： 事後学修：あなたの周りのサービスとホスピタリティを体験すること				0	60
3	ゲストスピーカー 弁護士の先生に聞く サービスとホスピタリティ&成年（18才）になってから必要な知識				事前学修： 事後学修：あなたの周りのサービスとホスピタリティを体験すること				0	60
4	自分を理解し相手を理解す マズローの欲求段階説や、自己受容・他者受容の重要性。				事前学修： 事後学修：あなたの周りのサービスとホスピタリティを体験すること				0	60
5	プレゼンテーション あなたの周りのサービスとホスピタリティ				事前学修： 事後学修：				0	0
6	観光・ホテル業界のホスピタリティ リッツ・カールトンのクレドや、老舗旅館の「おかみ」の精神。				事前学修： 事後学修：				0	0
7	ホスピタリティ・デザイン 大学生活や身近な問題をホスピタリティの視点で解決するグループワーク。				事前学修： 事後学修：				0	0
8	ゲストスピーカー 外資系航空会社で元CAのゲストに聞くサービスとホスピタリティ				事前学修： 事後学修：				0	0
9	課外学修 ホスピタリティを体験する レストランでランチ体験				事前学修：レストランでのマナー 事後学修：サービスとホスピタリティをまとめる				60	60
10	ディスカッション AI時代になぜ「人間ならではの力」が必要とされるのか。				事前学修： 事後学修：				0	0
11	ゲストスピーカー 高校でのALTで来日。その後英語学校の共同オーナーに聞くサービスとホスピタリティ				事前学修： 事後学修：				0	0
12	プレゼンテーション ホスピタリティ体験を発表				事前学修： 事後学修：				0	0
13	自己犠牲ではない「共創」のホスピタリティ 従業員満足度（ES）と顧客満足度（CS）の相関関係。				事前学修： 事後学修：プレゼンテーション準備				0	60
14	プレゼンテーション ホスピタリティーのある社会				事前学修： 事後学修：プレゼンテーション準備				0	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
15	プレゼンテーション ホスピタリティーのある社会	事前学修： 事後学修：	0	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（課外学修、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク）			
教科書	なし、適宜プリント配付			
参考文献	「リッツ・カールトンが大切にしている サービスを超える瞬間」高野登 かんき出版			
備考	授業内で取り組んだ課題などのフィードバックは、講義の中で解説を行います。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
留学カウンセラー歴35年、留学エージェント経営30年、大学等でキャリア、ビジネスの講師経験。資格:キャリアカウンセラー、総合旅行業務取扱管理者

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-3-RCO-07				
				●	●					
科目名	フランス語 I				単位認定者	野中 みどり		小テスト	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	各課の課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	特別課題
							授業回数		15 回	確認小テスト
授業の概要	<p>本科目は、フランス語でコミュニケーションをとるための方法を学び練習することを目的とする。音に慣れるため母音に留意した発音を指導し、教科書に沿って自己表現の方法及び文法を学ぶ。グループワークによる練習を行い、内容の理解を図る。トレーニングとして、発音練習、動詞の活用、単語の小テスト、数字や表現の聞き取りチェックを実施する。さらに教科書とは別に、挨拶を始めとする日常表現を紹介し、表現とともに考え方や文化の違いにも着目する。</p>									
到達目標	<p>①学習：フランス語の発音ルールと文法を理解し使えるようになる。挨拶や日常表現を覚えフランスの文化や社会についても知識を得ることができる。 ②練習：モデル会話にならって自分を表現し、同様の相手の話を理解できるようになる。練習問題に適切に答えることができる。 ③訓練：単語・動詞・数字の小テストで十分な点をとることができる。</p>									
学修者への期待等	<p>授業で指示された単語リストや動詞を覚えて小テストに臨み、それらを次の会話で使えるように練習してください。授業内では積極的に発音・会話練習に参加し、授業後はモデル会話を復習して学んだ表現を毎回ノートにまとめてください。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	0 課(1) 学習：フランス語の特徴、アルファベットと綴り字記号。グループワーク(以下練習)：アルファベットを読む、名前を言う。トレーニング(以下訓練)：発音練習。				事前学修：知っているフランス語を探す 事後学修：挨拶とアルファベットを復習する			20	20	
2	0 課(2) 学習：発音のルール、綴り字記号。練習：発音規則に従って読む練習。訓練：発音と聞き取り。				事前学修：名前の言い方を練習する 事後学修：母音の音と発音ルールを復習する			20	30	
3	1 課(1) 学習：モデル会話「自己紹介」、主語と動詞、名詞の性と数、数字0-10。練習：国籍を言う。訓練：語彙(国籍)、発音。				事前学修：国籍の語彙を覚える 事後学修：主語と動詞、数字を復習する			30	30	
4	1 課(2) 学習：モデル会話「自己紹介」、動詞の意味と活用。練習：身分を言う。訓練：活用、発音、聞き取り。				事前学修：主語と動詞を書いて覚える 事後学修：1課を復習して課題を解く			30	30	
5	2 課(1) 学習：モデル会話「住んでいる所」、er動詞、否定文。練習：話す言語を言う。訓練：活用、発音、聞き取り。				事前学修：er動詞の活用を覚える 事後学修：会話文と否定文を復習する			30	30	
6	2 課(2) 学習：モデル会話「話す言語・学んでいること」、定冠詞。練習：学科を言う。訓練：動詞の意味、発音、聞き取り。				事前学修：er動詞の意味を覚える 事後学修：2課を復習して課題を解く			30	30	
7	3 課(1) 学習：モデル会話「家族」、不定冠詞、数字11-20。練習：家族について話す。訓練：活用、発音、聞き取り。				事前学修：動詞の活用を覚える 事後学修：会話文と数字を復習する			30	30	
8	3 課(2) 学習：モデル会話「年齢・好み」、否定のde、好みの表現。練習：好みを言う。訓練：語彙(趣味)、発音、聞き取り。				事前学修：趣味の語彙を覚える 事後学修：3課を復習して課題を解く			30	30	
9	4 課(1) 学習：モデル会話「食べる・飲む」、動詞の活用、部分冠詞。練習：飲食するものと言う。訓練：活用、発音、聞き取り。				事前学修：動詞の活用を覚える 事後学修：会話文と冠詞を復習する			30	30	
10	4 課(2) 学習：モデル会話「～がある」、提示の表現、疑問詞。練習：提示する。訓練：語彙(飲食物)、発音、聞き取り。				事前学修：飲食物の語彙を覚える 事後学修：4課を復習して課題を解く			30	30	
11	5 課(1) 学習：モデル会話「人や物を描写する」、形容詞、数字30-100。練習：性格を言う。訓練：発音、聞き取り。				事前学修：数字1-20を発音練習する 事後学修：会話文と形容詞を復習する			30	30	
12	5 課(2) 学習：モデル会話「どんな風か尋ねる」、所有形容詞、指示代名詞。練習：物を描写する。訓練：語彙、発音、聞き取り。				事前学修：形容詞の音と意味を覚える 事後学修：5課を復習して課題を解く			30	30	
13	6 課(1) 学習：モデル会話「フランスへ行く」、動詞の活用と使い方。練習：行く国を言う。訓練：活用、発音、聞き取り。				事前学修：動詞の活用を覚える 事後学修：会話文と前置詞を復習する			30	30	
14	6 課(2) 学習：モデル会話「映画に行く」、定冠詞の縮約、疑問文。練習：行き先を告げる。訓練：語彙、発音、聞き取り。				事前学修：国名や場所の語彙を覚える 事後学修：6課を復習して課題を解く			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
15	表現と数字の確認小テスト実施。6課(3)学習：モデル会話「誰々と来る」、疑問文のまとめ、強勢形。訓練：挨拶表現、発音、聞き取り。	事前学修：表現の意味と音を復習する 事後学修：疑問文の形を復習する	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、訓練、練習）			
教科書	『やさしいサリュ（改訂版）Salut、tout facile』田辺保子 他著、駿河台出版社、1800円＋税、ISBN978-4-411-00835-0			
参考文献	仏和辞書（電子辞書も含む）。初回授業で簡単な案内を聞いた後、必要な場合は購入してください。			
備考	【小テスト】 実施後に解答解説し、採点結果を次の回で返却する。関わる達成目標は③、評価の基準は解答の正確性100%。 【各課の課題および特別課題】 添削して次の回で返却する。関わる達成目標は①②、評価の基準は解答の適切さ50%、理解度50%。 【確認小テスト】 実施後に解答解説する。関わる達成目標は①③、評価の基準は解答の正確性100%。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-4-ESE-05				
			●	●						
科目名	キャリア形成演習 I				単位認定者	大和田 裕佳		レポート	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「社会の動きの意識的な観察を行いどのような分野に関わり、どのように自身を活かしていくかをシミュレーションする」「働く意味について考え、学生各自が自らの将来をイメージできるようにする」ことから、職業意識を涵養していく。また、グループワークを通して、自己と他者の価値観の違いに気づき、他者を尊重しつつ、自分の意見や主張を論理的に話す力を養う。さらには、自分自身がイメージした将来の姿に到達するために必要な計画を立てられるようにする。									
到達目標	①自分自身を具体的に知ること、変化の激しい社会の中で自分らしいキャリアを構築するための考え方を身につける。 ②社会人として働く意味や将来就きたい職業を具体的にイメージすることで職業意識を高める。 ③ライフステージに沿ったキャリアプランを立てることができる。 ④語学力を生かしたグローバル人材として活躍するための大学生活をプランニングできる。									
学修者への期待等	充実した大学生活を送りながら将来社会人となることを意識し、キャリアオーナーシップを育むことを目指します。個人・グループワーク等では「自分の言葉で話し、相手の話を聴く」積極的な対話を期待します。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	ガイダンス、大学生活とキャリア※グループワーク				事前学修： 事後学修：			0	0	
2	社会や企業の現状と課題、国際比較からみた日本の労働現状※グループワーク				事前学修： 事後学修：			0	0	
3	自分自身を知る I 発達理論からのアプローチ (1)～価値観～※グループワーク				事前学修： 事後学修：			0	0	
4	自分自身を知る I 発達理論からのアプローチ (2)～ライフラインチャート～※グループワーク				事前学修： 事後学修：			0	0	
5	自分自身を知る II 社会的アプローチ～ライフイベント(就職、育児、介護、転職等)含む設計～※グループワーク				事前学修： 事後学修：			0	0	
6	「働くこと」～①社会が求める人材像②職業興味検査で社会の仕事を知り、自分の興味関心を知る※グループワーク				事前学修： 事後学修：			0	0	
7	SDGsとキャリア～ジェンダー、貧困・格差、環境、パートナーシップ等(1)～SDGsを理解し、日本と海外の今を知る～※グループワーク				事前学修： 事後学修：授業内で出題するテーマについてチームで調べ、次回授業までに発表準備をしてくること。			0	90	
8	SDGsとキャリア～ジェンダー、貧困・格差、環境、パートナーシップ等～(2)キャリアにおいてSDGs項目から現状とこれからの考える～※グループワーク				事前学修： 事後学修：			0	0	
9	現代のキャリアに役立つ「キャリア理論」※グループワーク				事前学修： 事後学修：			0	0	
10	労働者とセーフティーネット				事前学修： 事後学修：			0	0	
11	事例で考えるキャリア※グループワーク				事前学修： 事後学修：			0	0	
12	キャリア形成と求められる基礎能力(1)～社会人基礎力～※グループワーク				事前学修： 事後学修：			0	0	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
13	キャリア形成と求められる基礎能力(2)～自分の強みと弱み～※グループワーク	事前学修： 事後学修：	0	0
14	未来を考えるライフキャリアデザイン※グループワーク	事前学修： 事後学修：	0	0
15	キャリアプランの発表※グループワーク	事前学修： 事後学修：	0	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（個人ワーク、グループワーク等）			
教科書	特に用いない。講義では、レジュメや資料を配布し、重要な文献についてはその都度紹介する。講義で随時配る資料はファイルしておくこと。			
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。			
備考	受講者の理解を促すために、講義の内容および計画を変更する場合がある。レポートのテーマはLMSに掲載し採点后、返却。授業内課題については都度クラス内で共有しお互いにフィードバック等を行い、学びを深める。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

国家資格キャリアコンサルタント。大企業、中小企業等の民間・行政それぞれで勤務等10年以上の実務経験を持つ。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-4-ESE-06					
			●	●							
科目名	キャリア形成演習Ⅱ				単位認定者	加藤 雅子		試験（レポート）	50	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30	%
							授業回数		30 時間	授業態度	20
				授業形態	演習	15 回					
授業の概要	業界研究、企業研究を实践、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、各分野の専門家による講義も導入していく。これにより現代社会の動向を捉え、全体性の中での仕事・学生自分の役割や価値への気づきを創っていく。既存の職業にこだわらず、キャリア形成に係る研究や他者とのディスカッションを通して、活躍の分野を切り拓くことにも観点が向き、学生それぞれに独自性や企画力が反映されたキャリアプランが作成される。										
到達目標	①将来やりたいこと、できることを見極めることによって職業意識を高める。 ②社会人として働く意味や将来就きたい職業を具体的にイメージできるようになる。 ③ライフステージに沿ったキャリアプランを立てることができる。 ④語学力を生かしたグローバル人材として活躍するための大学生活をプランニングできる。										
学修者への期待等	充実した学生生活を送りながら、将来社会人となることを意識して必要な力の養成を目指しているため、グループワーク等では積極的に取り組み、よく考え、発言することを期待する（本講義は参加型授業）。自分を振り返る時間を持ち、将来のキャリア形成に繋げて欲しい。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	働くとは、就職するとは ～就職活動の心構え～ ※グループワーク				事前学修：自分が働くイメージを描いておくこと。就職に関して気になることを書き出しておくこと。 事後学修：今後の就職活動に向け、学習内容を振り返ること。				30	30	
2	就活マナー（第一印象の重要性、敬語と言葉遣い、電話対応）※立ち居振る舞い、電話対応実践練習				事前学修：前期に学習したマナー、特に印象、敬語と言葉遣いについてよく勉強しておくこと。 事後学修：敬語と言葉遣いの振り返りをすること。印象、電話対応等、日々の生活で意識して過ごすこと。				30	30	
3	社会で必要となるコミュニケーションスキル（伝え方・聴き方フレームワーク実践）※ペアワーク・グループワーク				事前学修：自己紹介を1分半程度で話せるように、準備しておくこと。 事後学修：コミュニケーションのフレームワークをしっかりと復習しておくこと。				30	30	
4	新聞ワーク※グループディスカッション及び発表				事前学修：新聞を読み、気になるニュースをピックアップし、自分の意見・感想を準備しておくこと。事前に配布する資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業内で活動したことを振り返ること。				60	30	
5	自己理解① ～外的キャリア・内的キャリアを整理する～（自分史づくり）※個人・グループワーク				事前学修：事前に配布する資料をよく読み、個人で出来るワーク（書き込み）を進めておくこと。 事後学修：学習内容を振り返り、理解を深めておくこと。				60	30	
6	自己理解② ～環境と価値観を理解する～※個人・グループワーク				事前学修：事前に配布する資料をよく読み、個人で出来るワーク（書き込み）を進めておくこと。 事後学修：学習内容を振り返り、理解を深めておくこと。				30	30	
7	人生100年時代を豊かに生きる（キャリアプラン、社会人基礎力、私のワークライフ）※個人・グループワーク				事前学修：事前に配布する資料をよく読み、個人で出来るワーク（書き込み）を進めておくこと。 事後学修：学習内容を振り返り、理解を深めておくこと。				60	30	
8	職業理解（業界・職種・企業研究）～現代社会の動向、社会情勢、経済から将来の職業を考える※個人・グループワーク				事前学修：自分の目指す業界・職種・企業をよく考え、調べておくこと。 事後学修：学習内容を振り返り、職業理解を深めておくこと。				60	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
9	自己理解から職業理解（職業適性）※個人・グループワーク	事前学修：既習項目を復習し、様々な角度から自己理解、職業理解を深めておくこと。 事後学修：授業内容を振り返り、今後の就職活動に繋げていくこと。	30	30
10	魅力ある応募書類の書き方（エントリーシート、履歴書）	事前学修：配布資料をよく読み、全体を理解しておくこと。 事後学修：履歴書を実際書いてみる。詳細は、別途授業で案内する。	30	60
11	就職体験報告会（先輩の就職活動体験談及び質疑応答）	事前学修：事前に配布する資料を読み、ワークしておくこと。 事後学修：自分の感想・意見をまとめておくこと。（次回の授業で発表）	30	30
12	面接マナー（面接の身嗜み、受け答え、名刺交換）※実践練習：ペアワーク	事前学修：事前に配布する資料をよく読み、授業ですぐに実践出来るように準備しておくこと。 事後学修：授業内容を振り返り、次回の模擬面接練習に活かすこと。	30	30
13	面接講座（面接の種類と実施の目的、面接のポイント）、模擬面接実践（集団/個人）	事前学修：面接で質問されることを想定し、面接マナーも含め、練習しておくこと。 事後学修：面接の内容を具体的に振り返り、今後活かすこと。	30	30
14	グループディスカッション（GDの目的と意義、GDのポイント、GD実践）※グループワーク	事前学修：事前に配布する資料をよく読み、スムーズに実践練習出来るように準備しておくこと。 事後学修：授業で行ったワークを具体的に振り返り、今後活かすこと。	30	30
15	講座のまとめと総括：社会人とキャリア形成	事前学修：既習項目を総復習しておくこと。 事後学修：振り返りをしっかりと行い、自分の豊かな人生に繋がれるよう行動にすること。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実践練習、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション）			
教科書	レジュメや参考資料を配布し、重要な文献についてはその都度紹介する。 講義で随時配る資料は必ずファイリングしておくこと。			
参考文献	『大学生のキャリアデザイントレーニング』晃洋書房、『未来を拓くキャリア・デザイン講座』中央経済社、他。			
備考	受講者の理解を促すために、講義の内容および計画を変更する場合がある。変更になる場合は事前に連絡する。講義内での実践練習及び課題発表、模擬面接等では、口頭にてF/Bをし、レポート課題については、個々にコメントを記載して返却、及び講義内で口頭にて全体にF/B、情報共有を行う。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
元大手航空会社で客室乗務員の教官として、邦人・外国人の新人・OG CAの人材教育を担当。現在は、大手就職支援会社や教育会社にて高校生～中高年層の幅広い層に向けた就職支援や官公庁早期退職者向けのセカンドキャリアのためのキャリア教育を行っている。企業の採用人事担当者向けに「いい人材の採用のコツ」等のセミナーも実施している。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-4-ESE-02				
	●	●	●							
科目名	基礎ゼミ				単位認定者	未定		試験(レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内発表・課題提出(5回)等	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数			15 回			
授業の概要	<p>初学者が大学教育を学ぶにあたって必要とされる基礎力を養う。2年間の短期大学での学びを有意義なものとするため、大学生活への導入、大学教育の意義や目的を理解し、文章の読み方・書き方(文章表現力)など、基礎的なスキルを身につけ、大学生生活の様々な場面で活用できるようになることを目標とする。</p> <p>また、批判的思考力を養い、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、コミュニケーションスキルの向上を目指す。</p>									
到達目標	<p>学修についての自己管理ができ、計画的な学修を実行できるようになる。</p> <p>仲間を信頼し、協力して学修を遂行できるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>授業は合同実施の回とグループ単位で実施の回とがあるため、掲示等をよく確認の上、授業に臨むこと。また、グループワークでは、他人任せにせず、皆で協力し、積極的に取り組むこと。</p>									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員	
	未定(開講が決まり次第、別途通知します)									
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	使用しない。									
参考文献	授業時に、適宜紹介する。									
備考	未定									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-4-ESE-08					
	●	●									
科目名	TOEIC I				単位認定者	尾形 まゆみ		試験（筆記）	60	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	10	%
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	<p>本科目は、リスニング、リーディング、文法、語彙に関する基礎力を再確認しながら、総合的な英語力を定着させることを目的とする。英語力の評価として広く社会で利用されているTOEIC® Listening and Reading Test (TOEIC® L&R)の問題演習を通して、英語力の弱点や強みを理解し、効果的な学修方法を構築できるようになる。本科目を通して、TOEIC® L&Rのスコアアップへの意欲を高めていく。</p>										
到達目標	<p>学生は基礎的な英語力とテストスキルを身につけ、授業中に学修したことをTOEIC®公開テストで活用することができる。</p>										
学修者への期待等	<p>授業の予習復習を必ず行うこと。電子辞書を用意すること。各自で公式TOEIC®の試験（1・3・4・5・6・7・9・10・11・12月の年10回）の申し込みを行い、受講後に自分の英語力を確認することを強く勧める。</p>										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	オリエンテーション（履修の心得、授業の進め方、評価の基準、TOEICテストについての説明などを行う。）				事前学修：テキストに目を通し、全体の構成を把握しておく。 事後学修：履修の心得をもう一度読み直し、正しく理解しておく。				60	60	
2	Unit 1: Entertainment (Listening)				事前学修：Unit 1のリスニングセクション（1～4ページ目）の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修：授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。				60	60	
3	Unit 1: Entertainment (Reading)				事前学修：Unit 1のリーディングセクション（5～8ページ目）、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修：授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。				60	60	
4	Unit 2: Personnel (Listening)				事前学修：Unit 2のリスニングセクション（1～4ページ目）の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修：授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。				60	60	
5	Unit 2: Personnel (Reading)				事前学修：Unit 2のリーディングセクション（5～8ページ目）、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修：授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。				60	60	
6	Unit 3: Office Work & Supplies (Listening)				事前学修：Unit 3のリスニングセクション（1～4ページ目）の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修：授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。				60	60	
7	Unit 3: Office Work & Supplies (Reading)				事前学修：Unit 3のリーディングセクション（5～8ページ目）、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修：授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。				60	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	Unit 4: Office Messages (Listening)	事前学修: Unit 4のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
9	Unit 4: Office Messages (Reading)	事前学修: Unit 4のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
10	Unit 5: Eating Out (Listening)	事前学修: Unit 5のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
11	Unit 5: Eating Out (Reading)	事前学修: Unit 5のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
12	Unit 6: Technology (Listening)	事前学修: Unit 6のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
13	Unit 6: Technology (Reading)	事前学修: Unit 6のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
14	Unit 7: Research & Merchandise Development (Listening)	事前学修: Unit 7のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
15	Unit 7: Research & Merchandise Development (Reading)	事前学修: Unit 7のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり: キーワード ()			
教科書	塚野壽一、山本厚子、大須賀直子他. 『SUCCESSFUL STEPS FOR THE TOEIC L&R TEST -New Edition-』(テーマ別TOEIC L&R TEST 総合演習) 成美堂 ISBN978-4-7919-3421-8			
参考文献	必要に応じて講義中に適宜指示します。			
備考	必ず毎回授業の学習箇所の問題に解答して授業に臨むこと。授業中に質問に答えられないと予習をしていないと見なされ、授業態度評価に影響します。各Unit修了毎に前UnitのReview Testを行うので、重要語句や文法の要点及びリスニング等の復習をしておくこと。シラバスの内容は学生の熟達度、受講生数、授業の進行状況により変更する場合がある。授業内課題はその都度、授業内にてフィードバックを行う。			
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)				

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
CE-4-ESE-09

科目名	STEP I				単位 認定者	小松 義隆		評価の 方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目は、専門基礎科目で学修しているリスニング、リーディング、文法、語彙に関する基礎力を再確認しながら、総合的な英語力を定着させることを目的とする。授業では、実用英語技能検定の過去問題を活用し、特に語彙、文法、リーディングに関する学修を行う。反復練習を繰り返し、英語力を強化することにより、実用英語検定試験受験への意欲を高めていく。</p>									
到達目標	<p>授業中に取り組む英検対策問題演習を通し、①英検筆記試験の問題構成を把握し、時間配分を意識して効率よく問題をとけるようになる。②問題(短文・長文)の中にある解答を導くヒントを正確かつ迅速に見つけ出すことができる。③長文問題のパラグラフ構造を理解し早く正確に内容を把握できる。</p>									
学修者への期待等	<p>英検2級の過去問題集を使用する。必ず対応箇所の予習復習を行うこと。特に予習時は実際の試験時に各問題に割り当てる目安の時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてみる。授業時は辞書などを必ず用意すること。各自で英検の試験の申し込みを行い、受講後に自分の英語力を確認することを強く勧める。</p>									
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	授業の導入 2025年度 第2回英検2級過去問題演習① (問題1～2A)				事前学修：各自テキストを準備しておく。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				0	30
2	2025年度 第2回英検2級過去問題演習② (問題2B～3B)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30
3	2025年度 第1回英検2級過去問題演習③ (問題1～2A)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30
4	2025年度 第1回英検2級過去問題演習① (問題2B～3B)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30
5	2024年度 第3回英検2級過去問題演習② (問題1～2A)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30
6	2024年度 第3回英検2級過去問題演習③ (問題2B～3B)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	2024年度 第2回英検2級過去問題演習② (問題1～2A)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
8	2024年度 第2回英検2級過去問題演習③ (問題2B～3B)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
9	2024年度 第1回英検2級過去問題演習② (問題1～2A)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
10	2024年度 第1回英検2級過去問題演習③ (問題2B～3B)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
11	2023年度 第3回英検2級過去問題演習② (問題1～2A)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
12	2023年度 第3回英検2級過去問題演習③ (問題2B～3B)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
13	2023年度 第2回英検2級過去問題演習② (問題1～2A)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
14	2023年度 第2回英検2級過去問題演習③ (問題2B～3B)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
15	まとめ（ライティング、リスニング、二次面接に関する説明など）	事前学修：実際の試験進行のイメージトレーニングをする。また英検のHPをみて2次試験の進行に関してのガイダンスを見ておく。 事後学修：説明を聞き実際の試験に備えること	30	30
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ 演習、イメージトレーニング ）			
教科書	『2026年度版 英検 2級 過去6回全問題集』旺文社英検書 2026 ISBN: 9784010951064			
参考文献	なし			
備考	内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 状況により、遠隔授業になる場合があります。 フィードバックは授業内にて解答解説時に行います。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-4-ESE-10				
		●								
科目名	TOEIC II				単位認定者	尾形 まゆみ		授業内課題等 (ふりかえり テスト等)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度(発表 等)	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	「TOEIC I」で扱った内容をさらにレベルアップし、TOEIC® Listening and Reading Test (TOEIC® L&R)において高得点(600点以上)を取得するために、リスニング、リーディング、文法、語彙に関する総合的な英語力をブラッシュアップすることを目的とする。TOEICテスト特有のスピードとボリュームに慣れるため、多くの問題演習を行う。									
到達目標	学生は基礎的な英語力とテストスキルを身につけ、授業中に学修したことをTOEIC®公開テストで活用することができる。									
学修者への期待等	授業の予習復習を必ず行うこと。電子辞書を用意すること。各自で公式TOEIC®の試験(1・3・4・5・6・7・9・10・11・12月の年10回)の申し込みを行い、受講後に自分の英語力を確認することを強く勧める。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	オリエンテーション(履修の心得、授業の進め方、評価の基準、TOEICテストについての説明などを行う。)				事前学修: テキストに目を通し、全体の構成を把握しておく。 事後学修: 履修の心得をもう一度読み直し、正しく理解しておく。			60	60	
2	Unit 8: Finance & Budgets (Listening)				事前学修: Unit 8のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。			60	60	
3	Unit 8: Finance & Budgets (Reading)				事前学修: Unit 8のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。			60	60	
4	Unit 9: Purchases (Listening)				事前学修: Unit 9のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。			60	60	
5	Unit 9: Purchases (Reading)				事前学修: Unit 9のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。			60	60	
6	Unit 10: Manufacturing (Listening)				事前学修: Unit 10のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。			60	60	
7	Unit 10: Manufacturing (Reading)				事前学修: Unit 10のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。			60	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	Unit 11: Marketing & Sales (Listening)	事前学修: Unit 11のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
9	Unit 11: Marketing & Sales (Reading)	事前学修: Unit 11のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
10	Unit 12: Travel (Listening)	事前学修: Unit 12のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
11	Unit 12: Travel (Reading)	事前学修: Unit 12のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
12	Unit 13: Contracts & Negotiations (Listening)	事前学修: Unit 13のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
13	Unit 13: Contracts & Negotiations (Reading)	事前学修: Unit 13のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
14	Unit 14: Housing & Properties (Listening)	事前学修: Unit 14のリスニングセクション(1~4ページ目)の問題を音声をよく聞いて解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
15	Unit 14: Housing & Properties (Reading)	事前学修: Unit 14のリーディングセクション(5~8ページ目)、Grammar Focusをよく読んで理解し、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた問題にもう一度取り組み、なぜ間違えたのか確認しておく。	60	60
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり: キーワード ()			
教科書	塚野壽一、山本厚子、大須賀直子他. 『SUCCESSFUL STEPS FOR THE TOEIC L&R TEST -New Edition-』(テーマ別TOEIC L&R TEST 総合演習) 成美堂 ISBN978-4-7919-3421-8			
参考文献	必要に応じて講義中に適宜指示します。			
備考	必ず毎回授業の学習箇所の問題に解答して授業に臨むこと。授業中に質問に答えられないと予習をしていないと見なされ、授業態度評価に影響します。各Unit修了毎に前UnitのReview Testを行うので、重要語句や文法の要点及びリスニング等の復習をしておくこと。シラバスの内容は学生の熟達度、受講生数、授業の進行状況により変更する必要がある。授業内課題はその都度、授業内にてフィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-4-ESE-11				
	●	●								
科目名	STEP II				単位認定者	小松 義隆		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目は、専門基礎科目で学修しているリスニング、リーディング、文法、語彙に関する基礎力を再確認しながら、総合的な英語力を定着させることを目的とする。授業では、実用英語技能検定の過去問題を活用し、特に語彙、文法、リーディングに関する学修を行う。反復練習を繰り返し、英語力を強化することにより、実用英語検定試験受験への意欲を高めていく。</p>									
到達目標	<p>準1級からは時間との闘いが厳しくなる。①語彙の増強は必要不可欠だが、文脈から推測するなど文章の中で単語を理解できるようになる。②長文問題は読み返している時間がないので、パラグラフの構成を意識しながら(ディスコースマーカー(Discourse Marker)などのヒントも駆使し)必要な情報を正確かつ迅速に見つけ出すことができる。③リスニングの長さや話し手の多さに惑わされず、正確に情報を把握することができる。</p>									
学修者への期待等	<p>英検準1級の過去問題集を使用する。必ず対応箇所の予習復習を行うこと。特に予習時は実際の試験時に各問題に割り当てる目安の時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてみること。授業時は辞書などを必ず用意すること。各自で英検の試験の申し込みを行い、受講後に自分の英語力を確認することを強く勧める。</p>									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業の導入 2025年度 第2回英検準1級過去問題演習①(問題1)				事前学修：各自テキストを準備しておく。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				0	30
2	2025年度 第2回英検準1級過去問題演習②(問題2-1～2-2)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30
3	2025年度 第2回英検準1級過去問題演習③(問題3-1～3-2)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30
4	2025年度 第1回英検準1級過去問題演習①(問題1)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30
5	2025年度 第1回英検準1級過去問題演習②(問題2-1～2-2)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30
6	2025年度 第1回英検準1級過去問題演習③(問題3-1～3-3)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30
7	2024年度 第3回英検準1級過去問題演習①(問題1～2-1)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。				60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	2024年度 第3回英検準1級過去問題演習② (問題2-2～3-2)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
9	2024年度 第2回英検準1級過去問題演習① (問題1～2-1)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
10	2024年度 第2回英検準1級過去問題演習② (問題2-2～3-2)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
11	2024年度 第1回英検準1級過去問題演習① (問題1～2-1)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
12	2024年度 第1回英検準1級過去問題演習② (問題2-2～3-2)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
13	2023年度 第3回英検準1級過去問題演習① (問題1～2-2)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
14	2023年度 第3回英検準1級過去問題演習② (問題2-3～3-3)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
15	まとめ(ライティング、リスニング、二次面接に関する説明など)	事前学修：実際の試験進行のイメージトレーニングをする。また英検のHPをみて2次試験の進行に関してのガイダンスを見ておく。 事後学修：説明を聞き実際の試験に備えること	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(演習、イメージトレーニング)			
教科書	『2026年度版 英検 準1級 過去6回全問題集』旺文社英検書 2026(※2026/2/26発売予定)(ISBN: 9784010951057)			
参考文献	なし			
備考	内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 状況により、遠隔授業になる場合があります。 フィードバックは授業内にて解答解説時に行います。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

現代英語学科 2年生

(2025年度入学生)

- 教育課程（カリキュラムマップ）
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス

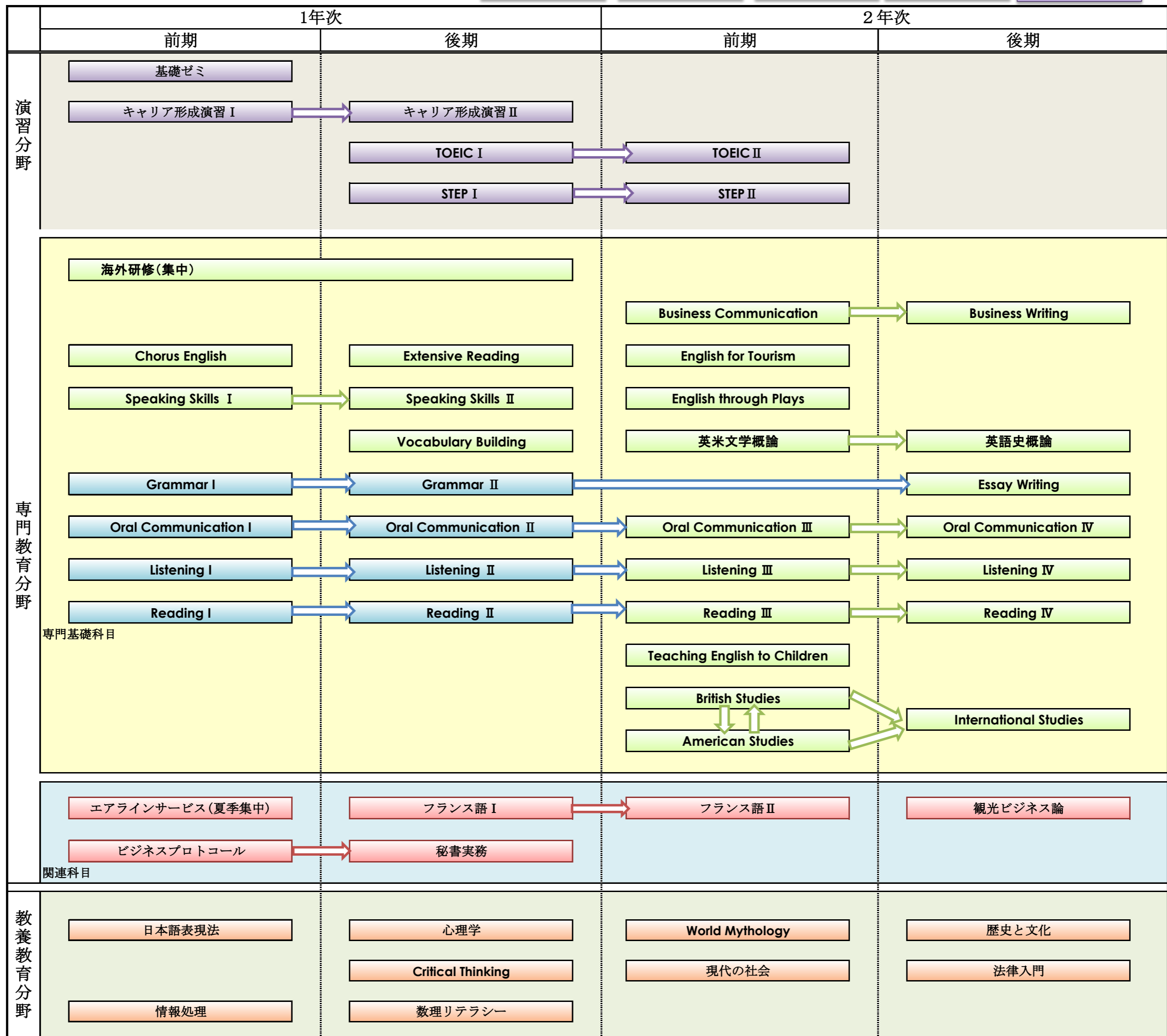
学修成果（到達目標）

- 1 **【基礎力】**「話す」「聞く」「読む」「書く」の英語4技能を身につけ、英語コミュニケーション能力を高めることができる（CEFR - B1レベル程度）。
 - ① 身近な話題に関して対応できる英語力を身につけている。
 - ② 他者の考えを理解し、自分の考えを表現できる。
- 2 **【実践力】**基礎力で培った英語コミュニケーション能力を基に、実用的英語運用能力を身につけ、自立した英語使用者として行動することができる。
 - ① 英語母語話者と臆せずコミュニケーションができる。
 - ② 多角的に物事を捉え、自分の考えを表現できる。
- 3 **【人間関係力】**コミュニケーション能力、豊かな人間性及び基礎的なビジネス実務能力を身につけ、他者と良好な人間関係を築くことができる。
 - ① 社会や職場に必要なコミュニケーション能力を身につけている。
 - ② 基本的なプロトコルやビジネス実務能力を身につけ、実践することができる。
- 4 **【生涯学習力】**生涯にわたり学び、成長し続けることができる。
 - ① 生涯にわたって課題を発見し、解決する力を身につけることができる。
 - ② グローバル社会において様々な変化に応じ、生涯を通じて自分を成長させることができる。
- 5 **【地域理解力】**多様な社会・文化を理解することができる。
 - ① 自国の歴史・文化・社会・経済について理解し、異文化間コミュニケーションに役立てることができる。
 - ② 様々な地域の文化・社会を知り、それぞれの価値観に対応して調和と共生を積極的に図る。

学修成果 : 1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力
学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。 ●は、各授業科目が学修成果の1~5のどれに当てはまるかを表すものです。

現代英語学科 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次・学修成果										単位数							
			1年					2年					必修	選択						
			前期	後期	学修成果					前期	後期	学修成果								
		1	2	3	4	5			1	2	3	4	5							
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●		●										1		
		World Mythology	15							○					●	●		2		
		歴史と文化	15								○				●	●		2		
	人間と社会	心理学	15		○			●	●										2	
		法律入門	15								○				●			2		
		現代の社会	15								○				●			2		
		Critical Thinking	15		○			●	●		●							2		
	人間と科学	情報処理	15	○		●												1		
		数理リテラシー	8		○	●												1		
専門教育分野	専門基礎科目	Oral Communication I	15	○		●	●											1		
		Oral Communication II	15		○	●	●											1		
		Listening I	15	○		●	●											1		
		Listening II	15		○	●	●											1		
		Reading I	15	○		●	●											1		
		Reading II	15		○	●	●											1		
		Grammar I	15	○		●	●											1		
		Grammar II	15		○	●	●											1		
	専門展開科目	Oral Communication III	15							○				●			●	2		
		Oral Communication IV	15								○			●	●		●	2		
		Listening III	15							○				●			●	2		
		Listening IV	15								○			●			●	2		
		Reading III	15							○				●			●	2		
		Reading IV	15								○			●		●	●	2		
		Business Communication	15							○				●	●			2		
		Essay Writing	15								○		●	●				2		
		Business Writing	15								○		●	●			●	2		
		Speaking Skills I	15	○			●	●										2		
		Speaking Skills II	15		○		●	●										2		
		Extensive Reading	15		○	●	●											2		
		English for Tourism	15			●	●			○				●			●	2		
		Chorus English	15	○		●	●										●	2		
		English through Plays	15							○				●			●	2		
		英米文学概論	15							○				●			●	2		
		英語史概論	15								○			●			●	2		
		Vocabulary Building	15		○	●	●											2		
		Teaching English to Children	15							○				●	●	●		2		
		British Studies	15							○			●				●	2		
	American Studies	15							○			●				●	2			
	International Studies	15								○		●				●	2			
	海外研修	集中		○	●	●	●	●	●								2			
	関連科目	ビジネスプロトコル	15	○			●	●										2		
		秘書実務	15		○		●	●										2		
		観光ビジネス論	15								○			●		●		2		
		エアラインサービス	集中		○		●	●										2		
		フランス語 I	15		○				●	●								1		
		フランス語 II	15							○					●	●		1		
	演習分野	演習科目	キャリア形成演習 I	15	○			●	●									1		
			キャリア形成演習 II	15		○		●	●									1		
			基礎ゼミ	15	○		●	●	●									1		
			TOEIC I	15		○	●	●											1	
			STEP I	15		○	●	●											1	
TOEIC II			15							○				●				1		
STEP II			15							○				●				1		
総計（卒業要件62単位以上）															38	48				



2026年度 現代英語学科2年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土						
4月					1		2							
	5	6	オリエンテーション	7	1	8	午前健康診断 午後授業	9	1	10	1	11		
	12	13	1	14	2	15	1	16	2	17	2	18		
	19	20	2	21	スポーツ大会	22	2	23	3	24	3	25		
	26	27	3	28	3	29	昭和の日	30		1		2		
5月	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	休日	7	4	8	4	9	
	10		11	4	12	4	13	3	14	5	15	5	16	
	17		18	5	19	5	20	4	21	6	22	6	23	
	24		25	6	26	6	27	5	28	7	29	7	30	
	31		1	7	2	7	3	6	4	8	5	8	6	
6月	7		8	8	9	8	10	7	11	9	12	9	13	
	14		15	9	16	9	17	8	18	10	19	10	20	
	21		22	10	23	10	24	9	25	11	26	11	27	
	28		29	11	30	11	1	10	2	12	3	12	4	
7月	5		6	12	7	12	8	11	9	13	10	13	11	
	12		13	13	14	13	15	12	16	14	17	14	18	
	19		20	海の日	21	14	22	13	23	15	24	15	25	
	26		27	14	28	15	29	14	30	月15	31	水15	1	
8月	2		3	予備日	4	定期試験	5	定期試験	6	追試	7		8	
	9		10		11	山の日	12		13		14		15	
	16		17		18	成績発表	19		20		21	再試験	22	海外研修
	23	海外研修	24	海外研修	25	海外研修	26	海外研修	27	海外研修	28	海外研修	29	海外研修
	30	海外研修	31	海外研修	1	海外研修	2	海外研修	3	海外研修	4	海外研修	5	海外研修
9月	6	海外研修	7		8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21	敬老の日	22	休日	23	秋分の日	24		25		26	
	27		28	1校時 オリエンテーション 2校時～授業	29	1	30	1						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2026年度 現代英語学科2年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土				
10月						1	1	2	1	3		
	4	5	2	6	2	7	2	8	2	9	2	10
	11	12	スポーツの日	13	3	14	3	15	3	16	3	17
	18	19	3	20	4	21	4	22	4	23	4	24
	25	26	4	27	5	28	5	29	5	30	せいよう祭 準備(休講)	31
11月	1	2	5	3	文化の日	4	6	5	6	6	5	7
	8	9	6	10	6	11	7	12	7	13	6	14
	15	16	7	17	7	18	8	19	8	20	7	21
	22	23	勤労感謝の日	24	8	25	9	26	9	27	8	28
	29	30	8	1	9	2	10	3	10	4	9	5
12月	6	7	9	8	10	9	11	10	11	11	10	12
	13	14	10	15	11	16	12	17	12	18	11	19
	20	21	11	22	12	23	13	24	到達度確 認テスト	25	12	26
	27	28		29		30		31		1	元旦	2
1月	3	4	12	5	13	6	14	7	13	8	13	9
	10	11		12	14	13	15	14	14	15	14	16
	17	18	13	19	15	20	月14	21	15	22	15	23
	24	25	15	26	予備日	27	予備日	28	定期試験	29	追試	30
	31	1		2		3		4		5	成績発表	6
2月	7	8		9		10		11	建国記念 の日	12	再試験	13
	14	15		16		17		18		19		20
	21	22		23	天皇誕生 日	24		25		26		27
	28	1		2		3		4		5		6
3月	7	8		9		10		11		12		13
	14	15		16		17	卒業式	18		19		20
	21	春分の日	22	振替休日	23		24		25	26		27
	28	29		30		31						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

■カリキュラムの変更に伴う読替対応表（現代英語学科）

（2025年度以前入学の学生適用）

2026年度入学生より、教育課程（カリキュラム）が変更になりましたが、2025年度以前に入学した学生は、入学時の教育課程（カリキュラム）に基づき履修します。

以下の科目は開講単位等が変更になります。以下の表を確認して履修してください。

なお、不明な点は教員に相談し、特に再履修をする場合は履修間違いのないよう気を付けてください。

※網掛け部分は変更なしの科目です。

2025年度以前に入学した学生の教育課程（カリキュラム）						2025年度以前に入学した学生が2026年度以降に再履修する場合の読替科目												
科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次				単位数		読替対応 授業科目の名称	授業回数	履修年次				単位数		備考	
			1年		2年		必修	選択			1年		2年		必修	選択		
			前期	後期	前期	後期					前期	後期	前期	後期				
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○				1										
		World Mythology	15			○		2										
		歴史と文化	15				○	2	歴史と文化	15				○		2	開講時期の変更	
	人間と社会		心理学	15		○			2									
			法律入門	15				○	2	法律入門	8				○	1	単位不足分を別途開講	
			現代の社会	15			○		2	現代の社会	8				○	1	単位不足分を別途開講	
			Critical Thinking	15		○			2									
	人間と科学		情報処理	15	○				1									
			数理リテラシー	8		○			1	数理リテラシー	8			○		1	授業概要・授業形態の変更	
	専門教育分野	専門基礎科目	Oral Communication I	15	○				1									
Oral Communication II			15		○			1										
Listening I			15	○				1										
Listening II			15		○			1										
Reading I			15	○				1										
Reading II			15		○			1										
Grammar I			15	○				1										
Grammar II			15		○			1										
専門展開科目		Oral Communication III	15			○		2										
		Oral Communication IV	15				○	2										
		Listening III	15			○		2										
		Listening IV	15				○	2										
		Reading III	15			○		2										
		Reading IV	15				○	2										
		Business Communication	15			○		2										
		Essay Writing	15				○	2	Essay Writing	15					○	2	開講時期の変更	
		Business Writing	15				○	2	(科目廃止)									別途開講
		Speaking Skills I	15	○				2										
		Speaking Skills II	15		○			2										
		Extensive Reading	15		○			2										
		English for Tourism	15			○		2										
		Chorus English	15	○				2										
		English through Plays	15			○		2	English through Plays	15					○	2	開講時期の変更	
		英米文学概論	15				○	2										
		英語史概論	15				○	2										
		Vocabulary Building	15		○			2										
Teaching English to Children		15			○		2											
British Studies		15			○		2											
American Studies		15			○		2	American Studies	15					○	2	開講時期の変更		
International Studies		15				○	2											
海外研修	集中	○				2												
関連科目	ビジネスプロトコール	15	○				2											
	秘書実務	15		○			2											
	観光ビジネス論	15				○	2											
	エアラインサービス	集中	○				2	(科目廃止)								2	履修対象者は2025年度に履修済	
	フランス語 I	15		○			1											
フランス語 II	15			○		1												
演習分野	演習科目	キャリア形成演習 I	15	○				1										
		キャリア形成演習 II	15		○			1										
		基礎ゼミ	15	○				1										
		TOEIC I	15		○			1	TOEIC I	15	○					1	開講時期の変更	
		STEP I	15		○			1	STEP I	15	○				1	開講時期の変更		
		TOEIC II	15			○		1	TOEIC II	15		○			1	開講時期の変更。ただし、2026年度は前期に別途開講も行う。		
STEP II	15			○		1	STEP II	15			○		1	開講時期の変更。ただし、2026年度は前期に別途開講も行う。				

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-0-HCU-03				
				●	●					
科目名	World Mythology				単位認定者	スミス アンソニー		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	15 %
							授業時間数		30 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	Students taking this compulsory course will explore in-depth the world of mythological gods and beasts, and will come to learn how creation stories and ancient oral traditions served a vital role for early civilizations in making sense of the physical world. It should be noted that mythology has greatly influenced many of Shakespeare's plays. This course will focus mainly on Greek, Roman, Norse, and Egyptian cultures. Throughout this course, students will also gain a basic understanding of the Bible.									
到達目標	本講義では、英語圏社会との関わりにおいて、必須とされる「教養」の基本を知ること、言語への理解を含めて、文化理解を深めることを目標とする。									
学修者への期待等	受講者間でのペアワークやディスカッション、コメントシートなど、授業の内容に関して自身の意見をアウトプットする時間を設ける。アクティブラーニングへの理解と積極的な参加を期待する。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	ギリシャ・ローマ神話への導入				事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。			60	30	
2	創世神話 ① ガイアとウラノスを中心に				事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。			60	30	
3	創世神話 ② クロノスとレアを中心に				事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。			60	30	
4	ダイダロスとイカロス				事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。			60	30	
5	オルペウスとエウリュディケ				事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。			60	30	
6	ペルセウスとメドゥーサ				事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。			60	30	
7	テセウスとミノタウルス				事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。			60	30	
8	ギリシャ・ローマ神話における英雄像				事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。			60	30	
9	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の違い				事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。			60	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
10	ユダヤ教、及びキリスト教における洪水神話	事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。	60	30
11	イスラム教における洪水神話	事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。	60	30
12	日常を彩る北欧神話	事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。	60	30
13	エジプト神話 オシリス神話を中心に	事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。	60	30
14	シェイクスピア作品のモチーフとなった神話	事前学修：授業に備え、プリントの内容を理解しておくこと。 事後学修：しっかり復習し、小テストに備え、要点を纏めておくこと。	60	30
15	最終プレゼンテーション	事前学修：プレゼンテーションに備え、自らの意見をまとめておくこと。 事後学修：提出用のレポートを準備すること。	90	90
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（pairwork、discussion and presentation）			
教科書	講義にてプリントを配布する			
参考文献	講義中に適宜指示する。			
備考	状況により遠隔授業に変更する場合がある。課題については採点し、授業内でフィードバックする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-03				
				●	●					
科目名	歴史と文化				単位認定者	小原 豊志		授業内課題等	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	<p>本科目は英語を専門とする学生たちが教養として知っておくべき「歴史と文化」をアメリカ史を中心に学ぶ授業である。とりわけ、アメリカ合衆国における人種と宗教に焦点をあて、白人性と福音主義の生成・発展過程を追跡することにより、現代における人種差別問題や反知性主義現象を理解することを目指す。授業の前半部は黒人（奴隷）問題の展開について、後半部はアメリカ独特のキリスト教の展開について視聴覚教材を用いつつ講義を行う。受講生には授業の感想を提出してもらったり、お互いに意見交換をしてもらったりして、双方向の授業を展開する。</p>									
到達目標	<p>アメリカ合衆国のさまざまな歴史事象において人種や宗教が果たした役割を理解できるようにする。また、これによって、現代の世界各地における人種・民族・宗教問題に対する洞察力を身につける。</p>									
学修者への期待等	<p>歴史的な事象を過去のものとしてとらえるのではなく、その事象が現代にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。そのために、現在の世界や日本で起きていることに常に注意を払い、その出来事が起こった背景や原因を考えるようにしてください。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	現代アメリカの人種問題				事前学修：事後学修：小レポートを作成する。			0	30	
2	「人種」とは何か				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
3	黒人奴隷制度とアメリカの独立				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
4	黒人奴隷制度とアメリカの発展				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
5	南北戦争への道				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
6	南北戦争と奴隷解放				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
7	奴隷解放後の黒人問題				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
8	公民権運動と黒人問題：1950年代の運動の特質				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
9	公民権運動と黒人問題：1960年代の運動の特質				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
10	公民権運動後の黒人問題				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
11	現代アメリカとキリスト教				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
12	植民地期のキリスト教—ピューリタニズムと「大覚醒」				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
13	独立革命とキリスト教				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
14	信仰復興運動とキリスト教原理主義				事前学修：課題の下調べをしておく。事後学修：小レポートを作成する。			30	30	
15	総括と期末試験				事前学修：これまでの学習内容を復習する。事後学修：			90	0	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	教科書は使用せず、授業において資料を配布します。									
参考文献	授業時に適宜指示します。									
備考	小レポートで寄せられたコメントや質問等については翌週の授業時に回答します。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

科目ナンバリング
CO-0-HSO-04

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●			●	

科目名	法律入門				単位 認定者	鈴木 一樹		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業形態	講義		授業時間数	30 時間
				授業回数	15 回					
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	法律の種類と法律を学ぶ意味				事前学修：法律に関するイメージを自分なりに持っておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
2	憲法（1）基本的人権 一平等権、精神的自由等一				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
3	憲法（2）基本的人権 一経済的自由、その他の人権一				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
4	憲法（3）人権総括、統治機構				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
5	民法（1）総則				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
6	民法（2）物権				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
7	民法（3）債権（契約等）				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
8	民法（4）債権（不法行為）				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
9	民法（5）親族・相続				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
10	刑法（1）総論				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	刑法(2)各論	事前学修：前回講義の内容についてレジメを参照して復習すること 事後学修：レジメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください	30	30
12	会社法(1)総論、株式	事前学修：前回講義の内容についてレジメを参照して復習すること 事後学修：レジメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください	30	30
13	会社法(2)機関、組織再編	事前学修：前回講義の内容についてレジメを参照して復習すること 事後学修：レジメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください	30	30
14	消費者法	事前学修：前回講義の内容についてレジメを参照して復習すること 事後学修：レジメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください	30	30
15	その他の重要な法律	事前学修：前回講義の内容についてレジメを参照して復習すること 事後学修：レジメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください	30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()			
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジメや資料を配布する。			
参考文献	適宜講義内で紹介する。			
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。講義内容は、進度に応じて変更する場合がある。課題については、講義内でフィードバックを行う。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-03			
	●				●				
科目名	現代の社会				単位認定者	劉 暁玥		試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	※筆記試験はマークシート（50%）とレポート（30%）を同時内に実施 ※詳細は備考欄を参照すること。
							授業時間数		30 時間
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。								
到達目標	取り上げるテーマは、いずれも社会人として当然備うべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。								
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。								
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	「現代の社会」導入(現代世界概観とSDGs)				事前学修：なし 事後学修：なし			0	0
2	現代社会の誕生と特質(歴史的な出来事と現代社会のさまざまな側面)				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0
3	グローバリゼーションと国際問題・異文化理解				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0
4	テクノロジーと社会(特にデジタル化、AIの影響、関連課題のディスカッション)				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0
5	環境問題と持続可能な社会(特に脱炭素、循環型社会の形成)				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0
6	一般廃棄物リサイクルの課題と可能性(特にプラスチックごみ問題、関連課題のディスカッション)				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0
7	現代の経済社会(特に経済格差と多様化、グローバル化する世界経済)				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0
8	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための法制度について)				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0
9	労働問題(働き方改革、労働格差、外国人労働者について)				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0
10	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について、関連課題のディスカッション)				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0
11	政治と民主主義(特に現代の政治システムと市民参加)				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0
12	社会的不平等と貧困問題				事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし			30	0

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
13	教育の役割と変化(教育制度の進化と教育格差)	事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし	30	0
14	現代社会と人間(特に自己形成、社会と個人の関係)	事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし	30	0
15	現代社会と将来(特にコロナ禍による課題とアフターコロナの世界) レポート作成に当たって	事前学修：配付資料を用いて復習する 事後学修：なし	30	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(ディスカッション)			
教科書	なし			
参考文献	必要に応じて授業中に提示する			
備考	授業の中、何回小テストを行う。翌週の授業時に解答し、フィードバックを行う。試験は、同時間内にマークシート解答(50%)とレポート作成(30%)を実施する。レポート作成の要領については講義内で説明するので集中して聞くこと。なお、持込一切不可である。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-01				
	●	●								
科目名	Oral Communication III				単位認定者	グリーン ジェニファー (Aクラス)		グループワーク参加度	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	英会話スキルチェック	20 %
					授業形態		演習		授業時間数	30 時間
				授業回数			15 回			教科書の宿題
授業の概要	<p>「Oral Communication II」をさらに発展させ、日常の物事や時事問題などに関して、積極的に自分の意見を英語で表出することを目的とする。授業では、時事に関する視聴覚教材や読解教材を取り入れ、現代社会の事象に関する自身の考えやスタンスをも言語化できるようにする。グループディスカッションを多く取り入れ、メンバーが持ち回りで議長役を担い、グループの意見をまとめ、発表する。身近な話題に限らず、幅広い話題に関して、自分の考えを論理的かつ積極的に表現できる力を身につける。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する英会話ができるようになる。 外国人の学生と英語でコミュニケーションができるようになる。 英語でスピーチを行い、その内容についてディスカッションができるようになります。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> インターネットに接続できるデバイス（ノートパソコン推奨）を毎回持参してください。 各ユニット開始前に、コミックに関する事前課題を行ってください。 ディスカッション、グループワーク、ペアワーク、ロールプレイングなどの活動を行うため、積極的に参加してください。 									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業の紹介：授業内容の説明を行う。その後、自己紹介のアクティビティと、英語で分からない単語があるときの伝え方を学ぶアクティビティを行う。				事前学修：なし 事後学修：なし				0	0
2	自然な英会話のコツ：英語で会話を自然に続ける方法を学び、その方法を使って、いくつかの簡単な会話練習を行う。				事前学修：なし 事後学修：なし				0	0
3	インターナショナル・バーチャル・エキスチェンジ (IVE)：IVEを使ったオンラインでの国際交流の方法を学ぶ。 ※IVEの開始時期によっては、実施日が変更になる場合がある。				事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください				0	60
4	Unit1：健康、喫煙、食品の安全性をテーマにした英会話を行う（4～6ページ）。				事前学修：Unit1のコミック宿題をしてください（2～3ページ）。 事後学修：IVE使用してください				30	60
5	Unit1：安全に関する法律や終末期医療をテーマにした英会話を行う。（7～8ページ）。				事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください				0	60
6	Unit2：人間と動物の関係やベジタリアンをテーマにした英会話を行う（12～13ページ）。				事前学修：Unit2のコミック宿題をください（10～11ページ）。 事後学修：IVE使用してください				30	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	Unit2:動物の権利をテーマにした英会話を行う(14~15ページ)。	事前学修:なし 事後学修:IVE使用してください	0	60
8	Unit3:ファッションや外見による印象をテーマにした英会話を行う(21~22ページ)。	事前学修:Unit3のコミック宿題をしてください(18~19ページ)。 事後学修:IVE使用してください	30	60
9	Unit3:摂食障害やファストファッションをテーマにした英会話を行う(23~24ページ)。	事前学修:なし 事後学修:IVE使用してください	0	60
10	Unit4:子育てや世代間の違いをテーマにした英会話を行う(28~29ページ)。	事前学修:Unit4のコミック宿題をしてください(26~27ページ)。 事後学修:IVE使用してください	30	60
11	Unit4:拡大家族や家族関係の問題、離婚をテーマにした英会話を行う(30~32ページ)。	事前学修:なし 事後学修:なし	0	0
12	Unit5:留学や伝統文化の保存をテーマにした英会話を行う(37~38ページ)。	事前学修:Unit5のコミック宿題をしてください(34~35ページ)。 事後学修:なし	30	0
13	Unit5:文化的価値観から生じる課題や消滅の危機にある文化をテーマにした英会話を行う(39~40ページ)。	事前学修:なし 事後学修:なし	0	0
14	英会話スキルチェック:これまでに身につけた英会話力の評価のため、クラスメートといくつかの会話を録音する。	事前学修:なし 事後学修:なし	0	0
15	学習の振り返りと英語の自習方法:英語学習を振り返り、今後の目標について考える活動を行う。合わせて、夏休み中に自分で取り組める英語学習の方法を、いくつか紹介する。	事前学修:なし 事後学修:なし	0	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり:キーワード(ディスカッション、グループワーク、ペアワーク、ロールプレイング)			
教科書	Topic Talk Issues by Kristy McLean. EFL Press.			
参考文献	必要に応じて、授業内で指示する。			
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。授業内課題は返却時に指導する。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-1-EBA-01				
	●	●								
科目名	Oral CommunicationⅢ				単位認定者	グリーン ジェニファー (Bクラス)		グループワーク参加度	45 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	英会話スキルチェック	15 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	インターナショナル・バーチャル・エキスチェンジ (IVE)
				授業回数			15 回		語彙クイズ	20 %
授業の概要	「Oral CommunicationⅡ」をさらに発展させ、日常の物事や時事問題などに関して、積極的に自分の意見を英語で表出することを目的とする。授業では、時事に関する視聴覚教材や読解教材を取り入れ、現代社会の事象に関する自身の考えやスタンスをも言語化できるようにする。グループディスカッションを多く取り入れ、メンバーが持ち回りで議長役を担い、グループの意見をまとめ、発表する。身近な話題に限らず、幅広い話題に関して、自分の考えを論理的かつ積極的に表現できる力を身につける。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する英会話ができるようになる。 外国人の学生と英語でコミュニケーションができるようになる。 英語で状況に応じてさまざまな形で質問と応答ができるようになる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> インターネットに接続できるデバイス（ノートパソコン推奨）を毎回持参してください。 教科書の各ユニット開始時には語彙クイズを実施しますので、事前に自宅で語彙を学習し、準備をして授業に臨んでください。 ディスカッション、グループワーク、ペアワーク、ロールプレイングなどの活動を行うため、積極的に参加してください。 									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業の紹介：授業内容の説明を行う。その後、自己紹介のアクティビティと、英語で分からない単語があるときの伝え方を学ぶアクティビティを行う。				事前学修：なし 事後学修：なし				0	0
2	自然な英会話のコツ：英語で会話を自然に続ける方法を学び、その方法を使って、いくつかの簡単な会話練習を行う。				事前学修：なし 事後学修：なし				0	0
3	インターナショナル・バーチャル・エキスチェンジ (IVE)：IVEを使ったオンラインでの国際交流の方法を学ぶ。 ※IVEの開始時期によっては、実施日が変更になる場合がある。				事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください				0	60
4	Unit1：語彙クイズを行う。出身をテーマに、英会話練習を行う（12～13ページ）。				事前学修：Unit1の語彙を予習してください（12～14ページ）。 事後学修：IVE使用してください				30	60
5	Unit1：出身をテーマにした英会話を続ける（14～15ページ）。				事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください				0	60
6	Unit2：語彙クイズを行う。娯楽をテーマに、英会話練習を行う（16～17ページ）。				事前学修：Unit2の語彙を予習してください（16～17ページ）。 事後学修：IVE使用してください				30	60
7	Unit2：娯楽をテーマにした英会話を続ける（18～19ページ）。				事前学修：なし 事後学修：IVE使用してください				0	60

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	Unit3: 語彙クイズを行う。映画と本をテーマに、英会話練習を行う(20~21ページ)。	事前学修: Unit3の語彙を予習してください(20~22ページ)。 事後学修: IVE使用してください	30	60
9	Unit3: 映画と本をテーマにした英会話を続ける(22~23ページ)。	事前学修: なし 事後学修: IVE使用してください	0	60
10	Unit4: 語彙クイズを行う。できることをテーマに、英会話練習を行う(24~25ページ)。	事前学修: Unit4の語彙を予習してください(24~26ページ)。 事後学修: IVE使用してください	30	60
11	Unit4: できることをテーマにした英会話を続ける(26~27ページ)。	事前学修: なし 事後学修: なし	0	0
12	Unit5: 語彙クイズを行う。食事をテーマに、英会話練習を行う(28~29ページ)。	事前学修: Unit5の語彙を予習してください(28~30ページ)。 事後学修: なし	30	0
13	Unit5: 食事をテーマにした英会話を続ける(30~31ページ)。	事前学修: なし 事後学修: なし	0	0
14	英会話スキルチェック: これまでに身につけた英会話力の評価のため、クラスメートといくつかの会話を録音する。	事前学修: なし 事後学修: なし	0	0
15	学習の振り返りと英語の自習方法: 英語学習を振り返り、今後の目標について考える活動を行う。合わせて、夏休み中に自分で取り組める英語学習の方法を、いくつか紹介する。	事前学修: なし 事後学修: なし	0	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード(ディスカッション、グループワーク、ペアワーク、ロールプレイング)			
教科書	<i>New Conversations in Class, Book 2</i> by Stephen Richmond, Bruno Vannieu. Alma Publishing. ISBN: 9784905343363			
参考文献	必要に応じて、授業内で指示する。			
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する可能性がある。授業内課題は返却時に指導する。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

科目ナンバリング
CE-2-EAD-14

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
		●	●		●

科目名	Oral Communication IV				単位認定者	スミス アンソニー		評価の方法	授業内課題 (小テストを含む)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
					授業形態		演習		授業回数	15 回
授業の概要	「Oral CommunicationⅢ」をさらに発展させ、日常の物事や時事問題などに関して、積極的に自分の意見を英語で表出することを目的とする。授業では、時事に関する視聴覚教材や読解教材を取り入れ、現代社会の事象に関する自身の考えやスタンスをも言語化できるようにする。グループディスカッションを多く取り入れ、メンバーが持ち回りで議長役を担い、グループの意見をまとめ、発表する。身近な話題に限らず、幅広い話題に関して、自分の考えを論理的かつ積極的に表現できる力を身につける。									
到達目標	身近な話題に限らず、幅広い話題に関して、Pairwork 及び Discussionを通して、自分の考えを論理的かつ積極的に英語でディベートできるようになる。									
学修者への期待等	授業には、テキスト、辞書（言語の学修に辞書は必須）、ノート、ファイル（授業で渡されたプリント等を整理できるもの）を必ず持参すること。また、授業の前に必ず予習しておくこと。具体的には、次の授業で学ぶであろう章に目を通し、分からない語彙があれば辞書で調べておくこと。授業内に、毎回グループワークを行う。尚、Unit を終える度にReview Quiz を課す。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	Unit 1. Working at a Convenience Store or a Restaurant? (Introducing the Topic, Listening, Q&A)				事前学修：Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
2	Unit 2. Cash vs Credit Card — Advantages & Disadvantages (Introducing the Topic, Listening, Q&A)				事前学修：Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
3	Unit 3. Volunteer Work (Introducing the Topic, Listening, Q&A)				事前学修：Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
4	Unit 4. Stay-at-home Dads (Introducing the Topic, Listening, Q&A)				事前学修：Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
5	Unit 5. Do You Want to be a YouTuber? (Introducing the Topic, Listening, Q&A) 小テスト				事前学修：Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
6	Unit 6. I Want a Driverless Car! (Introducing the Topic, Listening, Q&A)				事前学修：Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
7	Unit 7. Smartphone or Laptop? (Introducing the Topic, Listening, Q&A)				事前学修：Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
8	Unit 8. Online Dating (Introducing the Topic, Listening, Q&A)				事前学修：Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30
9	Unit 9. Being Famous — Advantages & Disadvantages (Introducing the Topic, Listening, Q&A)				事前学修：Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修：しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。				60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
10	Unit 10. Hybrid Classes — The Way of the Future? (Introducing the Topic, Listening, Q&A) 小テスト	事前学修 : Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修 : しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
11	Unit 11. Working 4 Days a Week or 5 Days a Week? (Introducing the Topic, Listening, Q&A)	事前学修 : Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修 : しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
12	Unit 12. Married at 35 (Introducing the Topic, Listening, Q&A)	事前学修 : Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修 : しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
13	Unit 13. Cosmetic Surgery (Introducing the Topic, Listening, Q&A)	事前学修 : Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修 : しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
14	Unit 14. Good Bye SNS (Introducing the Topic, Listening, Q&A)	事前学修 : Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修 : しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
15	Unit 15. Working From Home — Advantages & Disadvantages (Introducing the Topic, Listening, Q&A) 小テスト	事前学修 : Vocabulary, Dialog 1&2, Discussion Practice を予習する。 事後学修 : しっかり復習し、Exercisesの答えを確認する。	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり : キーワード (Pairwork & Discussion)			
教科書	What Do You Think? 15 Topics for Discussion & Conversation 南雲堂 ISBN 978-4-523-17948-1			
参考文献	必要に応じて、授業内で指示する。			
備考	課題については採点し、授業内でフィードバックする。状況により遠隔授業に変更する場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-10					
		●			●						
科目名	ListeningⅢ				単位認定者	相田 明子		授業内課題 ①小テスト等	40	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 ② ふりかえり テスト	40	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	20	%
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	<p>本科目の目的は、「映画英語」を通して、近現代の英語表現を理解することである。言葉は常に変化していくものであり、特に現代においては瞬く間に古い表現に変わっていく。その意味で「映画英語」は如実に時代を反映していると言える。はじめは字幕なしで、次は字幕ありで、聞き取れないところは何度も繰り返し流し、台詞を暗記に近い状態で覚え、その表現を自分のものにしていく。また、映画に描かれている文化背景についても、理解を深めることを目標とする。</p>										
到達目標	<p>Listening I・Listening IIの学修を経たAdvanced Classとして、中級程度(CEFR B1)のレベルの教材を使用し、より高度なリスニング能力を習得する。映画を使った学習を通して、自分に身近な事柄だけでなく、社会や職業の世界で遭遇する話題について理解できるようになる。</p>										
学修者への期待等	<p>映画は学習用の教材として作られたものではないため、聴き取りが難しいことは当然です。指示された予習をした上で受講に臨むこと、集中力を持続して受講できること、語学だけではなく映画のストーリーや文化・社会背景にも興味を持ち、練習やペアワークを通して「映画」という媒体を楽しんで学修する姿勢が求められます。受講者は英検2級程度以上の聴解力があることが望ましい。</p>										
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	Unit 1. William's Notting Hill & 'She'				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30		
2	Unit 2. Surreal、 But Nice				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30		
3	Unit 3. A Goddess Is A Movie Star				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30		
4	Unit 4. Birthday Party				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30		
5	Unit 5. A Date With Anna				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30		
6	Unit 1～5 のまとめとListening				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30		
7	Unit 1～5 小テスト：英語表現と語彙力小テスト				事前学修：小テストの準備をする 事後学修：ここまで学んだ語彙や表現を復習する			30	30		
8	Unit 6. She's Gone				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30		

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
9	Unit 7. She's Back	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
10	Unit 8. Rude Awakening -Ain't No Sunshine	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
11	Unit 9. Like Me Again	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
12	Unit 10. The Right Decision -The Meaning of My Life Is She	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
13	British English とAmerican English まとめ	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
14	Unit 6～10 小テスト：英語表現と語彙力小テスト	事前学修：小テストの準備をする 事後学修：ここまで学んだ語彙や表現を復習する	30	30
15	ふりかえりテスト：Listening & Speaking	事前学修：ふりかえりテストの準備をする 事後学修：ここまで学んだ語彙や表現を復習する	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（練習、ペアワーク）			
教科書	『Notting Hill New Format Edition』 Richard Curtis著、松柏社、ISBN978-4\88198\590-8			
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。			
備考	受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。小テスト等のフィードバックはその都度、授業内に行う。遅刻は授業開始10分以内とする。状況により、遠隔授業に変更する場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-15					
		●			●						
科目名	ListeningIV				単位認定者	相田 明子		評価の方法	授業内課題① 小テスト等	20	%
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題② ふりかえりテ スト	50	%
					授業形態		演習		授業時間数	30 時間	受講態度
							授業回数			15 回	
授業の概要	「ListeningⅢ」で学修した内容を踏まえ、英語ニュースや英語プレゼンテーション番組、著名人のインタビュー等多種多様な英語を題材に、特定の情報の聞き取りや話の趣旨が理解できるリスニングスキルを身につけることを目的とする。ディクテーションや多聴を行いながら、話者の違いによる発音や発話速度を理解し、間違いなく内容を聞き取れるようになることを企図する。迅速で的確に内容を把握するリスニングスキルを身につけることで、さらなるコミュニケーション能力の向上につなげる。										
到達目標	ニュースキャスターや該当インタビューを受けるネイティブスピーカーが話す自然な英語を聴きとることで、リスニング能力ならびに語彙力をさらに向上させ、グループワークを通して発表することを目的とする。										
学修者への期待等	実際に放送されたBBC（英国放送協会）のニュースを教材とします。インタビューの箇所では様々なネイティブスピーカーの話す英語の聞き取りに挑戦します。指示された予習や練習をした上で受講に臨むこと、集中力を持続して受講できること、政治、環境、文化、医療、科学技術などのトピックに触れながら、イギリスや世界の情勢に興味を持ち学修できる姿勢が期待されます。受講者は英検2級程度以上の聴解力があることが望ましい。										
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)	
1	授業のIntroduction Unit 1 Ice Cream: A New Heritage Flavour Listening & Dictation				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
2	Unit 2 Selling Fashion to Help a Community Listening & Dictation、前章のVocabulary Test				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
3	Unit 3 The Floods of Storm Henk Listening & Dictation、前章のVocabulary Test				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
4	Unit 4 A London Sauna Listening & Dictation、前章のVocabulary Test				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
5	Unit 5 Workers from Overseas Listening & Dictation、前章のVocabulary Test				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
6	Unit 6 Welsh Place Names: In English or Welsh? Listening & Dictation、前章のVocabulary Test				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
7	Unit 7 Power from the Scottish Sea Listening & Dictation、前章のVocabulary Test				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
8	Unit 8 Volunteers Preserving the White Horse Listening & Dictation、前章のVocabulary Test				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
9	Unit 9 Lifting Men's Spirits with The BroProject Listening & Dictation、前章のVocabulary Test				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
10	Unit 10 Eating at the Cornwall Show: Plants or Meat? Listening & Dictation、前章のVocabulary Test	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
11	Unit 11 The Impact of Artificial Intelligence Listening & Dictation、前章のVocabulary Test	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
12	Unit 12 Traditional Skills Needed to Save Old Buildings Listening & Dictation、前章のVocabulary Test	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
13	Unit 13 Antisemitism in the UK Listening & Dictation、前章のVocabulary Test	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
14	Unit 14 Learning How to Capture Carbon Listening & Dictation、前章のVocabulary Test	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
15	Unit 15 How Can Scotland Gain Independence? Listening & Dictation、前章のVocabulary Test これまで学修した内容について、ふりかえりのテスト	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（練習、発表、グループワーク）			
教科書	『British News Update 7』 Timothy Knowles他、金星堂、ISBN978-4-7647-4219-2			
参考文献	授業内で指示する			
備考	受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。小テスト等のフィードバックはその都度、授業内に行う。遅刻は授業開始10分以内とする。状況により、遠隔授業に変更する場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-03				
		●			●					
科目名	ReadingIII				単位 認定者	小松 義隆		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の 方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	<p>本科目は、英語ニュースや英字新聞などを題材として、時事問題に関する英語語彙、英語表現の獲得を目的とする。メディア英語に特有の文法事項、表現や略語等についても学ぶ。</p> <p>題材としては、BBCやCNNなどの実際のニュース映像を用い、語彙や表現を身につけるだけでなく、リスニングスキルの向上を図っていく。世界の最新ニュースへの関心を高めることも付随した目標である。これに加え、学生が興味をもつニュースや話題なども取り上げていき、選んだ題材を様々な形式で発表することで、学びを深めていく。</p>									
到達目標	<p>米有力紙The Wallstreet Journal中で世界へ「いま一番新しい日本」をレポートしている連載記事Japan Real Timeを題材にメディアの中で使われる英語に親和し、同時にニュースへの関心を高めることが目標である。身近なトピックが英語でどのように伝えられているかを学び、語彙や表現の幅を広げる。</p>									
学修者への期待等	<p>授業にはテキスト、辞書（言語の学修に辞書は必須）を必ず持参すること。授業の前に必ず予習しておくこと。具体的には、次の授業で学ぶであろう章に目を通し、トピックに関する周辺情報まで調べておくこと。語彙を増やす取り組みとしては1年次に使用した『英単語の語源図鑑』の続編となる『続英単語の語源図鑑』を後期に開講されるReadingIVまで継続して使用し、さらに上位の語彙を獲得する。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)	
1	Unit 1 5 Things You Didn't know About Kawaii Kawaiiの美学 『続英単語の語源図鑑』①				事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 1の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。			30	30	
2	Unit 2 Uniqlo Finds Wealth of Data in Bangladesh Not-For-Profit Venture ユニクロが蓄積したお宝データ 『続英単語の語源図鑑』②				事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 2の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。			30	30	
3	Unit 3 When the B List Is Best 味が勝負のB級グルメ 『続英単語の語源図鑑』③				事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 3の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。			30	30	
4	Unit 4 Harvard Degree: The Political Economy of Kumamon くまモンの政治経済学 『続英単語の語源図鑑』④				事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 4の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。			30	30	
5	Unit 5 Saving Fukuoka's Street Food 福岡の屋台文化の歴史 『続英単語の語源図鑑』⑤				事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 5の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
6	Unit 6 A Japanese Artist Finds New Life A Year After the Quake ある芸術家の再生と「成長」 『続英単語の語源図鑑』⑥	事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 6の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
7	Unit 7 Fictional Japanese TV Banker Takes Double the Payback ドラマ『半沢直樹』ヒットの要因 『続英単語の語源図鑑』⑦	事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 7の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
8	Unit 8 As Sentiment Improves, Red Lipstick Back in Vogue 赤い口紅と景気の関係 『続英単語の語源図鑑』⑧	事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 8の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
9	Unit 9 Japan's Aging, Female Criminals? 女性受刑者の倍増と犯罪のグローバル化 『続英単語の語源図鑑』⑨	事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 9の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
10	Unit 10 Cult TV Travelogue Lets you Share Wednesday's Ride 『水曜どうでしょう』ロングヒットの秘密 『続英単語の語源図鑑』⑩	事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 10の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
11	Unit 11 Want to Cosplay? Then Lose That Sword コスプレを安全に楽しむ方法 『続英単語の語源図鑑』⑪	事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 11の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
12	Unit 12 Fukushima Watch: Who Wrote the New Anti-Nuke Novel? 反原発の新刊本を書いたのは誰？ 『続英単語の語源図鑑』⑫	事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 12の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
13	Unit 13 For Some, Scented Fabric Softeners No Laughing Matter 柔軟剤の流行と弊害 『続英単語の語源図鑑』⑬	事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 13の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
14	Unit 14 The 1964 Tokyo Olympics: A Turning Point for Japan オリンピックに見る日本のターニングポイント 『続英単語の語源図鑑』⑭	事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 14の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
15	Unit 15 New for Valentine's Day in Japan: No Men バレンタインデーの新潮流 『続英単語の語源図鑑』⑮	事前学修：NotesやThe Key to Reading Passageを参照しながらChapter 15の内容を予習する。Checking Your Understanding～Listening Summaryまで 事後学修：Reading Passageの翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所をまとめてUNIPAに提出すること。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
教科書	『日本で起きている15のあらゆること』宮本文 2016 松柏社 (ISBN:978-4-88198-707-0) 『続英単語の語源図鑑』清水健司・すずきひろし 2019 かんき出版 (ISBN:978-4-7612-7435-1)			
参考文献	なし			
備考	内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 状況により、遠隔授業になる場合があります。 授業内課題（各回の訳等）はUNIPAに提出してください。コメントをつける形式でフィードバックします。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-07				
		●		●	●					
科目名	ReadingIV				単位認定者	小松 義隆		レポート	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
							授業時間数		30 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	一連のReadingの授業の集大成として、文学作品（簡易版）を通しての精読に挑戦することを目的とする。物語内容や執筆当時の歴史文化背景を合わせて学びながら一語一語丁寧に読みを進めることによって物語への造詣を深める。作品当時の文物や登場人物の表現や言い回しに触れて、英語および英語圏への更なる興味深化へつなげる。									
到達目標	①作品が執筆された時代、社会背景について調査し、語、熟語、英文の意味を文脈に即して正確に把握することができる。 ②精読を通じて作品の面白さを味わいながら内容への造詣を深めることができる。 ③簡易版ではあるが1作品を翻訳することによる達成感と自信を感じることができる。									
学修者への期待等	簡易版ではあるが英文学作品として代表的なGulliver's Travelsを精読し、翻訳していく。当時（18世紀）の時代背景についても合わせて調査し、児童文学作品としての同作では出てこない内容にや風刺（作者のJonathan Swift）についても理解を深めていく。精読の授業であるので作中の言葉1語1語の意味や表現について丁寧に扱っていく。ReadingⅢから引き続きで「続英単語の語源図鑑」を使用し上位の語彙を獲得する。本授業で扱う作品に興味をもって参加することを期待します。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業のイントロダクション（授業の進め方とルール）テキストへの導入と購読 『続英単語の語源図鑑』①				事前学修：テキストを各自購入しておき、テキストの構成を概観して読書翻訳計画を立てる。 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する。			30	30	
2	作品講読と翻訳（1.A voyage to Lilliput中の担当箇所）、内容の発表、担当箇所に関するの周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』②				事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する			60	30	
3	作品講読と翻訳（2.Life in Lilliput中の担当箇所）、内容の発表、担当箇所に関するの周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』③				事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する			60	30	
4	作品講読と翻訳（3.Lilliput at war中の担当箇所）、内容の発表、担当箇所に関するの周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』④				事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する			60	30	
5	作品講読と翻訳（4.Gulliver escapes from Lilliput中の担当箇所）、内容の発表、担当箇所に関するの周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑤				事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する			60	30	
6	作品講読と翻訳（5.A voyage to Brobdingnag中の担当箇所）、内容の発表、担当箇所に関するの周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑥				事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳をまとめUNIPAに提出する。			60	30	
7	作品講読と翻訳（6.Gulliver and his master中の担当箇所）、内容の発表、担当箇所に関するの周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑦				事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する			60	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	作品講読と翻訳 (7. At the King's palace中の担当箇所)、内容の発表、担当箇所についての周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑧	事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する	60	30
9	作品講読と翻訳 (8. More adventures in Brobdingnag (前半) 中の担当箇所)、内容の発表、担当箇所についての周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑨	事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する	60	30
10	作品講読と翻訳 (8. More adventures in Brobdingnag (後半) 中の担当箇所)、内容の発表、担当箇所についての周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑩	事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する	60	30
11	作品講読と翻訳 (9. Gulliver escapes from Brobdingnag中の担当箇所)、内容の発表、担当箇所についての周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑪	事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する	60	30
12	作品講読と翻訳 (10. The flying island of Laputa 中の担当箇所)、内容の発表、担当箇所についての周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑫	事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する	60	30
13	作品講読と翻訳 (11. Glubbudrib and Luggnagg中の担当箇所)、内容の発表、担当箇所についての周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑬	事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する	60	30
14	作品講読と翻訳 (12. A voyage to the country of the Houyhnhnms (前半) 中の担当箇所)、内容の発表、担当箇所についての周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑭	事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する	60	30
15	作品講読と翻訳 (12. A voyage to the country of the Houyhnhnms (後半) 中の担当箇所)、内容の発表、担当箇所についての周辺情報、気になった表現などの発表 『続英単語の語源図鑑』⑮	事前学修：担当箇所の精読と翻訳、作品の時代・文化背景に関する周辺情報調査（インターネット等）、気になる語彙や表現のまとめ 事後学修：進んだ範囲の翻訳と「続英単語の語源図鑑」対応箇所ををまとめUNIPAに提出する	60	60
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ 調査、発表 ）			
教科書	Oxford Bookworm Library Jonathan Swift Gulliver's Travels(Stage 4) Oxford University Press (ISBN:978-0-19-479173-1) 『続英単語の語源図鑑』清水健司・すずきひろし 2019 かんき出版（※ReadingⅢからの継続使用） (ISBN:978-4-7612-7435-1)			
参考文献	授業内で指示する			
備考	①内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 ②状況により、遠隔授業になる場合があります。 ③授業内課題（各回の訳等）はUNIPAに提出してください。コメントをつける形式でフィードバックします。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-02			
		●	●						
科目名	Business Communication				単位認定者	未定		授業内課題 (期末テスト)	20 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	授業参加姿勢	20 %
						授業時間数	30 時間	発表内容	60 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	<p>本科目では、基本的なビジネスの場に必要な丁寧な英語表現を学習し、実際のビジネスシーンで活用できるようになることを目的とする。</p> <p>具体的には、電話対応、アポイントメント調整、トラブル対応などの状況において、重要な用語や表現を学び、反復練習を通して、定着を図る。さらに、ロールプレイングを取り入れ、積極的に英語で会話することにより、ビジネスシーンにおける英語コミュニケーション能力を培っていく。</p>								
到達目標	<p>本授業では、学生がビジネスシーンにおいて会話の質の向上に貢献できる英語力と思考力を養う。大手企業やビジネスの時事ネタについて対談力を深めることを目指します。また、最新のビジネストレンドを英語で理解・議論する力を培い、国際的な職場でのコミュニケーション力を向上させます。</p>								
学修者への期待等	<p>指定課題は必ず読む。そして、設問やライティング課題を必ず完成させた上で、授業に望むこと。事前準備の度合 が各授業から学べる内容を大小を大きく左右するという意識をもって、15回の授業に臨む。</p>								
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	未定（開講が決まり次第、別途通知します）								
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）								
教科書	未定								
参考文献									
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-04				
	●	●								
科目名	Essay Writing				単位認定者	未定 (Aクラス)		授業内課題	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目の目的は、英文エッセイの構造を理解し、自ら構成できるライティング力を培うことである。「Grammar & Composition II」で学んだ、パラグラフライティングの構成を再確認し、身近なトピックにとどまらず、提示された課題に対して、自分の意見を論理的に展開することができるようになることを企図する。Introduction, Body, Conclusionを軸に、論理性に矛盾がなく、より説得力のあるエッセイを書くための技法を学ぶ。また、セルフチェック、ピアチェック等を取り入れ、数多くのエッセイライティングを実施する。</p>									
到達目標	<p>1. WritingやReadingに必要な語彙知識を固め、Essayの読み書きに応用できる。 2. Essay Writingの基礎を学び、段落構成の整った300語以上の英作文ができるようになる 3. Essayの構造を知り、Reading能力を高め、効率的に英文が読めるようになる</p>									
学修者への期待等	<p>辞書必携。 テキストは「日本文化の再発見」をテーマにしており、対外的に説明・紹介する機会も多い内容と考えられます。改めて日本文化について理解を深めるとともに、読者が読みやすい文章を構成する方法を学んでください。</p>									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	未定（開講が決まり次第、別途通知します）									
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	未定									
参考文献										
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-04				
	●	●								
科目名	Essay Writing				単位認定者	未定 (Bクラス)		授業内課題	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目の目的は、英文エッセイの構造を理解し、自ら構成できるライティング力を培うことである。「Grammar & Composition II」で学んだ、パラグラフライティングの構成を再確認し、身近なトピックにとどまらず、提示された課題に対して、自分の意見を論理的に展開することができるようになることを企図する。Introduction, Body, Conclusionを軸に、論理性に矛盾がなく、より説得力のあるエッセイを書くための技法を学ぶ。また、セルフチェック、ピアチェック等を取り入れ、数多くのエッセイライティングを実施する。</p>									
到達目標	<p>1. Paragraph Writingの基礎〔書式(format), 構造(structure), 表現(expression)]をしっかりと身につける。 2. 英語の論理構成(logic)と展開法(organization)にのっとりの確に自分の考えを伝えることができる。 3. 論理的な議論の展開（場合によっては日本語のそれとは違った）方法の基礎を学べる。</p>									
学修者への期待等	<p>辞書必携。 テキストはアンケートやブレインストーミング形式の問題に答えて、各Unitで扱うトピックについての知識や考えを整理する形式です。意見交換でトピックに関する考えを深め、様々な考えや情報を書き出すことにより実際に書く際の材料にしてください。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
	未定（開講が決まり次第、別途通知します）									
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	未定									
参考文献										
備考										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
CE-2-EAD-04

科目名	Business Writing				単位 認定者	相田 明子		評価の方法	授業内課題 (ふりかえり テスト2回)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題(単 語テスト、レ ポート)等	35 %
						授業時間数	30 時間		発表内容	15 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			%
授業の概要	2年前期で履修する「Business Communication」では、ビジネスの現場で必要となる英語コミュニケーションの基礎(語彙や表現)について学修する。2年後期の履修となる本科目では、「Business Communication」で得た知識を基に、海外企業との取引や同僚との連絡の際に必要なビジネス文書について学修する。モデルとなるビジネスメールを読み理解することから始め、最終的には、取引先や顧客、同僚や上司とのやりとりを含め、ビジネスの現場で、用件を的確に伝え、相手との心理的距離を縮めるために効果的でプロフェッショナルなemailを、様々な場面を想定しながら書く、または返信することが出来るようになる。									
到達目標	グローバルなビジネスの現場において、取引先と適切なコミュニケーションを行うための媒体として、必要とされる書状やe-mailの作法を習得し、実践できるようになる。									
学修者への期待等	毎回の授業準備(提出課題や語彙復習等)を行うこと。授業中に学ぶ語彙や英語表現を用いて、英語でのビジネス文書やe-mailの作成に取り組むこと。ロールプレイやグループワークを行う場面では、積極的な取り組みが期待される。単語テストや小テストは必ず受けること。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	Unit 1 Introducing Yourself (同僚や取引先との初対面の際の挨拶について、ロールプレイ、e-mail作成)					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める			30	30
2	Unit 2 Introducing Companies (他社に自社を紹介する方法を身に着ける。グループワーク) e-mail作成 Useful Vocabulary ①					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める			30	30
3	Unit 3. Explaining Your Role (自分や自分の属すチームの業務内容を説明する。問題練習、解説) 単語テスト①					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める			30	30
4	Unit 4. Checking Information (聞き取れない・理解できない事柄を聞き直す。グループワーク、問題練習、解説) e-mail作成					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める			30	30
5	Unit 5 Checking Information (聞き取れなかった・理解できなかった情報をどのように確認するか。グループワーク) e-mail作成 Useful Vocabulary ②					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める			30	30
6	Unit 6 Giving Your Opinion (自分の意見をはっきりと言う。プレゼンテーション) e-mail作成 単語テスト②					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める			30	30
7	Unit 7 Making Request (相手の要求に応える、自分の願いを告げる。問題練習、解説) e-mail作成 / Unit 1~7までの小テスト					事前学修：予習、小テストの準備学修 事後学修：学修した内容の理解を深める			60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	Unit 8 Asking Permission (許可を取る、与える、断るための表現。ロールプレイグ) e-mail作成 Useful Vocabulary ③	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める	30	30
9	Unit 9 Making Invitations (招待をする、断る、受けるための表現を学ぶ、書状作成) e-mail作成、単語テスト③	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める	30	30
10	Unit 10 Making Appointments (会議の時間を調整する、問題練習、解説) e-mail作成	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める	30	30
11	Unit 11 Cancelling and Rescheduling (会議の予定を立てる、キャンセルする。問題練習、解説) e-mail作成	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める	30	30
12	Unit 12 Describing Locations (社内や街で場所を尋ねたり、案内が出来るようになる。問題練習、解説) e-mail作成 Useful Vocabulary ④	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める	30	30
13	Unit 13 Looking after a Visitor (訪問者に対する応対。問題練習、解説) e-mail作成 単語テスト④	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める	30	30
14	Unit 14 Making a Phone Call (電話の応対とその後のe-mail。グループワーク、問題練習、解説) e-mail作成	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学修した内容の理解を深める	30	30
15	Unit 15 Taking Messages (電話で伝言を聞き、伝えるための表現。問題練習、解説) e-mail作成 / Unit 8～15までの小テスト	事前学修：予習、小テストの準備学修 事後学修：学修した内容の理解を深める	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ロールプレイグ、練習、グループワーク、プレゼンテーション）			
教科書	『Go Global』Garry Pearson他、成美堂、ISBN978-4-7919-7184-8			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
備考	小テスト、提出物等のフィードバックは返却の際に行う。本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。遅刻は授業開始10分以内とする。また、状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-08				
		●			●					
科目名	English for Tourism				単位認定者	尾形 まゆみ		授業内課題 (プレゼンテーション)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	Vocabulary Quiz、授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	<p>本科目の目的は、近年増加の一途を辿っている訪日観光客に対応するための英語力及びコミュニケーション能力を培うことである。空港や駅、ホテル、商業施設など、観光・旅行などの現場で必要とされる英単語や英語表現を学ぶ。また、旅行時の病気・けが等に対応するための表現も学修する。特に、リスニング力とスピーキング力を向上させ、世界の様々な地域からの観光客に対応できることを企図する。観光案内等のロールプレイングも取り入れ、実践的に学修する。</p>									
到達目標	<p>1. 観光に関する表現・語彙を理解し、コミュニケーションに活かすことができる。 2. 国内観光、海外観光に関する諸事情に関心を持ち、日々のニュース等から、自ら知識や興味の幅を広げることができる。</p>									
学修者への期待等	<p>指定教科書は必ず購入する(1回目の講義で指示)。指定課題は期日厳守で提出すること。受け身ではなく積極的に学修し、テキスト外の社会事象にも関心を持つことを期待する。学修成果の確認として、観光英語検定2級(3級)の受験を薦める。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業の進め方(予習・復習)の確認 Unit 1(World Tourism)の学修: Listening、Speaking、Reading、Vocabulary				事前学修: Unit 1の1~4ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。			60	60	
2	Unit 1 Professional Skills (Checking and Confirming Details)の学修 & Case Studyのグループワーク ディスカッション				事前学修: Unit 1の5~8ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。			60	60	
3	Unit 2(Jobs in Tourism)の学修: Listening、Speaking、Reading、Vocabulary				事前学修: Unit 2の1~4ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。			60	60	
4	Unit 2 Professional Skills (Covering Letters)の学修 & Case Studyのグループワーク ディスカッション				事前学修: Unit 2の5~8ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。			60	60	
5	Unit 3(Visitor Center)の学修: Listening、Speaking、Reading、Vocabulary				事前学修: Unit 3の1~4ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。			60	60	
6	Unit 3 Professional Skills (Dealinig with Enquiries)の学修 & Case Studyのグループワーク ディスカッション				事前学修: Unit 3の5~8ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修: 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。			60	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	Unit 4(Package Tours)の学修 : Listening、Speaking、 Reading、 Vocabulary	事前学修 : Unit 4の1~4ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修 : 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。	60	60
8	Unit 4 Professional Skills (City Tours)の学修 & Case Studyのグループワーク ディスカッション	事前学修 : Unit 4の5~8ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修 : 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。	60	60
9	Unit 5(Hotels)の学修 : Listening、 Speaking、 Reading、 Vocabulary	事前学修 : Unit 5の1~4ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修 : 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。	60	60
10	Unit 5 Professional Skills (Dealing with Complaints)の学修 & Case Studyのグループワーク ディスカッション	事前学修 : Unit 5の5~8ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修 : 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。	60	60
11	Unit 6(Food & Beverage)の学修 : Listening、Speaking、 Reading、 Vocabulary	事前学修 : Unit 6の1~4ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修 : 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。	60	60
12	Unit 6 Professional Skills (Meeting Customers' Needs)の学修 & Case Studyのグループワーク ディスカッション	事前学修 : Unit 6の5~8ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修 : 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。	60	60
13	Unit 7(Nature Tourism)の学修 : Listening、Speaking、 Reading、 Vocabulary	事前学修 : Unit 7の1~4ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修 : 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。	60	60
14	Unit 7 Professional Skills (Structuring a Presentation)の学修 & Case Studyのグループワーク ディスカッション	事前学修 : Unit 7の5~8ページを読み、問題に解答しておく。 事後学修 : 授業内で間違えた箇所をもう一度解答する。	60	60
15	プレゼンテーション	事前学修 : プレゼンテーションのパワーポイントを作成し、シミュレーションを行って、プレゼンテーションに備える。 事後学修 : プレゼンテーションのレポートを作成する。	60	60
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり : キーワード (グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション)			
教科書	English for International Tourism Pre-Intermediate New Edition. Twonna Dubicka & Margaret O' Keefe. Pearson. ISBN978-1-4479-2387-9			
参考文献	授業時に紹介する。			
備考	受講生の理解度により、進度が変更になる場合もある。課題は期限までに提出すること。期限を過ぎての提出はできない。課題は回収後、添削評価を付けて次回授業時に返却する。予習は必ずすること。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-11				
		●			●					
科目名	English through Plays				単位認定者	スミス アンソニー		授業内課題	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	参加態度	20 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	<p>今まで学修した英語コミュニケーション力を総合的に活用して、リーディングシアター、ショートプレイ、ミュージカルパフォーマンス等、英語でのパフォーマンスを作成し、発信することを目的とする。パフォーマンスを作成する際には、聴衆を意識し、いかに伝えるかということを考えることが必要であり、コミュニケーションの学びを深めることとなる。併せて、人前で英語で演技をすることで、英語を話すことへの自信をつけることにもつながる。大人数で一つのパフォーマンスを作り上げることにより、チームで協力する姿勢も培う。</p>									
到達目標	<p>英語演劇に取り組むことで、英語による表現力を鍛え、発表に足るパフォーマンスをすることができる。また、グループワークやペアワークを通して履修生全員で一つの作品を作り上げることで、チームで働く力を培え、Emotional Reading Method を身につけることができる。</p>									
学修者への期待等	<p>芝居の台本の内容を予習し、授業に臨むことを期待する。15回の授業終了時に、人前で発表することに備え、Emotional Readingを十分練習することが必要である。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	"Shoplifter"の台本を読み、内容を理解する。				事前学修："Shoplifter"の台本の内容を理解する。 事後学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。			60	30	
2	複数のグループに分かれ、"Shoplifter"の台本を読み、内容を理解する。				事前学修：台本の翻訳を準備する。 事後学修：リハーサルに備え、読みの練習を行う。			60	30	
3	複数のグループに分かれ、"Shoplifter"のリハーサルを行う。				事前学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。 事後学修：プレゼンテーションに備え、読みの練習を行う。			60	60	
4	複数のグループに分かれ、"Shoplifter"のプレゼンテーションを行う。				事前学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。 事後学修："The Weighing Machine"の台本の内容を理解する。			60	30	
5	複数のグループに分かれ、"The Weighing Machine"の台本を読み、内容を理解する。				事前学修：台本の翻訳を準備する。 事後学修：リハーサルに備え、読みの練習を行う。			60	30	
6	複数のグループに分かれ、"The Weighing Machine"を読む。				事前学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。 事後学修：リハーサルに備え、読みの練習を行う。			60	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	複数のグループに分かれ、“The Weighing Machine”のリハーサルを行う。	事前学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。 事後学修：プレゼンテーションに備え、読みの練習を行う。	60	30
8	複数のグループに分かれ、“The Weighing Machine”のプレゼンテーションを行う。	事前学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。 事後学修：“The First Prize”の台本の内容を理解する。	60	30
9	“The First Prize”の台本を読み、内容を理解する。	事前学修：台本の翻訳を準備する。 事後学修：リハーサルに備え、読みの練習を行う。	60	30
10	複数のグループに分かれ、“First Prize”を読む	事前学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。 事後学修：リハーサルに備え、読みの練習を行う。	60	30
11	複数のグループに分かれ、“First Prize”のリハーサルを行う。	事前学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。 事後学修：プレゼンテーションに備え、読みの練習を行う。	60	30
12	複数のグループに分かれ、“First Prize”のプレゼンテーションを行う。	事前学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。 事後学修：“Two-character Play”の台本の内容を理解する。	60	30
13	ペアにわかれ、“Two-character Play”の台本を読み、内容を理解する。	事前学修：台本の翻訳を準備する。 事後学修：リハーサルに備え、読みの練習を行う。	60	30
14	ペアに分かれ、“Two-character play”のリハーサルを行う。	事前学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。 事後学修：プレゼンテーションに備え、読みの練習を行う。	60	30
15	ペアに分かれ、“Two-character play”のプレゼンテーションを行う。	事前学修：抑揚に注意しながら、読みの練習を行う。 事後学修：台本を一つ選び、感想文を準備する。	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、ペアワーク、プレゼンテーション）			
教科書	台本については、全てHandoutsを配布する。			
参考文献	授業内で指示する。			
備考	状況により、遠隔授業になる場合がある。アクティビティが多いので、常に動きやすい服装で参加する。フィードバックとして、各パフォーマンスについてコメントをする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-19				
		●			●					
科目名	英米文学概論				単位認定者	相田 明子		授業内課題①レポート(2回)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	授業内課題②ミニッツ・ペーパー等	15 %	
					授業形態		講義	授業回数	30 時間	受講態度
							15 回			
授業の概要	本科目では「英語」という言語を用いた文学作品の成立の過程を確認したうえで、代表的な文学作品について通時的に紹介をする。受講者は英語圏の文学について基礎知識を獲得し、その内容を理解する。さらに作品と同時代の社会・文化の結びつきについて理解を深め、文学作品を学修することの意義を考えることができるようになる。									
到達目標	(1) 英語圏の文学の代表的な作品について基礎知識を獲得し、その内容を理解する。 (2) 英語圏の文学の代表的な作品と同時代の社会・文化との結びつきについて理解を深め、両者の関係性について理解する。 (3) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。									
学修者への期待等	英米文学の成立の歴史や文化背景を学んだうえで、同時代の作品を、辞書を用いて自力で精読してほしい。主体的な読みの経験が、英語力の向上につながることを期待する。また、文学作品を読み理解することは、英語学修にとってどのような意義があるのだろうか。ディスカッションやロールプレイ、発表を通して、自分なりの回答を模索しながら受講してほしい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業のイントロダクション(授業の進め方とルール)「古英語」の時代と『ベオウルフ』: 講義とテキストの読解、グループワーク				事前学修: 本シラバスを読んでおく 事後学修: 古英語についてまとめておく				0	30
2	「中世英語」の時代とチャーサー: 講義とテキストの読解				事前学修: 配布されたプリントを予習する 事後学修: 中世英語についてまとめておく				30	30
3	「近代初期英語」とルネサンス① 時代背景と英語の変遷: 講義				事前学修: 配布されたプリントを予習する 事後学修: 近代初期英語についてまとめておく				30	30
4	「近代初期英語」とルネサンス② モア、シドニー、スペンサー: 講義とテキストの読解、グループワーク				事前学修: 古英語・中世英語を復習する 事後学修: ルネサンスの時代背景をまとめる				30	30
5	エリザベス朝と演劇① クリストファー・マーロウ: 講義とテキストの読解				事前学修: 配布されたプリントを予習する 事後学修: 演劇・マーロウについてまとめる				30	30
6	エリザベス朝と演劇② シェイクスピア: 講義とテキストの読解				事前学修: シェイクスピアとは? 事後学修: 授業内容をまとめる				30	30
7	エリザベス朝と演劇③ シェイクスピアと「英語」: 講義とテキストの読解 レポートの作成(授業内課題)				事前学修: 英語の成立について復習する 事後学修: 課題について理解を深める				60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	王党派詩人～古代ローマ思想とcarpe diem：講義とテキストの読解、グループワーク	事前学修：古代ローマとは？ 事後学修：王党派詩人についてまとめる	30	30
9	『ロビンソン・クルーソー』(1719)と『ガリバー旅行記』(1726)：講義とテキストの読解	事前学修：授業内容の予習をする 事後学修：学修内容の理解を深める	30	30
10	ロマン派の時代～社会構造の変革と文学作品① 詩人たち(ブレイク、ワーズワース)：講義とテキストの読解、グループワーク	事前学修：ロマン派とは？ 事後学修：学んだ詩を再読してみる	30	30
11	ロマン派の時代～社会構造の変革と文学作品② anonymousな女性作家たち：講義とテキストの読解	事前学修：anonymousの意味を調べる 事後学修：学習内容の理解を深める	30	30
12	ヴィクトリア朝の文学①大英帝国の繁栄と影― 科学・工学の発展と「進化論」：講義	事前学修：「進化論」とは？ 事後学修：学修内容の理解を深める	30	30
13	ヴィクトリア朝の文学②小説(ディケンズ、ブロンテ姉妹、ルイス・キャロル)：講義とテキストの読解	事前学修：配布されたプリントを予習する 事後学修：学習内容の理解を深める	30	30
14	児童文学の発展(ヴィクトリア朝以降の児童文学、絵本・挿絵について)講義と作品の視聴	事前学修：配布されたプリントを予習する 事後学修：学習内容の理解を深める	30	30
15	レポートの作成(授業内課題)、フィードバック	事前学修：学習内容のまとめ 事後学修：作成したレポートをふりかえる	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(ディスカッション、ロールプレイ、発表、グループワーク)			
教科書	使用しない			
参考文献	授業内で指示する			
備考	提出されたミニッツ・ペーパーは都度返却・フィードバックをする。状況により遠隔授業になる可能性がある。遅刻は授業開始10分以内までとする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

科目ナンバリング
GE-2-EAD-20

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
		●			●

科目名	英語史概論				単位認定者	小松 義隆		評価の方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	<p>本科目は学科の専攻科目である「英語」という言語の成り立ちに関して歴史的背景を交えて学ぶことを目的とする。現代の英語が出来上がる背景には様々な言語が介在していることを知り、主に西欧の英語以外の言語との繋がりを知ることによってさらに英語への言語的な興味を高め、学修動機を高める。</p>									
到達目標	<p>言葉は時代の移ろいとともに変化するものである。①自分たちが専攻している言語に関してその成り立ちから、現在に至るまでの概観を学ぶことができる。②現在世界語である英語に歴史上いかに多くの言葉が介在してきたかを知ることができる。③英語の変遷とともに時代背景も合わせて学ぶことができる。</p>									
学修者への期待等	<p>英語とは、ヨーロッパの島国で話されてきた言葉に様々な歴史的出来事を通して、多くの民族と言語が影響を及ぼし、大英帝国の繁栄に合わせて世界に進出し、様々なバラエティーを生み出し、現在では世界共通語になっている。その変遷をテキストを通して、対話形式で展開される師弟の話を通して学びます。絶版で手に入らないテキストを使用します。受講人数を把握しテキストを準備します。概論ではありますがかなり専門的な内容です。受講する場合は途中で投げ出さないように、シラバスの内容などをよく見ておいてください。</p>									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業のイントロダクション（授業の進め方とルール）テキストへの導入と購読				事前学修：シラバスに目を通し授業の概要を把握しておく。 事後学修：テキスト「はしがき」を読む。				30	30
2	Introduction (text)				事前学修：テキストi～iiを読んでおく。 Map1に目を通しておく。 事後学修：テキストの内容を翻訳しUNIPAに提出する。				30	30
3	Chapter 1 The Earliest Inhabitants				事前学修：テキストp. 1～p. 4を読んで訳しておく。 Map1に目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。				90	30
4	Chapter 2 The Celtic People(p.6～p.13)				事前学修：テキストp. 6～p. 13を読んでおく。 Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。				90	30
5	Chapter 2 The Celtic People(p.14～p.19)				事前学修：テキストp. 14～p. 19を読んでおく。 Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。				90	30
6	Chapter 3 The Celts Today (p.20～p.28)				事前学修：テキストp. 20～p. 28を読んでおく。 Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。				90	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	Chapter 3 The Celts Today (p. 29～p. 36)	事前学修：テキストp. 29～p. 36を読んでおく。Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。	90	30
8	Chapter 4 The Romans (p. 37～p. 42)	事前学修：テキストp. 37～p. 42を読んでおく。Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。	90	30
9	Chapter 4 The Romans (p. 43～p. 50)	事前学修：テキストp. 43～p. 50を読んでおく。Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。	90	30
10	Chapter 5 The Anglo-Saxons (p. 51～p. 57)	事前学修：テキストp. 51～p. 57を読んでおく。Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。	90	30
11	Chapter 5 The Anglo-Saxons (p. 58～p. 63)	事前学修：テキストp. 58～p. 63を読んでおく。Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。	90	30
12	Chapter 5 The Anglo-Saxons (p. 64～p. 68)	事前学修：テキストp. 64～p. 68を読んでおく。Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。	90	30
13	Chapter 6 The Danes (p. 69～p. 76)	事前学修：テキストp. 69～p. 76を読んでおく。Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。	90	30
14	Chapter 7 The Normans (p. 77～p. 87)	事前学修：テキストp. 77～p. 87を読んでおく。Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。	90	30
15	Chapter 8 The Late Newcomers (p. 88～p. 92)	事前学修：テキストp. 88～p. 92を読んでおく。Mapなどの資料に適宜目を通しておく。内容に関連する情報を調べる。 事後学修：テキストのtutorialの内容を翻訳しUNIPAに提出する。	90	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（調べる）			
教科書	『英国言語事情』（The Polyglot Isles）Michael C. Mobbs著、益田 出註解 1980 成美堂（※絶版のため教員側でテキストを準備する）			
参考文献	なし			
備考	内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 状況により、遠隔授業になる場合があります。 授業内課題（各回の訳等）はUNIPAに提出してください。コメントをつける形式でフィードバックします。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-2-EAD-22				
		●	●	●						
科目名	Teaching English to Children				単位認定者	ヒープ ジョナサン		評価の方法	授業内課題 (レッスン準備)	30 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 (その他)	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	レッスンの実践
							授業回数		15 回	
授業の概要	本科目は、将来のキャリアの選択肢のひとつとして、子供向けの英語指導に興味のある学生向けの授業となる。履修者は、幼児や児童向けの言語教育の理論やスキルの指導法を学修する。また、授業を通して、スピーキング力を向上させ、英語を実践的に使用することができるようになる。									
到達目標	子どもたちに英語を教えるにはどのようにアプローチすべきか、効果的に教えるにはどのようなスキルが必要かを学び、そのスキルの一部を練習する。									
学修者への期待等	学習者はノートを取り、指導例に参加し、教育実習活動を計画・実行し、教師や他の生徒と関わることを求められる。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	First Vs Second Language Acquisition				事前学修：None 事後学修：Assignment				0	30
2	What happens in a kids English lesson?				事前学修：Review 事後学修：Assignment				15	30
3	Presenting Language				事前学修：Review 事後学修：Preparation				15	30
4	Eliciting Language				事前学修：Review 事後学修：Preparation				15	30
5	Practising Language				事前学修：Review 事後学修：Preparation				15	30
6	Team Teaching Practice				事前学修：Preparation 事後学修：Report				30	30
7	Team Teaching Practice				事前学修：Review 事後学修：Assignment				15	30
8	Productive skills - Speaking/Writing				事前学修：Review 事後学修：Assignment				15	30
9	Receptive skills - Listening/Reading				事前学修：Review 事後学修：Assignment				15	30
10	Classroom Management				事前学修：Review 事後学修：Assignment				15	30
11	Materials - Songs/Props				事前学修：Review 事後学修：Assignment				15	30
12	Final Teaching Practice - Preparation and Brainstorming				事前学修：Review 事後学修：Assignment				15	30
13	Preparation/Crafts and Playtime				事前学修：Preparation 事後学修：Assignment				30	30
14	Final Teaching Practice				事前学修：Preparation 事後学修：Preparation				30	30
15	Final Teaching Practice				事前学修：Preparation 事後学修：None				30	0
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	なし									
参考文献	なし									
備考	フィードバックは継続する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				●

科目ナンバリング
CE-2-EAD-23

科目名	British Studies				単位 認定者	ジョーンズ ドミニク		評価の方法	授業内課題等 (小テスト、ふりかえり、発表等)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	この授業では、地域研究としての特徴を踏まえ、イギリスの社会・文化・歴史を学んでいく。履修した学生はイギリスに対する基礎的な知識を培いながら英語を用いて様々な場面や事柄について学び、グループワークや発表を行うことにより、実用的英語力を強化する。									
到達目標	イギリスの歴史、および文化に対する基本的な知識と理解を深める。									
学修者への期待等	授業には、テキスト、辞書（言語の学修に辞書は必須）、ノート、ファイル（授業で渡されたプリント等を整理できるもの）を必ず持参すること。また、授業の前に必ず予習しておくこと。授業内で行われるグループワーク、及びプレゼンテーションに備え、発信力を培うためのトレーニング（練習）すること。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	British Food ディスカッション グループワーク					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める			30	30
2	British Drink ディスカッション グループワーク					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める			30	30
3	プレゼンテーション「Food & Drink」 反省とフィードバック					事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：発表のフィードバックについて考える			30	30
4	British Movies ディスカッション グループワーク					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める			30	30
5	British Music ディスカッション グループワーク					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める			30	30
6	プレゼンテーション「Movies & Music」 反省とフィードバック					事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：発表のフィードバックについて考える			30	30
7	British Places ディスカッション グループワーク					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める			30	30
8	British People ディスカッション グループワーク					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める			30	30
9	プレゼンテーション「Places & People」 反省とフィードバック					事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：発表のフィードバックについて考える			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
10	British Presentation Brainstormingの準備をする ペアワークとディスカッションを中心に活動する	事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
11	British Presentation Scriptの準備をする ペアワークとディスカッションを中心に活動する	事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
12	British Presentation Slidesの準備をする ペアワークとディスカッションを中心に活動する	事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
13	British Presentation Practiceの練習をする ペアワークとディスカッションを中心に活動する	事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
14	British Presentationのプレゼンテーションを行う ペアワークとディスカッションを中心に活動する	事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
15	British Presentation”のフィードバックを行う ペアワークとディスカッションを中心に活動する	事前学修：発表のフィードバックについて考える 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（練習、グループワーク、発表）			
教科書	適宜資料を配布する。			
参考文献	授業内で指示する			
備考	シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。授業内課題は返却時に指導する。遅刻は授業開始10分以内とする。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

科目ナンバリング
CE-2-EAD-25

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				●

科目名	International Studies				単位 認定者	ジョーンズ ドミニク		評価の 方法	授業内課題等 (発表等)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			

授業の概要
この授業では、プレゼンテーション、記事、ディスカッションなど、さまざまなメディアを通して世界の人々について学ぶ。この授業を受講する学生は、国際的なコミュニケーションと文化についてより深く理解し、自分自身の文化的アイデンティティをより深く考えるようになる。自分自身と世界の人々を理解することで、急速に変化するグローバル化社会での生活に適応する方法を学ぶ。

到達目標
国際的な歴史、および文化に対する基本的な知識と理解を深める。思考、目標設定、コミュニケーション、問題解決のライフスキルを高めることができる。

学修者への期待等
授業には、辞書（言語の学修に辞書は必須）、ノート、ファイル（授業で渡されたプリント等を整理できるもの）を必ず持参すること。また、授業の前に必ず予習しておくこと。具体的には、次の授業で学ぶであろうトピックに目を通し、分からない語彙があれば辞書で調べておくこと。授業内で行われるグループワーク、及びプレゼンテーションに備え、発信力を培うためのトレーニングをすること。授業内でおこなうグループワークとディスカッションと発表の際には、積極的な参加が期待されます。

回	授業計画	準備学修	事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	American ① Growth Mindset ペアワークとディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
2	European ① Stoic Mindset ペアワークとディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
3	World ① Interviewing ペアワークとディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
4	プレゼンテーションを行う ペアワークとディスカッションを中心に活動する	事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：発表のフィードバックについて考える	30	30
5	American ② Personality Styles ペアワークとディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
6	World ② Finances ペアワークとディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
7	World ③ Nutrition ペアワークとディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
8	プレゼンテーションを行う ペアワークとディスカッションを中心に活動する	事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：発表のフィードバックについて考える	30	30
9	American ③ Design Thinking ペアワークとディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
10	African ① Global Identity ペアワークとディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
11	Oceanian ① Indiginous People ゲストスピーカーになる ペアワークとディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
12	プレゼンテーションを行う ペアワークとディスカッションを中心に活動する	事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：発表のフィードバックについて考える	30	30
13	European ② Reasoning ペアワークとディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現や発表の理解を深める	30	30
14	Summary Presentationの準備をする	事前学修：発表の準備をしておくこと 事後学修：発表のフィードバックについて考える	30	30
15	Summary Presentationを行う反省とフィードバック	事前学修：発表のフィードバックについて考える 事後学修：発表のフィードバックについて考える	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（プレゼンテーション、グループワーク、ペアワーク、ディスカッション）			
教科書	適宜資料を配布する。			
参考文献	必要に応じて、授業内で指示する。			
備考	シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する可能性がある。授業内課題は返却時に指導する。遅刻は授業開始10分以内とする。状況により遠隔授業になる場合がある。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

科目ナンバリング
TB-1-FC0-04

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				●

科目名	観光ビジネス論				単位 認定者	鎌田 貢治		評価の 方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内 課題等	30 %
	現代英語学科	選択	2年			授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要
観光事業は、観光政策のように国や地方公共団体などが公共目的で実施するマクロ的なものと、個々の企業や組織が営利または非営利の目的をもって行うミクロ的なものとに分けられる。本科目では、企業や組織の営む観光ビジネスの全体像について概観する。具体的には、観光ビジネスの基本である移動と宿泊、観光地での諸活動、それらの仲介サービスにおいて、それらの企業や組織がいかなるビジネスモデルに則って事業活動を展開しているかについて、豊富な事例研究を交えながら理解を深める。

到達目標
様々な組織や団体の観光事業について概略を理解し、社会との関わりの中でどのような役割を果たしているのかを説明できるようになる。

学修者への期待等
観光ビジネスは個別的な観光活動が対象であるが、難しく考えず身近な観光キャンペーンや地域おこしなどで観光が果たしている役割を考えれば、この授業はわかり易くなります。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	観光ビジネスとは 観光全般産業の概略紹介	事前学修：観光ビジネス内容の下調べをする 事後学修：観光産業の概略の深堀りをする	30	30
2	観光産業の紹介N01 (宿泊業界)	事前学修：宿泊業界の概要を調べる 事後学修：宿泊業界のPOINTを深掘りする	30	30
3	観光産業の紹介N02 (航空業界)	事前学修：航空業界の概要を調べる 事後学修：航空業界のPOINTを深掘りする	30	30
4	観光産業の紹介N03 (旅行業界)	事前学修：旅行業界の概要を調べる 事後学修：旅行業界のPOINTを深掘りする	30	30
5	観光産業の紹介N04 (ウェディング業界)	事前学修：結婚式場の概要を調べる 事後学修：結婚式場のPOINTを深掘りする	30	30
6	観光産業の紹介N05 (鉄道業界)	事前学修：鉄道業界の概要を調べる 事後学修：鉄道業界のPOINTを深掘りする	30	30
7	観光産業の紹介N06 (クルーズ船について)	事前学修：クルーズ業界の概要を調べる 事後学修：クルーズ業界のPOINTを深掘りする	30	30
8	観光産業の紹介N07 (テーマパークについて)	事前学修：テーマパークについて下調べする 事後学修：興味のあるパークの深掘りをする	30	30
9	観光産業の紹介N08 (道の駅 地域活性化)	事前学修：地域活性化とは何かを調べる 事後学修：道の駅の現状を深掘りする	30	30
10	外部講師による旅行代理店の様々な戦略等について	事前学修：インバウンドの現状を下調べする 事後学修：外部講師の講義内容を検証する	30	30
11	外部講師による留学事情と国際化について	事前学修：国際化とは何かを考察する 事後学修：外部講師の講義内容を検証する	30	30
12	グループワークによる観光産業を含めた企画案作り ① (場所の選定)	事前学修：企画を作成の留意点を下調べする 事後学修：企画内容の検証をする	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
13	グループワークによる観光産業を含めた企画案作り②(コースの選定)	事前学修：企画内容の検証をする 事後学修：企画内容の検証をする	30	30
14	グループワークによる観光産業を含めた企画案作り③(まとめ確認)発表	事前学修：企画内容のまとめ確認をする 事後学修：他のグループ内容の検証をする	30	30
15	振り返り まとめ(観光ビジネス全般について)	事前学修：観光全般の整理をする 事後学修：観光ビジネスの内容の検証をする	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク, 発表)			
教科書	無し			
参考文献	授業の中で適宜紹介をする。			
備考	授業の進捗状況により講義内容が前後することがあります。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

旅行業界に42年在籍, 様々な経験に基づいて観光業全般の事例の提示を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-3-RCO-08					
				●	●						
科目名	フランス語Ⅱ				単位認定者	野中 みどり		小テスト	30	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	各課の課題	30	%
					授業形態		演習		授業時間数	30 時間	特別課題
							授業回数			15 回	確認小テスト
授業の概要	フランス語Ⅰに続き、フランス語でコミュニケーションを図るための学修を行う。既習の単語や表現を定着させ、さらに動詞や表現を増強する。教科書に沿い、自己表現の方法を学修し、グループワークで自由な練習を行い、内容の理解と応用を図る。トレーニングとして、発音練習、動詞の活用、単語の小テスト、数字や表現の聞き取りチェックを実施する。フランス語Ⅰと同様、日常表現を紹介し、平易な会話なら自発的に行うことができることを目指す。										
到達目標	①学習：フランス語の発音ルールと文法を理解し使えるようになる。挨拶や日常表現を覚えフランスの文化や社会についても知識を得ることができる。 ②練習：モデル会話にならって自分を表現し、同様の相手の話を理解できるようになる。練習問題に適切に答えることができる。 ③訓練：単語・動詞・数字の小テストで十分な点をとることができる。										
学修者への期待等	授業で指示された単語リストや動詞を覚えて小テストに臨み、それらを次回の会話で使えるように練習してください。授業内では積極的に発音・会話練習に参加し、授業後はモデル会話を復習して学んだ表現を毎回ノートにまとめてください。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	動詞の活用と数字の復習。7課(1) 学習：モデル会話「時刻の表現」、疑問詞quel。グループワーク(以下練習)：時刻を言う。トレーニング(以下訓練)：発音、聞き取り。				事前学修：後期最終回で指示された課題を解く 事後学修：会話文と時刻の表現を復習する				30	30	
2	7課(2) 学習：モデル会話「何時に?」、ir動詞の活用。練習：いつかを尋ねる。訓練：語彙、発音、聞き取り。				事前学修：行動の語彙を覚える 事後学修：会話文と練習問題を復習する				30	30	
3	7課(3) 学習：モデル会話「何を?」、疑問詞「何を」、faireの活用。練習：何をするか尋ねる。訓練：活用、発音、聞き取り。				事前学修：動詞の活用を覚える 事後学修：7課を復習して課題を解く				30	30	
4	8課(1) 学習：モデル会話「予定・したいこと」、近接未来、allerの活用。練習：乗り物を言う。訓練：活用、発音、聞き取り。				事前学修：動詞の活用を覚える 事後学修：会話文と近接未来を復習する				30	30	
5	8課(2) 学習：モデル会話「終えたこと・できること」、近接過去、venirの活用。練習：やったことを言う。訓練：活用、聞き取り。				事前学修：動詞の活用を覚える 事後学修：会話文と近接過去を復習する				30	30	
6	8課(3) 学習：モデル会話「理由・痛い所を言う」、avoirを使った表現。練習：理由を言う。訓練：語彙、発音、聞き取り。				事前学修：乗り物と体の部位の語彙を覚える 事後学修：8課を復習して課題を解く				30	30	
7	9課(1) 学習：モデル会話「日常の行動」、代名動詞、指示形容詞。練習：行動を言う。訓練：語彙、発音、聞き取り。				事前学修：代名動詞の意味を覚える 事後学修：会話文と代名動詞の用法復習				30	30	
8	9課(2) 学習：モデル会話「天気を言う」、非人称表現。練習：時の表現を使う。訓練：活用、発音、聞き取り。				事前学修：動詞の活用を覚える 事後学修：9課を復習して課題を解く				30	30	
9	10課(1) 学習：モデル会話「場所を言う」、定冠詞の縮約。練習：位置を伝える。訓練：語彙、発音、聞き取り。				事前学修：建物の語彙を覚える 事後学修：会話文と縮約形を復習する				30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
10	10課(2) 学習：モデル会話「道順を教える」、命令形。練習：行き方を指示する。訓練：語彙、発音、聞き取り。	事前学修：位置を示す語彙を覚える 事後学修：道順の表現を復習する	30	30
11	10課(3) 学習：モデル会話「道順を教える」、命令を表す他の表現。練習：場所を示す。訓練：語彙、発音、聞き取り。	事前学修：表現の音を覚える 事後学修：10課を復習して課題を解く	30	30
12	11課(1) 学習：モデル会話「過去のことを言う1」、複合過去形1。練習：過去形を使う。訓練：活用、発音、聞き取り。	事前学修：動詞の活用を復習する 事後学修：会話文と複合過去形を復習する	30	30
13	11課(2) 学習：モデル会話「様々な否定表現」、否定表現、中性代名詞en。練習：代名詞enを使う。訓練：発音、聞き取り。	事前学修：過去分詞の意味を覚える 事後学修：11課を復習して課題を解く	30	30
14	12課(1) 学習：モデル会話「過去のことを言う2」、複合過去形2。練習：過去形を使う。訓練：活用、発音、聞き取り。	事前学修：性数一致の仕組みを覚える 事後学修：会話文を復習する	30	30
15	表現と数字の確認小テスト実施。12課(2) 学習：中性代名詞y。練習：代名詞yを使う。訓練：表現、発音、聞き取り。	事前学修：表現の意味や音を復習する 事後学修：会話文と代名詞を復習する	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、訓練、練習）			
教科書	『やさしいサリュ（改訂版）Salut、 tout facile』田辺保子 他著、駿河台出版社、1800円＋税、ISBN978-4-411-00835-0			
参考文献	仏和辞書（電子辞書も含む）。授業で使い方の案内を聞いた後、必要な場合は購入してください。			
備考	【小テスト】実施後に解答解説し、採点結果を次の回で返却する。関わる達成目標は③、評価の基準は解答の正確性100%。 【各課の課題および特別課題】添削して次の回で返却する。関わる達成目標は①②、評価の基準は解答の適切さ50%、理解度50%。 【確認小テスト】実施後に解答解説する。関わる達成目標は①③、評価の基準は解答の正確性100%。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-4-ESE-10				
		●								
科目名	TOEIC II				単位認定者	相田 明子		授業内課題等 (単語テスト等)	10 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等 (ふりかえり テスト、2回)	50 %
							授業時間数		30 時間	受講態度(発表 等)
				授業形態	演習	授業回数			15 回	TOEIC® L&R IP *備考欄を参照
授業の概要	「TOEIC I」で扱った内容をさらにレベルアップし、TOEIC® Listening and Reading Test (TOEIC® L&R) において高得点 (600点以上) を取得するために、リスニング、リーディング、文法、語彙に関する総合的な英語力をブラッシュアップすることを目的とする。TOEICテスト特有のスピードとボリュームに慣れるため、多くの問題演習を行う。									
到達目標	TOEIC® L&R 試験において頻出される問題形式やトピックに取り組み、得意分野と苦手な部分を分析したうえで集中的に演習問題をこなすことで、600点突破を目指します。									
学修者への期待等	スコアアップにつなげる効果的な学習をするために、予習や練習、課題を確実にこなして授業に臨んでください。苦手な部分を克服し得意分野を更にのばすことができるよう、目標スコアを定め、集中して演習問題や発表にとりくみましょう。尚、テキストはTOEIC® L&Rで600点突破を目標とするレベルに設定されています。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	授業の概要を確認する Unit 1. Daily Life Part 1~4を中心に組み、Part5~7は予習を前提に、解答を解説する				事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ				60	30
2	Unit 2. Travel Part 1~4を中心に組み、Part5~7は予習を前提に、解答を解説する (単語テストは毎回)				事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ				60	30
3	Unit 3. Eating Out Part 1~4を中心に組み、Part5~7は予習を前提に、解答を解説する				事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ				60	30
4	Unit 4. Shopping Part 1~4を中心に組み、Part5~7は予習を前提に、解答を解説する				事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ				60	30
5	Unit 5. Entertainment Part 1~4を中心に組み、Part5~7は予習を前提に、解答を解説する				事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ				60	30
6	Unit 6. Housing Part 1~4を中心に組み、Part5~7は予習を前提に、解答を解説する				事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ				60	30
7	Unit 7. Office Part 1~4を中心に組み、Part5~7は予習を前提に、解答を解説する				事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ				60	30
8	Unit 8. Meetings Part 1~4を中心に組み、Part5~7は予習を前提に、解答を解説する ふりかえりテスト(1)				事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ				60	30
9	Unit 9. Clients Part 1~4を中心に組み、Part5~7は予習を前提に、解答を解説する				事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ				60	30
10	Unit 10. Events Part 1~4を中心に組み、Part5~7は予習を前提に、解答を解説する				事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ				60	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	Unit 11. Sales & Marketing Part 1～4を中心に組み、Part5～7は予習を前提に、解答を解説する	事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ	60	30
12	Unit 12. Employment Part 1～4を中心に組み、Part5～7は予習を前提に、解答を解説する	事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ	60	30
13	Unit 13. Media Part 1～4を中心に組み、Part5～7は予習を前提に、解答を解説する	事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ	60	30
14	Unit 14. Technology Part 1～4を中心に組み、Part5～7は予習を前提に、解答を解説する	事前学修：テキストの予習 事後学修：語彙や表現の確認、まとめ	60	30
15	ふりかえりテスト(2)とフィードバック	事前学修：ふりかえりテストの準備 事後学修：語彙や表現の確認	60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 練習、発表 ）			
教科書	『New Heights For The TOEIC® L&R TEST』 Robert Hickling 他、 National Geographic Learning, ISBN978-4-86312-433-2			
参考文献	授業中に指示する			
備考	受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。小テスト等のフィードバックはその都度、授業内に行う。遅刻は授業開始10分以内とする。*TOEIC IPテストは学内で実施予定、スコアの換算法については初回授業で説明する。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CE-4-ESE-09				
	●	●								
科目名	STEP II				単位認定者	小松 義隆		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	現代英語学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目は、専門基礎科目で学修しているリスニング、リーディング、文法、語彙に関する基礎力を再確認しながら、総合的な英語力を定着させることを目的とする。授業では、実用英語技能検定の過去問題を活用し、特に語彙、文法、リーディングに関する学修を行う。反復練習を繰り返し、英語力を強化することにより、実用英語検定試験受験への意欲を高めていく。</p>									
到達目標	<p>準1級からは時間との闘いが厳しくなる。①語彙の増強は必要不可欠だが、文脈から推測するなど文章の中で単語を理解できるようになる。②長文問題は読み返している時間がないので、パラグラフの構成を意識しながら(ディスコースマーカー(Discourse Marker)などのヒントも駆使し)必要な情報を正確かつ迅速に見つけ出すことができる。③リスニングの長さや話し手の多さに惑わされず、正確に情報を把握することができる。</p>									
学修者への期待等	<p>英検準1級の過去問題集を使用する。必ず対応箇所の予習復習を行うこと。特に予習時は実際の試験時に各問題に割り当てる目安の時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてみること。授業時は辞書などを必ず用意すること。各自で英検の試験の申し込みを行い、受講後に自分の英語力を確認することを強く勧める。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業の導入 2025年度 第2回英検準1級過去問題演習①(問題1)				事前学修：各自テキストを準備しておく。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。			0	30	
2	2025年度 第2回英検準1級過去問題演習②(問題2-1～2-2)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。			60	30	
3	2025年度 第2回英検準1級過去問題演習③(問題3-1～3-2)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。			60	30	
4	2025年度 第1回英検準1級過去問題演習①(問題1)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。			60	30	
5	2025年度 第1回英検準1級過去問題演習②(問題2-1～2-2)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。			60	30	
6	2025年度 第1回英検準1級過去問題演習③(問題3-1～3-3)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。			60	30	
7	2024年度 第3回英検準1級過去問題演習①(問題1～2-1)				事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。			60	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
8	2024年度 第3回英検準1級過去問題演習② (問題2-2～3-2)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
9	2024年度 第2回英検準1級過去問題演習① (問題1～2-1)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
10	2024年度 第2回英検準1級過去問題演習② (問題2-2～3-2)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
11	2024年度 第1回英検準1級過去問題演習① (問題1～2-1)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
12	2024年度 第1回英検準1級過去問題演習② (問題2-2～3-2)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
13	2023年度 第3回英検準1級過去問題演習① (問題1～2-2)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
14	2023年度 第3回英検準1級過去問題演習② (問題2-3～3-3)	事前学修：該当範囲を実際の試験時間を意識しながら、辞書を使わずに解いてくる。 事後学修：修得した語彙や表現を記録し復習を行うこと。	60	30
15	まとめ(ライティング、リスニング、二次面接に関する説明など)	事前学修：実際の試験進行のイメージトレーニングをする。また英検のHPをみて2次試験の進行に関してのガイダンスを見しておく。 事後学修：説明を聞き実際の試験に備えること	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(演習、イメージトレーニング)			
教科書	『2026年度版 英検 準1級 過去6回全問題集』旺文社英検書 2026(※2026/2/26発売予定)(ISBN: 9784010951057)			
参考文献	なし			
備考	内容の進捗によってシラバスの内容を変更することがあります。 状況により、遠隔授業になる場合があります。 フィードバックは授業内にて解答解説時に行います。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

現代英語学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

現代英語学科のナンバリングの見方

【例】CE-1-○○○-01

CE	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	①

① 学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

現代英語学科：CE

② 科目レベル

教養科目：0

専門基礎科目：1

専門展開科目：2

関連科目：3

演習科目：4

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野	人間と文化	HCU	Human & culture
	人間と社会	HSO	Human & society
	人間と科学	HSC	Human & science
専門基礎科目		EBA	English Basics
専門展開科目		EAD	English Advanced
関連科目		RCO	Related Course
演習科目		ESE	English Seminar *英語以外の演習科目もあるが、現代英語学科設置の演習科目としてひとくくりに扱う

④ 連続番号

半角数字2桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

授業科目の名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
法律入門	CO-0-HSO-04
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

2024年度以降入学生科目ナンバリング

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化 0 HCU	日本語表現法	CO-0-HCU-01
		World Mythology	CE-0-HCU-03
		歴史と文化	CE-0-HCU-03
	人間と社会 0 HSO	心理学	CE-0-HSO-01
		法律入門	CO-0-HSO-04
		現代の社会	CO-0-HSO-03
		Critical Thinking	CE-0-HSO-02
	人間と科学 0 HSC	情報処理	CO-0-HSC-01
		数理リテラシー	CE-0-HSC-01
専門教育分野	専門基礎科目 1 EBA	Oral Communication I	CE-1-EBA-01
		Oral Communication II	CE-1-EBA-02
		Listening I	CE-1-EBA-03
		Listening II	CE-1-EBA-04
		Reading I	CE-1-EBA-05
		Reading II	CE-1-EBA-06
		Grammar I	CE-1-EBA-07
		Grammar II	CE-1-EBA-08
	専門展開科目 2 EAD	Oral Communication III	CE-2-EAD-01
		Oral Communication IV	CE-2-EAD-14
		Listening III	CE-2-EAD-10
		Listening IV	CE-2-EAD-15
		Reading III	CE-2-EAD-03
		Reading IV	CE-2-EAD-07
		Business Communication	CE-2-EAD-02
		Essay Writing	CE-2-EAD-04
		Business Writing	CE-2-EAD-16
		Speaking Skills I	CE-2-EAD-17
		Speaking Skills II	CE-2-EAD-18
		Extensive Reading	CE-2-EAD-06
		English for Tourism	CE-2-EAD-08
		Chorus English	CE-2-EAD-09
		English through Plays	CE-2-EAD-11
		英米文学概論	CE-2-EAD-19
		英語史概論	CE-2-EAD-20
		Vocabulary Building	CE-2-EAD-21
		Teaching English to Children	CE-2-EAD-22
British Studies	CE-2-EAD-23		

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
専門 教育 分野	専門展開科目 2 EAD	American Studies	CE-2-EAD-24
		International Studies	CE-2-EAD-25
		海外研修	CE-2-EAD-12
	関連科目 3 RCO	ビジネスプロトコール	CE-3-RCO-01
		秘書実務	CE-3-RCO-06
		観光ビジネス論	CE-3-RCO-04
		エアラインサービス	CE-3-RCO-05
		フランス語 I	CE-3-RCO-07
フランス語 II	CE-3-RCO-08		
演習 分野	演習科目 4 ESE	キャリア形成演習 I	CE-4-ESE-05
		キャリア形成演習 II	CE-4-ESE-06
		基礎ゼミ	CE-4-ESE-02
		TOEIC I	CE-4-ESE-08
		STEP I	CE-4-ESE-09
		TOEIC II	CE-4-ESE-10
		STEP II	CE-4-ESE-11

2026年度以降入学生科目ナンバリング

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教養 教育 分野	人間と文化 0 HCU	日本語表現法	CO-0-HCU-01
		World Mythology	CE-0-HCU-03
		歴史と文化	CE-0-HCU-03
	人間と社会 0 HSO	心理学	CE-0-HSO-01
		法律入門	CO-0-HSO-04
		現代の社会	CO-0-HSO-03
		Critical Thinking	CE-0-HSO-02
	人間と科学 0 HSC	情報処理	CO-0-HSC-01
		数理リテラシー	CO-0-HSC-02
	専門 教育 分野	専門基礎科目 1 EBA	Oral Communication I
Oral Communication II			CE-1-EBA-02
Listening I			CE-1-EBA-03
Listening II			CE-1-EBA-04
Reading I			CE-1-EBA-05
Reading II			CE-1-EBA-06
Grammar I			CE-1-EBA-07
Grammar II			CE-1-EBA-08

	科目区分	授業科目の名称	ナンバリング
専門教育分野 専門教育分野	専門展開科目 2 EAD 専門展開科目 2 EAD	Oral CommunicationⅢ	CE-2-EAD-01
		Oral CommunicationⅣ	CE-2-EAD-14
		Oral CommunicationⅣ	CE-2-EAD-14
		ListeningⅢ	CE-2-EAD-10
		ListeningⅣ	CE-2-EAD-15
		ReadingⅢ	CE-2-EAD-03
		ReadingⅣ	CE-2-EAD-07
		Business Communication	CE-2-EAD-02
		Essay Writing	CE-2-EAD-04
		Business Writing	CE-2-EAD-16
		Speaking Skills I	CE-2-EAD-17
		Speaking Skills II	CE-2-EAD-18
		Extensive Reading	CE-2-EAD-06
		English for Tourism	CE-2-EAD-08
		Chorus English	CE-2-EAD-09
		English through Plays	CE-2-EAD-11
		英米文学概論	CE-2-EAD-19
		英語史概論	CE-2-EAD-20
		Vocabulary Building	CE-2-EAD-21
		Teaching English to Children	CE-2-EAD-22
		British Studies	CE-2-EAD-23
		American Studies	CE-2-EAD-24
		International Studies	CE-2-EAD-25
		海外研修	CE-2-EAD-12
	海外研修（個人）	CE-2-EAD-26	
	認定留学	CE-2-EAD-27	
	関連科目 3 RCO	ビジネスプロトコール	CE-3-RCO-01
秘書実務		CE-3-RCO-06	
観光ビジネス論		CE-3-RCO-04	
ホスピタリティ論		CE-3-RCO-09	
フランス語Ⅰ		CE-3-RCO-07	
フランス語Ⅱ		CE-3-RCO-08	
演習分野	演習科目 4 ESE	キャリア形成演習Ⅰ	CE-4-ESE-05
		キャリア形成演習Ⅱ	CE-4-ESE-06
		基礎ゼミ	CE-4-ESE-02
		TOEICⅠ	CE-4-ESE-08
		STEPⅠ	CE-4-ESE-09

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
演習分野	演習科目 4 ESE	TOEICⅡ	CE-4-ESE-10
		STEPⅡ	CE-4-ESE-11
		TOEICⅢ	CE-4-ESE-12

現代英語学科 学科教員一覧

	職位	氏名	研究室	電話番号	E-mail
1	教授 (学科長)	アイダ アキコ 相田 明子	相田 研究室	022-395-5942	a_aida@seiyogakuin.ac.jp
2	教授	ジョーンズ ドミニク JONES DOMINIC	ジョーンズ 研究室	022-302-5490	d_jones@seiyogakuin.ac.jp
3	特任教授	スズキ カズキ 鈴木 一樹	鈴木 研究室	-	kz_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
4	准教授	コマツ ヨシタカ 小松 義隆	小松 研究室	022-302-5584	y_komatsu@seiyogakuin.ac.jp

現代英語学科 実務経験を有する教員一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
法律入門	2	鈴木 一樹	公認会計士として上場企業等の法定監査、税理士として税務業務に従事。
ビジネスプロトコール	2	加藤 雅子	元大手航空会社CA、CA教官。 接遇マナー、研修業務等の会社の代表。
キャリア形成演習 I	1	大和田 裕佳	現在キャリア関係会社にて勤務。大企業、中小企業等の民間、行政で勤務等10年以上の実務経験を持つ。
キャリア形成演習 II	1	加藤 雅子	元大手航空会社CA、CA教官。 接遇マナー、研修業務等の会社の代表。
秘書実務	2	細川 久美子	2011年より、株式会社総務部門での実務を担当しつつ、現在、人事・教育サービス会社の取締役。
観光ビジネス論	2	鎌田 貢治	40数年旅行会社に在籍していた経験を活かし、様々な体験を随時伝えていきたい。
ホスピタリティ論	2	浦沢 みよこ	留学カウンセラー歴35年、留学エージェント経営30年、大学等でキャリア、ビジネスの講師経験。資格：キャリアカウンセラー、総合旅行業務取扱管理者。
	12	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	62	設置基準上の標準単位数	

2026（令和8）年度 現代英語学科 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室内にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。